

# 国立国語研究所学術情報リポジトリ

## Zenkoku Hougendanwa Database [Japanese Dialect Database] : Volume 4 Ibaraki and Totigi

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-10-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 国立国語研究所, The National Institute for Japanese Language メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.15084/00002244">https://doi.org/10.15084/00002244</a>

全国方言談話データベース

# 日本のふるさとことば集成

第4巻 茨城・栃木

国立国語研究所資料集 13-4

国立国語研究所

2002

国書刊行会

## 刊行のことば

昭和52年度から昭和60年度にかけて、「各地方言収集緊急調査」という全国規模での方言談話の収録事業が、文化庁によって実施されました。調査は、各都道府県教育委員会と連携のうえ、各地の方言研究者が全面的に協力して行われました。国立国語研究所は、文化庁の要請により、この調査の計画段階から、指導・助言などにかかわっていました。その後、時を経て、この調査によって収録された膨大な録音テープと文字化原稿は、文化庁から国立国語研究所に移管されました。

これらの資料は、方言の使用実態を解明する貴重なデータであるとともに、急速に失われつつある各地の伝統的方言を、文化財として記録・保存するという意味においても意義のあるものです。そこで、国立国語研究所では、受け継いだ資料を有効に利用するために、方言談話の大規模なデータベースを作成し、公開するという計画を開始しました。平成8～12年度には「方言録音文字化資料に関する研究」で、平成13年度からは「日本語情報資源の形成と共有のための基盤形成」の一環として、全国方言談話データベースの作成と公開に取り組んできました。また、データベース化にあたっては、平成9年度から科学研究費補助金研究成果公開促進費（データベース）の交付を受けています。従来にはあまりなかった、音声と文字化の電子化データを備えていますので、研究や教育に活用いただけることと思います。なお、本資料集の作成については、情報資料部門第一領域の井上文子が担当しました。

「各地方言収集緊急調査」の録音・文字化にあたっては、全国の研究者の方々が献身的に御尽力くださいました。話者として、多くのみなさまから御協力を得ました。また、各都道府県教育委員会の関係者、および、有志の御助力がありました。刊行にあたって、記して深く感謝の意を表します。

平成14年6月

国立国語研究所長 甲 斐 睦 朗

## 利用にあたって

### 1. 内容

この書籍（冊子、CD-ROM、CD）には、以下のものを収録しています。

	冊子	CD-ROM	CD
刊行のことば	○	○	
利用にあたって	○	○	
目次	○	○	

#### 茨城県水戸市1982

地図	○	○	
話者・担当者	○	○	
解説	○	○	
凡例	○	○	
談話	○	○	
<b>【薬草と病気】</b>			
文字化・共通語訳	○		
文字化・共通語訳 pdf+方言音声 wave（ページ単位）		○	
文字化・共通語訳検索 FileMaker		○	
文字化 text（談話全体）		○	
共通語訳 text（談話全体）		○	
方言音声（談話全体）			○
注記	○	○	

#### 栃木県日光市1979

地図	○	○	
話者・担当者	○	○	
解説	○	○	
凡例	○	○	
談話	○	○	

【狐のいたずら，昔の祝儀，遊び，正月行事，浪曲師】			
文字化・共通語訳	○		
文字化・共通語訳 pdf+方言音声 wave (ページ単位)		○	
文字化・共通語訳検索 FileMaker		○	
文字化 text (談話全体)		○	
共通語訳 text (談話全体)		○	
方言音声 (談話全体)			○
注記	○	○	

作成・公開の経緯

「各地方言収集緊急調査」について	○		
「各地方言収集緊急調査」地点一覧	○		
「各地方言収集緊急調査」地点地図	○		
各地方言収集緊急調査補助全体計画	○		
各地方言収集緊急調査費国庫補助要項	○		
各地方言収集緊急調査実施要領	○		
各地方言収集緊急調査の実施について	○		
調査実施上の留意事項について	○		
「全国方言談話データベース」について	○		

Adobe Acrobat Reader		○	
----------------------	--	---	--

音声データ仕様：サンプリング周波数22.050kHz，量子化ビット数16bit，  
waveファイル，ステレオ

CD-ROM は、CD プレイヤーで再生しないでください。CD プレイヤーが壊れることがあります。

本データベース編集にあたっては、個人のプライバシー等に配慮しました。談話データの中には、現在では、その使用が好ましくないとされるような表現が含まれている場合もあり得ますが、学術的・歴史的資料の保存という観点から、そのまま収録しました。この点にご配慮のうえ、お使いください。

## 2. 著作権

この冊子、CD-ROM、CDに収録されているデータの著作権は、国立国語研究所にあります。

## 3. 利用条件

利用にあたっては、以下の利用条件をすべて守ってください。

- (1) 国立国語研究所の著作権を侵害するような行為はしないでください。
- (2) この冊子、CD-ROM、CDに収録されているデータは、どのような目的においても、また、どのような媒体（紙、電子メディア、インターネットを含む）によっても、他人に再配布しないでください。
- (3) この冊子、CD-ROM、CDに収録されているデータは、非営利の教育・研究目的に限り、自由に利用できます。ただし、上記(2)は守ってください。
- (4) この冊子、CD-ROM、CDに収録されているデータを利用した成果物を公表する場合は、  
「国立国語研究所が作成した『全国方言談話データベース』を利用した。」  
などのように、明記してください。  
あわせて、成果物を国立国語研究所にご寄贈いただければさいわいです。
- (5) 以上の利用条件に合致しない場合、あるいは、利用について不明な点がある場合は、国立国語研究所に問い合わせてください。

連絡先：〒115-8620

東京都北区西が丘3-9-14

国立国語研究所 情報資料部門

「全国方言談話データベース」係

FAX：03-3906-3530

## 4. 付記

データの電子化、CD-ROM、CDの作成については、平成9(1997)～14(2002)年度科学研究費補助金研究成果公開促進費(データベース)の交付を受けています。

全国方言談話データベース
日本のふるさとことば集成
第4巻 茨城・栃木

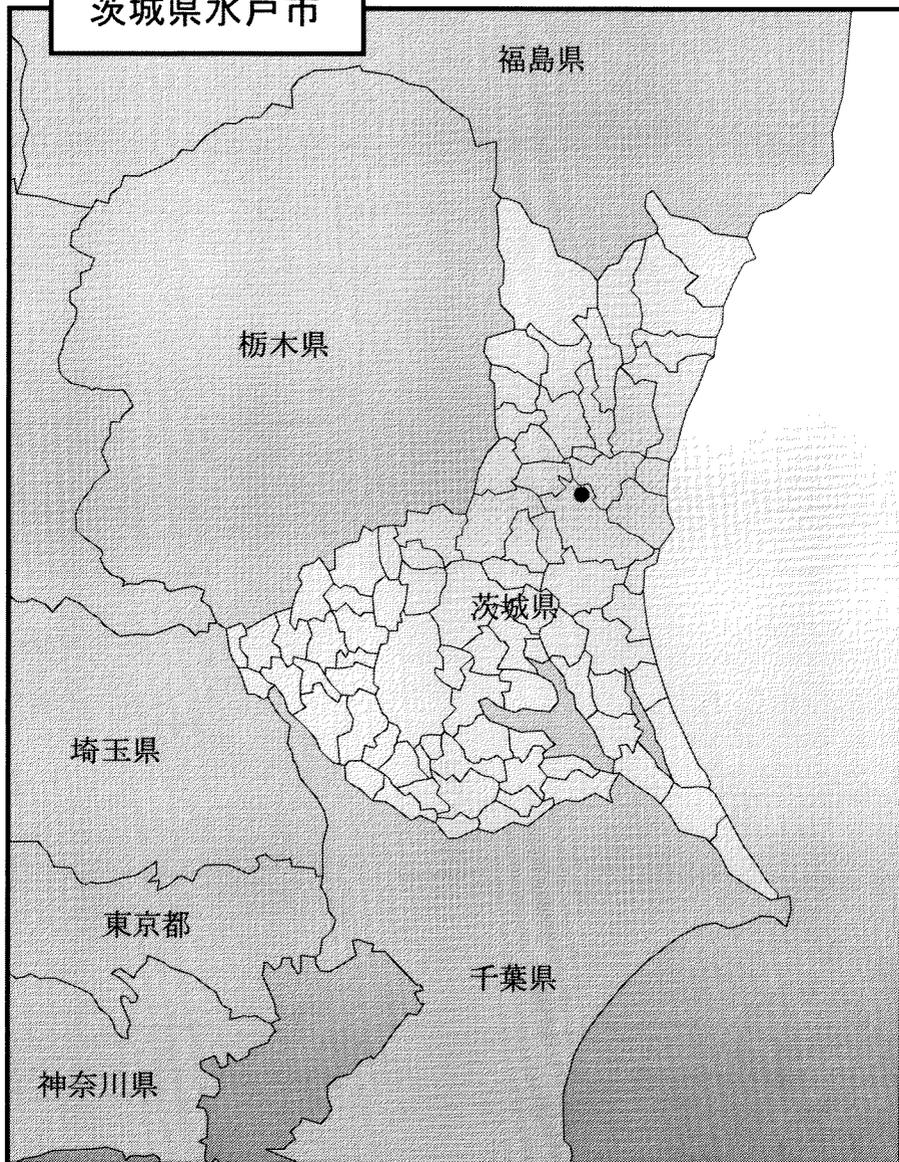
目次

刊行のことば	3
利用にあたって	5
I. 茨城県水戸市1982	11
地図	12
話者・担当者	13
解説	14
凡例	20
談話	25
【薬草と病気】	26
注記	115
II. 栃木県日光市1979	117
地図	118
話者・担当者	119
解説	120
凡例	125
談話	131
【狐のいたずら、昔の祝儀、遊び、正月行事、浪曲師】	132
注記	213
作成・公開の経緯	219
「各地方言収集緊急調査」について	221
「各地方言収集緊急調査」地点一覧	225

「各地方言収集緊急調査」地点地図	230
各地方言収集緊急調査補助全体計画	231
各地方言収集緊急調査費国庫補助要項	232
各地方言収集緊急調査実施要領	233
各地方言収集緊急調査の実施について	236
調査実施上の留意事項について	238
「全国方言談話データベース」について	244

I. 茨城県水戸市  
1982

茨城県水戸市



福島県

栃木県

茨城県

埼玉県

東京都

千葉県

神奈川県

## 茨城県水戸市1982話者・担当者

### 「各地方言収集緊急調査」

話者	菌部こと 菌部虎男
収録担当者	今瀬文也
文字化担当者	今瀬文也
共通語訳担当者	今瀬文也
解説担当者	今瀬文也

(敬称略 項目別50音順)

### 「全国方言談話データベース」

編集担当者	佐藤亮一 江川清 田原広史 井上文子
編集協力者	合津美穂 鳥谷善史 熊谷康雄

## 茨城県水戸市1982解説

### 収録地点名

茨城県水戸市<sup>みとしかみくにいちろう</sup>上国井町

(旧・茨城県那珂郡国田村大字上国井)

### 収録地点の概観

#### 位置

上国井町は、かつて那珂郡の南部に位置し、北は旧・芳野村（現・那珂町）に、東は旧・五台村（現・那珂町）と旧・柳河村（現・水戸市）に相對し、西は旧戸多村（現・那珂町）に、南は那珂川を隔てて旧・飯富村（現・水戸市）に隣接している。

#### 交通

旧・水戸より旧・静村に至る道路の里程約4.3km余り、下国井は旧・国田村の中央にあり、そこから東南方に2.16km余りで、旧・柳河村大字上河内を経て、白河街道に合するもののほか、数条の道路がある。交通手段としては、水戸駅から下江戸（那珂郡那珂町）行きのバスが通っており、およそ1時間、上国井で下車する。昔は、那珂川を越すのに渡船があり、これが唯一の交通路でもあった。

#### 地勢

旧・芳野村、および、旧・五台村に接する部分が高地になっているほかは、大部分が平坦で、人家は平地に点在し、南を流れる那珂川は源を栃木県那須郡那須山に発し、旧・国田村を流れる里程は約5.5kmである。

#### 行政区画

旧・国田村は、田谷、下国井、上国井からなり、昔は常陸国那珂郡に属し、国井保と称した。平安時代には国井郷となり、その後、河内郷に属し、上国井、下国井は阿川台畑、中畑と称した。承平年間、国井村と改称し、文治年中にそれを分けて、上国井、中国井、下国井の三村となり、後に上国井、下国井の二村になった。田谷については不明。

1878(明治11)年の郡区編成の際、上国井村、下国井村の2か村は芳野村大字飯田と合して、下国井村ほか2か村の組合村となり、田谷村は柳河村大字上河

内、中河内、下河内の3大字と合して中河内村ほか3か村の組合村となった。1889(明治22)年2月15日、従前の村を分合し、国田村と称し、村名は大字下国井、田谷、上国井となった。1957(昭和32)年6月1日、町村合併促進法により水戸市と合併、今までの大字は、下国井町、田谷町、上国井町となった。

### 戸数・人口

1982(昭和57)年10月1日現在、世帯数240戸、人口1,011人で、前年よりも、21戸、20人の減となっている。

### 産業

大部分が農業を営み、米づくりが盛んである。

## 方言の特色

### 方言区画上の位置・隣接諸方言との関係

茨城方言は福島県・栃木県の方言に似たところが多い。特にこの地域は一型アクセントの地域で、無アクセントともいわれている。総体的に語調が強く、話がはずむと、尻上がりのことばになりやすいのも茨城方言の特徴である。

茨城方言は、県北方言、浜言葉方言、県中央方言、霞ヶ浦北浦周辺方言、県南西方言、利根流域方言などに分けて考えられる。そう大きな違いはないが、「坂」を例にとると、「サカ」、「サカ°」、「サガ」などと地域によって特色が現れる。

県北方言には、「メンコイ(かわいい)」、「オドメ(赤ちゃん)」、「カンブラ(じゃがいも)」、「タツペ(霜柱)」など、東北方言に属する福島県中通りの方言と共通した語もみられる。

県央である水戸地方のことばも、他の地域の方言と大差はないが、「ペーペーことば」、「ペーペーことば」にその特色がみられる。

### 音韻

(1) 「イ」と「エ」が混同する。「茨城」は「イバラキ」でも「エバラキ」でもなく、「イ」と「エ」の中間音で発音されるのが特徴である。

(2) 「シュ」、「ジュ」は「シ」、「ジ」になりやすい。

例 シュジン(主人) → シジン

(3) 連母音の「アイ」は「エー」になる場合が多い。

(4) 語中・語尾のカ行子音・タ行子音の有声化がみられる。

例 カキ (柿) → カギ  
マト (的) → マド  
ミカタ (味方) → ミガダ  
ブタ (豚) → ブダ  
ワタ (綿) → ワダ

(5) 語中のジ、ズ、ビ、ブの音がカ、タの前にあるとき、無声化する場合がある。

例 短い → ミチカイ  
1時間 → イチチカン

(6) 活用語尾「る」が助詞「から」、「と」などに続くとき、促音便となることが多い。

例 イマ 帰ッカラ 待ッテロ  
雨カ° 降ッカラ 行カナイ  
オレカ° 受ケッカラ  
雨カ° 降ット イー  
コレオ 受ケット イー  
起キット イー  
ソースット

(7) 無アクセントのため、「箸」と「橋」と「端」、「雨」と「飴」、「火にあたる」と「日にあたる」などが同じ発音となる。

## 文法

(1) 五段活用動詞の「死ぬ」は「死ク°」、「行く」は「行ク°」で、「カ°行」で活用する場合が多い。

「死ぬ」は、「死カ°ナイ」、「死キ°マス」、「死ク°」、「死ク°トキ」、「死ケ°バ」、「死ケ°」、「死コ°ウ」となり、「行く」は、「行カ°ナイ」、「行キ°マス」となる。

(2) カ行変格活用動詞「来る」は、「キナイ」、「キタ」、「キル」、「キル(人)」、「キレバ」、「(早く)コ」となる。上一段活用化の傾向が強い。

(3) サ行変格活用動詞「する」は、「シナイ」、「シタ」、「シル」、「シレバ」、「シ

ロ」となる。上一段活用化の傾向が強い。

- (4) 形容詞連用形に「ない」が続く場合、次のようになる。

例 暑くない → アツカナイ  
寒くない → サムカナイ  
うまくない → ウマカナイ

- (5) 形容動詞仮定形「～なら」は、「～ダラ」となることが多い。

例 丈夫ならば → ジョーブダラバ

- (6) 断定の助動詞「だ」の仮定形「なら」を「ダラ」という。

例 映画ダラ 見よう  
朝ダラ 見られる

- (7) 使役の助動詞「させる」を「ラセル」という。

例 見させる → ミラセル  
受けさせる → ウケラセル

- (8) 推量・意志の助動詞として、「べ」、「ぺ」などを用いる。

例 ヨカンべ (いいだろう)  
ソウダンべ (そうだろう)  
アンダッべ (あるだろう)  
ナカッべ (ないだろう)  
カグべ (書こう)  
ヤメッぺ (やめよう)

- (9) 過去の助動詞「た」に「ケ」をつけて用いる。

例 シカラレタッケ (叱られた)  
ワラワレタッケ (笑われた)

- (10) 格助詞「が」、「を」を省くことが多い。

例 風が 吹いてきた → 風\_\_ 吹イテキタ  
水を 飲んだ → 水\_\_ 飲ンダ  
パンを 食べた → パン\_\_ 食ベタ

- (11) 格助詞「に」、「へ」にあたるところに、「サ」を用いる。

例 上に のせる → 上サ ノセル  
水戸へ 行く → 水戸サ 行ク°

(12) 格助詞「より」とともに「ヨッカ」, 「ヨカ」も用いる。

例 犬ヨッカ ネコカ° イイ  
ナシヨカ リンコ°カ° ウマイ

(13) 格助詞「に」を「ン」とする場合も多い。

例 むだに なった → ムダン ナッタ  
水に なる → ミズン ナル

(14) 「カ°ナ」, 「カ°ン」で「~のもの」を表す。

例 ダレカ°ナダ (誰のものだ)  
オレカ°ンダ (俺のものだ)

(15) 程度や分量を示す副助詞として「カ°ナ」がある。

例 ソレオ 100円ガナ クレヨ。(それを100円ぶんくれよ。)

(16) 副助詞「ばかり」にあたるところに、「バカシ」, 「バッカシ」を用いる。

例 風バカシ 吹ク。(風ばかり吹く。)  
小言バッカシ ユー。(小言ばかり言う。)

(17) 副助詞「さえ」にあたるところに「サカエ」を用いる。

例 立ッテサカエ トドカネー。(立ってさえ届かない。)

(18) 終助詞「ケ」, 「ド」, 「ソー」などを用いる。

例 ホントーニ ソーデスケ。(ほんとうにそうですか。)  
イクラ 頼ンデモ ダメダド。(いくら頼んでもだめだよ。)

## 語彙

(1) 代名詞「ワダクシ」, 「ワダシ」, 「オンレ」, 「オラ」, 「オラー」, 「オメエ」, 「テメー」, 「キサマ」, 「エシ」などを使う。「テメー」, 「キサマ」, 「エシ」には、相手を軽蔑する気持ちが含まれている。

(2) 接頭語には「オン」, 「ウン」, 「イケ」, 「ヒン」, 「ブツ」など、接尾語には「コ」, 「メ」などがある。

例 オンノメル (埋める)  
ウンノメル (埋める)  
イケズルイ (ずるい)  
ヒンダス (出す)  
ブツパタク (なぐる)

スミコ (隅)

メドコ (穴)

馬メ (馬)

犬メ (犬)

(以上の解説は、基本的に、「各地方言収集緊急調査」当時の報告原稿によるものである。)

## 茨城県水戸市1982凡例

談話資料は、方言談話音声、方言談話音声の文字化、方言談話の共通語訳から成る。CD-ROMには、ページ単位で切った方言談話音声を、CDには、方言談話音声全体を収録した。

### 文字化と共通語訳

方言談話音声の文字化はカタカナで表記し、方言談話の共通語訳は、漢字かなまじりで表記した。方言談話音声の文字化と共通語訳とは、対照ができるように、上下2段を1組として示した。上段が文字化、下段がその共通語訳である。

文字化については、表音的カタカナ表記を用いている。つまり、長音は「ー」で示し、助詞「は」は「ワ」、助詞「を」は「オ」、助詞「へ」は「エ」と表記する。「カ°」「キ°」「ク°」「ケ°」「コ°」はガ行鼻濁音を表す。

また、分かち書き、句読点などは、便宜的なもので、厳密なものではない。「各地方言収集緊急調査」における、方言談話音声の文字化の方法は、後に掲げる「調査実施上の留意事項について」などに詳しく記されている。ただし、今回、「全国方言談話データベース」として公開するにあたり、文字化・共通語訳を整備する際には、当時のマニュアルにはとらわれず、読みやすさ、意味のとりやすさを優先して処理をした部分がある。

また、この文字化は、時間の流れを忠実に反映することを意図していない。したがって、発話の重なりや、複線的な会話の進行の構造が、文字化からは読み取れない。データを使用する際には、文字化・共通語訳を見るだけでなく、実際に、音声を聞いて判断していただきたい。

### 発話単位

ひとりの話者が続けて話している、話者が交替するまでの連続した発言を1発話とする。途中にあいづちが入る場合もある。

### 発話番号 〈半角〉

発話の通し番号を、各発話の話者記号の前に付した。

例：1A

## 話者記号 〈全角〉

話者、調査者など、談話の場にいる人物について、A、B、C、D、E、F、……のように、アルファベットで示した。

例：1A

## 固有名詞

話者および一般の人名については、文字化・共通語訳の該当個所を、A、B、C、X1、X2、X3などのアルファベットに置き換えた。話者、調査者など、談話の場にいる人物については、A、B、C、D、E、F、……のように示し、話題の中の第三者については、X1、X2、X3、……のように示した。ただし、音声は、該当個所に加工をしなかった。

歴史上の人物や、有名人の人名については、記号に置き換えることはせず、個人名を出すことにした。また、会社名、店名、製品名などについても、発言されたとおりに記している。

地名については、そのまま扱うことにした。

## 記号

### 。(句点) 〈全角〉

ポーズがあって、意味的にひとつのまとまりを持つ文と考えられる個所。

共通語訳については、実際の発話でポーズが置かれていないところでも、意味の取りやすさを優先してつけた場合もある。

例：ソーデス      ソーデス

そうです。      そうです。

### 、(読点) 〈全角〉

基本的に息をついた個所、または、ポーズのある個所。

共通語訳については、実際の発話でポーズが置かれていないところでも、意味の取りやすさを優先して読点をつけた場合もある。

また、文字化と対応しなくなっても、読みやすさを優先して、取り去った場合もある。

例：シ、ヤクシヨ

市役所

? 〈全角〉

上昇イントネーションと判断した個所。

例：アズケトイテ？

預けておいて？

( ) 〈全角〉

あいづち。ひとりの人が連続して話している時にさえぎったり、口をはさんだりした個所。

(A ……) のように、開き括弧の次にあるアルファベットは、発言している話者を示す。( ) の閉じ括弧の直前の句読点は省略した。

なお、( ) 内のあいづちと、独立した発話扱いされているあいづち的発話との違いは必ずしも明確ではない。

例：(A アー ソーデスカ)

{ } 〈全角〉

笑，咳，咳払い，間，などの非言語音。

例：{笑}

{咳}

{手を叩く音}

××× 〈全角〉

言い間違いや言い淀みなど。

例：ム ム ムツカシー

× × 難しい

\*\*\* 〈全角〉

聞き取れない部分。

例：オチャズケノ\*

お茶漬けの\*

//// 〈全角〉

対応する共通語訳が不明な部分。

例：モーゼーノ モジナンデスナ、

////// 「文字」なんですね。

[ ] 〈全角〉

方言音声には出てこないが、共通語訳の際に補った部分。

例：ミカン ノセテ  
みかん [を] 乗せて

= 〈全角〉

[ ] 内の=は、意味の説明や、意識であることを示す。

例：イマ ユー  
今 いう [=今話題にあがった]

| | 〈全角〉

注意書きなど。

例：| Aに対して|

[ ] 〈全角〉

注記。方言形の意味・用法、特徴的音声などについて説明し、文字化・共通語訳の後にまとめてある。[ ] 内の半角数字は、注記の番号を示す。

例：ホシツキサンのオモチ [1]

## 音声

CD-ROMには、冊子のページ単位で区切った方言音声の wave ファイルを収録している。冊子のページを pdf ファイルにしたものに、方言音声をクリックさせていて、各ページにある 再生 の部分をクリックすると、そのページの音声を聞くことができる。

CDには、談話全体の音声を収録している。以下にあげるように、適当な個所で、トラックに区切っている。

## CDトラック番号

文字化・共通語訳のヘッダは、方言音声を収録した CD のトラック番号を示している。「茨城01-1」は CD トラック番号が01で、その1ページ目ということである。「茨城01-1」「茨城01-2」……「茨城01-7/02-1」……「茨城13-6」のように表示される。

また、文字化・共通語訳部分には、CD のトラックの切れ目を表示した。矢印の部分がトラックの切れ目を表し、その両側の数字はトラック番号である。

↑01，01↑02，……12↑13，13↑ のように表示される。

第4巻のCD（73分33秒）には、茨城県水戸市の談話、【薬草と病気】の全体の音声を収録している。各トラックの開始ページ・行，終了ページ・行，時間は下記のとおりである。行は，文字化の行を表示した。

トラックNo.	開始ページ・行	終了ページ・行	時間:分:秒
01	p.26・0.1	p.32・0.9	0:02:59
02	p.32・0.9	p.38・0.17	0:03:01
03	p.38・0.19	p.46・0.7	0:03:02
04	p.46・0.9	p.52・0.15	0:03:01
05	p.52・0.15	p.60・0.9	0:03:00
06	p.60・0.11	p.69・0.1	0:03:04
07	p.69・0.1	p.76・0.9	0:03:05
08	p.76・0.9	p.84・0.13	0:03:02
09	p.84・0.13	p.91・0.3	0:03:05
10	p.91・0.5	p.97・0.5	0:03:04
11	p.97・0.7	p.102・0.15	0:03:01
12	p.102・0.17	p.109・0.17	0:03:06
13	p.109・0.19	p.114・0.15	0:02:20
計			0:38:50

## 茨城県水戸市1982談話

収録地点 茨城県水戸市<sup>みとしまきくにいちろう</sup>上国井町  
(旧・茨城県那珂郡国田村大字上国井)

収録日時 1982(昭和57)年10月14日

収録場所 茨城県水戸市上国井町 藪部平四郎氏宅

話題 薬草と病気

話者

A	男	1904(明治37)年生	(収録時78歳)	農業
B	女	1907(明治40)年生	(収録時75歳)	農業

調査員

C	男			歴史館研究員
---	---	--	--	--------

収録時間 (CD) 38分50秒

【薬草と病気】

話し手

- A 男 明治37年生 (収録時78歳)  
B 女 明治40年生 (収録時75歳)  
C 男 (調査員)

1A : ヤクソーネ マー ニカ°トーヤク [1].

薬草ね まあ センブリ。

↑01

2B : ゲンノショーコ、ネ

ゲンノショウコね。

3A : ン ゲンノショーダナ?

うん ゲンノショウコだな?

4B : カゴソー [2] ナンドモ イーンダネ? ンー。

カゴ草なんかも いいんだね? んー。

5A : アンマリ ソノー ンー ソーユー ナニワー アー

あんまり その ンー そういう ことは あー

ムカシノ シトニ キーテネーカラナ。 (B ン)

昔の 人に 聞いてないからな。 (B うん)

ゲンノショートカ エー イマノー (B ニカ°トーヤク)

ゲンノショウコとか えー 今の (B センブリ)

茨城 01-2

ニカ° トーヤクトカ アー (B ンー)  
センブリとか あー (B うん)

アー イマノ モチク°サオ ナン チューケ?  
あー 今の モチ草を 何 というの?

アレ アレモ イーンダカラ。  
あれ あれも いいんだから。

6C : ヨモキ°。  
ヨモギ。

7B : ヨモキ°。 ヨモキ°。  
ヨモギ。 ヨモギ。

8A : ヨモキ°。 ン、 ン。  
ヨモギ。 ん、 ん。

9B : ワタシラガー (A {咳}) ネ ウチノ オバサンラワ  
私達が (A {咳}) ね うちの おばさんたちは

アノー ヒヤグイロク°サ ッテ ドヨーノ ウシノヒ、  
あの 百色草 という 土用の 丑の日

(A ウーンダ) ニワネ アノー ヒヤグイロク°サオ  
(A うーん) にはね、 あの 百色草を

トリニ イッテ イロイロ ヒヤグイロ トンデスヨ。  
とりに 行って いろいろ 百色 [を] とるんですよ。

茨城 01-3

イロイロー ヤマサ イケ°バ イマワ コレ  
いろいろ 山に 行けば 今は これ

ヒコージョー [3] カ° アー ヒコージョーニ ナッチャッタカラ  
飛行場が あー 飛行場に なってしまったから

ヤマモ ナクナッチャタカラネ?  
山も なくなってしまったからね、

ヒヤグイロク°サモ トレナイケドモ  
百色草も とれないけれども

ヒコージョーガ デキナイコロワ ヒヤグイロク°サ ッテ  
飛行場が できないころは 百色草 って

ソノー カコ° ショッテ イロイロナ クサ ナンデモ マ  
その 籠 [を] しょって いろいろな 草 何でも ま

カゴソードカ ヒヤグイロク°サダカラ マー アー ナンダローネ  
カゴ草とか 百色草だから まあ あー なんだろうね

マツデモ カマワネー スキ°デモ カマワネー  
松でも かまわない 杉でも かまわない

(A シ ヒヤグイロダカラ) タケデモカマワネー

(A うん 百色だから) 竹でもかまわない

マー ヒヤグイロ アレバ カマワネーデスヨ。

まあ 百色 あれば かまわないですよ。

茨城 01-4

ソンデ イロイロ トツテ ヒトマルキ マルツテ カゴ°サ イレ  
それで いろいろ とつて 1束に 束ねて 籠に 入れ、

マダ イロイロ トツテ カゴ°サ イレシテ カゴ°サ イツパイ  
また いろいろ とつて 籠に 入れて 籠に いっぱい

ヒヤグイロ マー イロイロ トレバ アンデスヨネ。  
百色 まあ いろいろ とれば あるんですよ。

ソンデ センダン [4] ノミナンドモ イーンデスヨネ、 アレ。  
それで センダンの実なども いいんですよ、 あれ。

(A ン センダン ン)

(A ん センダン うん)

センダンノミ ソレカラー カゴ°ソーダ。  
センダンの実 それから カゴ草だ。

ア ナン ツツテ ユーノカ。  
あ 何 といつて いうのか。

10A : ドヨーノ ウシノヒ ッテ ユーンダナ アレワ。  
土用の 丑の日 と いうんだな、 あれは。

11B : ソー ドヨーノ ウシノヒニネ イッテー  
そう 土用の 丑の日にね 行って、

カゴ°サ イツパイ ヒヤグイロク°サオ トツテキテ  
籠に いっぱい 百色草を とつてきて、

茨城 01-5

ソレオ コー ドヨーボシニ ホシテ  
それを こう 土用干しに 干して、

ヨグ カワイタ トコロ コンダ アギニ ナツテ  
よく 乾いた ところ [に干して]、 今度 秋に なって

(A {咳}) シゴトカ° ダイタイ ナツト

(A {咳}) 仕事が だいたい [に] なる

ソノ ホシタノオ オユデー ヨグ ニダテテ  
その 干したのを お湯で よく 煮立てて、

ソスツト オユニシテ ハイツタンデスヨネ? ヨグ。  
そうすると お湯にして 入ったんですね? よく。

12A : ユオ タテテ ヘーツタ。  
湯を 立てて 入った。

13B : ユオ タテテ (A ン一) オユニシテ アノー センビョー \*\*  
湯を 立てて (A ん一) お湯にして あの 千病 \*\*

マンビョーノクスリダナンテ ヒヤグイロク°サトリ ヨク  
万病の 薬だなんて 百色草とり [に] よく

マイートシ ドヨーノ ウシノヒニワ イツテ ソンナ クサオ  
毎年 土用の 丑の日には 行って、 そんな 草を

トツタンデス。 イロイロ トレバ ヒヤグイロク°サグライ  
とったんです。 いろいろ とれば、 百色草ぐらい

茨城 01-6

アンデスヨネー。 エー マツトカ スキ°トカ アー マー  
あるんですよね。 えー 松とか 杉とか あー まあ

ゲンノショーコトカ カコ°ソートカ タンポボトカ ネ? マー  
ゲンノショウコとか カゴ草とか タンポポとか ね? まあ

ナン ツッテ イーカ イマー ア ワスレツチャッタケド  
何 といつて いいのか 今 あ 忘れちゃったけど、

イロイロナ クサカ° アンデスヨ ノハラエ イケ°バ。  
いろいろな 草が あるんですよ、 野原へ 行けば。

14C : ソレ ミンナ マゼツチャンデスカ。  
それ みんな 混ぜてしまうんですか。

(A ン マゼツチャ) マゼチャウ {息を吐く音}  
(A ン 混ぜてしまう) 混ぜてしまう {息を吐く音}

15B : ゴッタマゼニ マゼテ ソシテ トツテ \*\* テサ  
ごた混ぜに 混ぜて、 そして とつて \*\* 手に

イッパイニナット コ マルツテ カコ°サ イレテ ソシテ  
いっぱいになると こう 束ねて、 籠に 入れて、 そして

マタ コー アルイテ イロイロナ クサオ トツテ マタ  
また こう 歩いて、 いろいろな 草を とつて、 また

マルツテ イレテ カコ°サ イッパイ トツテキテ、 ソシテ  
束ねて 入れて、 籠に いっぱい とつてきて、 そして

茨城 01-7/02-1

オヒルマイク°ライ カカルンデスヨネ、 トンノカ°。  
お昼前ぐらい [まで] かかるんですよ、 とるのが。

ソシテ ソレオ ニワサ イッパイ ホシテオイテ カワクト  
そして それを 庭に いっぱい 干しておいて、 乾くと

マー アガーク カワクンデスヨネー。  
まあ 赤く 乾くんですよ。

ソスット ソレオ アノー ニダデテ カマデ  
そうすると それを あの 煮立てて 釜で

オーカ°マデ ニダデテ ソレオ オユニ タテテ  
大釜で 煮立てて それを お湯に たてて

[01↑02]

ハイッタコトカ° アルンデスヨ。  
入ったことが あるんですよ。

ソレカ° アノ マンビョーノ クスリデ  
それが あの 万病の 薬で

アノー マー オユ オユサー ムカシダカラ  
あの まあ お湯 お湯に。 昔だから

アノー オンセンナンカサ ソンナニ イカナイデー  
あの 温泉なんかには そんなに 行かないで、

ソンナノ タテテ ハイッタンデスネ ヨーク。  
そんなの [を] たてて 入ったんですね よく。

茨城 02-2

16A : ソ \*\* ムカシデ イエバ ナン テ ユーカナ イマノー  
そ \*\* 昔で 言えば 何 と いうのかな 今の

カデン テ ユーノワ ソーユー ナニカ° アンダ ネーケ?  
家伝 と いうのは そういう 何か あるのでは ないかな。

カデンノ クスリ ッテ ユーノワネ。  
家伝の 葉 と いうのはね。

17C : \*\* ソレワ ドヨー ト ユーノワ ナニカ。  
\*\* それは 土用 と いうのは 何か。

18B : ドヨーノ ウシノヒダカラ。 (C ン)  
土用の 丑の日だから。 (C うん)

19A : \*\* ドヨー ドヨーノ ドヨーニワ ホレ エー  
\*\* 土用 土用の 土用には ほら えー

ウシノヒ ッチューノカ° アリアンショ  
丑の日 っていうのが ありましよう。

ソノヒニ トッタホーカ° イー ッテ コトナンダネ。  
その日に とったほうが いい って ことなんだね。

20B : ドヨーニ ウナキ° (A {笑}) タベテナンテ ユーヨーナ  
土用に うなぎ [を] (A {笑}) 食べるなんて いうような

ワケデスヨ。 (A ヤッパリ) マーネ。  
わけですよ。 (A やっぱり) まあね。

茨城 02-3

21A : マー ソーユー ワケナンダッペナ。  
まあ そういう わけなんだろうな。

22B : ソーユーワケデ (A ンー ウシノヒ ッツーンダ)  
そういうわけで (A んー 丑の日 というのだ)

ドヨーノ ウシノヒニワ アー カナラズ ヤマサ イッテ  
土用の 丑の日には あー 必ず 山に 行って、

ヒヤグイロク°サ トリニ ユクンデスヨ。  
百色草 [を] とりに 行くんですよ。

ソンデ カコ° イッパイ トッテキテ  
それで 籠 いっぱい とってきて、

イロイロナ クサカ° アンデスヨネ。  
いろいろな 草が あるんですよ。

マー ヒヤグイロ トンダカラ マー ナンデモ カマーネ  
まあ 百色 [を] とるんだから、 まあ 何でも かまわず

アタリ バッターリ トンナケリヤ ヒヤグイロ ナイカラネ  
あたり ぱったり とらなければ 百色 [は] ないからね、

ソンデ。  
それで。

23C : オ オボエテマスカ ソノー ド ドンナノ トッテキタカ。  
× 覚えていますか、 その × どんなの とってきたか。

茨城 02-4

24B : ソノ クサノ ナマエモ ナニモ ワカンネーデスヨ  
その 草の 名前も 何も わからないですよ、

イマデワ (A \* ナマエマデワ チョット ハーネ)  
今では。 (A \* 名前までは ちょっと。 もうね)

チョットネ  
ちょっとね。

25A : シ マー。  
ん まあ。

26B : \*\*\* ナクナツチャタツカラ ヤーノ ヤマモ  
\*\*\* なくなってしまったから ××× 山も

(A {咳} ンー {手を叩く音}) ノハラモ ゼンブ ホレ  
(A {咳} んー {手を叩く音}) 野原も 全部 ほら

ヒコージョーニ ナツチャッタデショーヨ。  
飛行場に なってしまったでしょうよ。

ンダカラー イマ イマワ トンネーデスネ。  
だから 今 今は とらないですね。

27A : イマワ ホドント トンメー。  
今は ほとんど とらない。

28B : イマワ トンナイネ。 (A ン) ムカシワ トッテ  
今は とらないね。 (A ん) 昔は とって、

茨城 02-5

ヨク アノー オユニ。 ンー  
よく あの お湯に。 んー

29A : イマデモ ジッコーシテンノワ アー ナンダネッゲ  
今でも 実行しているのは あー 何じゃない

ゲンノショーダネーケ?  
ゲンノショウコじゃないの?

30B : ソー ゲンノショーコワ (A ンー コレワ) ハラクダリニ  
そう ゲンノショウコは (A んー これは) 腹下りに

(A ン) イー ッテ ゲンノショーニ アノ ナンデスネ?  
(A ん) いい って。 ゲンノショウコに あの なんですか?

アノー イマノ ナン ツーケ。  
あの 今の 何 と言うのか。

31A : \* ネッコネ ネッコオ トッテ、 エー \*\*。  
\* 根っこね、 根っこを とって、 えー \*\*。

32B : \*\* アレ ジゴクソバ ドグダミ (A ドグダミ) ドグダミ  
\*\* あれ ジゴクソバ ドクダミ (A ドクダミ) ドクダミ

アレワ イーンデスネ、 ドグダミワ。  
あれは いいんですね、 ドクダミは。

33A : ン アレワ ハラクダリニワ イーンダ。  
ん あれは 腹下りには いいんだ。

茨城 02-6

34B : アレワ ドグダミワ アー ネプト ハレモノーデモ ナンデモネ?  
あれは ドクダミは あー ねぶと 腫れ物でも 何でもね、

アノ ハオ コー カサネデ ヤグド ドローツ シンデスヨネ。  
あの 葉を こう 重ねて 焼くと、 だろつと するんですよ。

アノ ドグダミノ ハオ コー カサネテ コーシテー アノー  
あの ドクダミの 葉を こう 重ねて こうして あの

コーゾ [5] ガミナンカ カミサ ツーツ クルンデ  
楮紙などの 紙に ツーツと くるんで、

ソシテ イロリノ ハタサ コー ヤグド、  
そして いろいろの 端で こう 焼くと、

アレカ° アノ トローツ ハカ° トロトロニ ヤケンノ。  
あれが あの とろつと 葉が とろとろに 焼けるの。

ソンデ ネプト ハレモノサ ハツトネ ウムニシテモ カルク  
それで ねぶと 腫れ物に 張るとね、 膿んでも 軽く

ウワッカサ ウンデ アレカ° クスリダ チューコトデ  
上のほうが 膿んで、 あれが 葉だ ということ

ヨッパラー ヤッタコトモ アンデスヨ?  
たくさん やったことも あるんですよ。

ソレガラ ミミダレグサ [6] ダナンテネ。 (A ンー)  
それから ミミダレ草だなんて [いうのもあつて] ね。 (A んー)

アレモ アツタンデスヨ。 イロイロナ クサカ° アツタ。  
あれも あったんですよ。 いろいろな 草が あった。

イマ マー ソンナニ クサモ (A {鼻をすする音})  
今 まあ そんなに 草も (A {鼻をすする音})

ホカシテ オカネーガラ。  
ほって おかないから。

35A : ウーン イマワ ココエラデワ \*\*\*  
うーん 今は この辺りでは \*\*\*

36B : イマワ トルシトカ° ナイデスネ。  
今は とる人が ないですね。

37A : コノ ンー ミドノホーサ イッテー ロージンカイナンドデ  
この んー 水戸のほうに 行って、 老人会などで

ヤルッテ アツバツテミル ッチュート ソ ヤクソー  
やるって 集まってみる というと × 薬草 [を]

ツグッテル トコロカ° アンデスヨネ? (C ハー) ン  
作っている ところが あるんですよ。(C はあ) ん

ゼンブ ソーユー ヤクソーオ ツグッテ エー ヤッテットゴロカ°。  
全部 そういう 薬草を 作って えー やっているところが。

02↑03

ヤクソーワ タシカニ エー イーノワ イーンダカ°  
薬草は 確かに えー いいのは いいんだが、

茨城 03-2

ナガナガ アレモ ン ソダテル チューコトワ メンドーダガラネ。  
なかなか あれも × 育てる ということは めんどうだからね。

ウン。

うん。

38C : アレ イチジ クコナンカカ° ハヤッタデショーヨ。  
あれ 一時 クコなんかが はやったでしょう。

39B : エー (A ンー アレワー ン) イチジワ クコカ° アッテ  
えー (A んー あれは ん) 一時は クコが あって、

ウジノシタニワ (A アレワ シッ エー) タクッサン  
うちの下 [の畑] には (A あれは ×× えー) たくさん

アッタндаカ°ネ。 イマワ ヒトツキリ ネッコマデ ホジクッテ  
あったがね。 今は 一時は 根っこまで 掘って

モッテチャッタカ° マタ フェマシタヨ? (C ア)  
持っていてしまったが、 また 増えましたよ。 (C あ)

ウジノシタニワ (A イマワ ホドント トッテネーネ)  
うちの下 [の畑] には (A 今は ほとんど とっていないね)

イマワ タクッサン (A {咳}) ウジノシタニ デテマスヨ、  
今は たくさん (A {咳}) うちの下に 出ていますよ、

クコカ°。 エー。

クコが。 えー。

茨城 03-3

40C : アレワ オチャニシタッテ イーンデショーヨ。  
あれは お茶にしたって いいんでしょう。

41A : マー アレ (B アレワー) ナニサ イッタンダツケ? アレ。  
まあ あれ (B あれは) 何に いいんだったか、 あれ。

シンケーツーク?  
神経痛かな?

42B : シンケーツークズアズサ イーンダ。  
神経痛、 血圧に いいんだ。

43A : ケズアズ。  
血圧。

44B : イマデワ ケズアズニ イー。  
今では 血圧に いい。

45A : マ ヒトツキリワ ホトント ナクナッタカラネ? ココ。  
ま 一時は ほとんど なくなったからね、 ここ。

46B : ナクナッチャタンデスヨ。 (A ン)  
なくなってしまったんですよ。 (A ん)

ホト ホトント (A ン ン) モー トーグノホーカラ  
×× ほとんど (A ん ん) もう 遠くのほうから

(A マー トッチャツ) ネットコマデ ホツテ トッチャツテネ。  
(A まあ ×××××) 根っこまで 掘って とってしまっぺね。

茨城 03-4

ソンデ ワダシー ヤッパリー ウー ウエウエ ウジノシタ  
それで 私 やっぱり ×× ×××× うちの下 [の畑に]

チョード イマ ウジノシタサ イッパイ マタ  
ちようど 今 うちの下 [の畑] に たくさん また

フエチャッテ イッパイ アンデスヨ? イマワ。  
増えてしまって、 たくさん あるんですよ。 今は。

47A : ダカラ イマデモネ、 エー ソノ シンメカ° (B シンメカ°)  
だから 今でもね、 えー その 新芽が、 (B 新芽が)

ハルンナッテ シンメカ° デット (B コー デット) コノ  
春になって、 新芽が 出ると、 (B こう 出ると) この

デル ツツー ソレ ツンデ  
出る という [と]、 それ [を] 摘んで

(B タベテモ オイシンデスヨ) タベンデスヨ。  
(B 食べても おいしいんですよ) 食べるんですよ。

48B : \*\* アレワ ケズアズノ クスリデネ?  
\*\* あれは 血圧の 薬だね。

49A : オイシンデスヨ、 ゴクレバ。  
おいしいんですよ、 // // //。

50B : オイシンデスヨ? エー。 (A ン) クコメシダナンカッテ  
おいしいんですよ。 えー。 (A ん) クコ飯だなんかって

茨城 03-5

タイデ タベテモ オイシンドスヨ、 アレワ。  
炊いて 食べても おいしいんですよ、 あれは。

51A : チョット ニカ°ミワ アンカ°ネ。  
ちょっと 苦味は あるけどね。

52B : エー (A ン) イマ フェマシタ クコカ°。  
えー (A ん) 今 増えました、 クコが。

53C : テンプラモ イーンデスヨ、 アレ。  
てんぷら [に] も いいんですよ、 あれ。

54B : アー (A テン\*\*) テンプラモ イーデスカ。  
あー (A てん\*\*) てんぷらも いいですか。

アー ナンノ スソワ アノ シソワ テンプラニネ、 アノ  
あー なんの シソは あの シソは てんぷらにね、 あの

シソノミデモ ハデモ テンプラニワ アレ イーンデスヨネー エー。  
シソの実でも 葉でも てんぷらには あれ いいですよ、 えー。

55C : アト ユキノシタ [7] ッテ ユーノカ° イーンデスヨ、 アレ。  
あと ユキノシタ と いうのが いいんですよ、 あれ。

56B : アー ソンナノモ アルンデスカ? クサ。  
あー そんなのも あるんですか 草。

57C : ヤッパ テンプラニ。  
やっぱり てんぷらに。

茨城 03-6

58B : ドンナ クサデスカ (A ユキノシタ ッテ ユーノワ)  
どんな 草ですか (A ユキノシタ と いうのは)

ユキノシタナンテ クサワ。 アタシラ ミダコトネーカ°。  
ユキノシタなんて 草は。 私達 [は] 見たことないが。

59C : ユギノシタ ッテ イワナイカナ ココデワ。 ソンジャ。  
ユキノシタ って 言わないかな、 ここでは。 それじゃあ。

60B : イワナイ (A {咳})  
言わない。 (A {咳})

アノ ケーロッパ [8] トカ ッテ ユーノワ アルッケドモネ。  
あの カエルッパとか と いうのは あるけれどもね。

61C : ケーロッパワ アルゲド。 (B エー) アノ。  
カエルッパは あるけれど。 (B えー) あの。

62B : ケーロッパダ タンポボダ。  
カエルッパだ、 タンポボだ。

63C : シタニ スコシ コー シロイノカ° トケ°ミタイノカ°  
下に 少し こう 白いのが とげみたいのが

コッ デテンノ。 (A {息を吸う音} アレー)  
× 出ているの。 (A {息を吸う音} あれ)

ユキノシタ ッテ (A アノー) ソノヘンノ コ チョット  
ユキノシタ って (A あの) そのへんの × ちよっと

茨城 03-7

コー ンー シメッタトコ デッテルヨーナンデ。  
こう んー 湿ったところ [に] 出ているようなので。

64B : アー (A ンー) ンデ アノー コー ムラサキノ ハナカ°  
あー (A んー) それで あの こう 紫の 花が

サクヤツカ° ソレワ チカ°イマスカ？  
咲くやつが それは 違いますか。

65A : ウジデ デテー モラッテー ウシロサ ウエタノカ°ー ソーカナー。  
うちで 出て もらって うしろに 植えたのが そうかな。

センセーニー モラッテ ウエタンダヨ。 コレカ° コノ  
先生に もらって 植えたんだよ。 これが この

ケアーロッパミタイニ ズート オーキク ナルンダヨネ。  
カエルッパみたいに ずっと 大きく なるんだよね。

(C アー ソラ チカ°ウ) ソースット ソレオ テンブラニ  
(C あー それは 違う) そうすると それを てんぶらに

(C アー ソーナン) テンブラニ アケ°ット ウマインダヨネ？  
(C あー そうなん) てんぶらに あげると うまいんだよね。

(B ンー) ン ウシロニー アンダ？ フタツカブヅク°ライ。  
(B んー) ん 後ろに あるんだ。 2株ぐらい。

66B : アー アレカ° ソーカイ。  
あー あれが そうかい。

67A : シー。

うん。

68C : ダイタイ クサ ッテノワ クスリニ ナツタリー  
だいたい 草 っつのは 薬に なったり

タバラレタリ スルンデスヨネ ナンデモネ。  
食べられたり するんですよ なんでもね。

69A : ウーン マー。

うーん まあ。

70B : \*\*\* セリネ (C シ セリ) (A シ) セリナンドモー  
\*\*\* セリね (C ん セリ) (A ん) セリなんかも

アレワ (A {笑}) アー オイシンデスヨネ。 エー ダ  
あれは (A {笑}) あー おいしいんですよ。 えー ×

ホトント セリモ イマ タベナグナツタネー ヒトツキリホドワ。  
ほとんど セリも 今 食べなくなったねえ 一時ほどは。

71A : マー ココデワ タベネーガ セリオ ショーバイニ ツグッテ  
まあ ここでは 食べないが、セリを 商売に 作って

ダシテ イル シトダケ アンダカラ。  
出して いる 人だって あるんだから。

72B : アンダカラネー。

あるんだからねえ。

73A : セリワ イーンダ。

セリは いいんだ。

74B : セリデモ (A ン) ヨモキ°デモ ナンデモ

セリでも (A ン) ヨモギでも 何でも

(A ンー ナンデモネ) ココラワ デッカラ イグラデモ

(A ンー なんでもね) このあたりは 出るから いくらでも

トルギナラ トレンデスヨ。 エー。

とる気なら とれるんですよ。 えー。

03↑04

75A : ヨモキ° エー ニワ シンケーツーノ オー クスリニナル ト ユー

ヨモギ えー には 神経痛の ×× 薬になる と いう

ソレオ キカネーチャットンダヨ、 アレオ カンコ°フニネ。

それを 聞かなかったんだよ、 あれを 看護婦にね。

ワタシワ エー キータンダカ° ソレオ ホシテ エー

私は えー 聞いたんだが、 それを 干して えー

ユニ タテンノカ アー ソノママ イレテ、 タテンノカ

湯に たてるのか、 あー そのまま 入れて、 立てるのか

キカネーガラ ワカンネ。

聞かないから [=聞かなかったから] わからない。

76B : デ ホスダローヨ。 ソノママデワ ダメダカラ。

× 干すだろうよ。 そのままでは だめだから。

茨城 04-2

77A : ナーニ \*\* ソレオ キカネーチャッタカラ ダメナンナー。  
なに \*\* それを 聞かなかったから だめなんだなあ。

ンー。

んー。

78B : アレ ヨモキ°ワネ アノ ヤッパリ サカリニ トッテ ソシテ  
あれ ヨモギはね あの やっぱり 盛りに とって そして

アノー ユデテ ホシテ コナニシテ アノー \*\*

あの 茹でて 干して 粉にして、 あの \*\*

レーゾーコサ イレチョコト イツデモ  
冷蔵庫に 入れておくと、 いつでも

(A エー イツデモ コレワ モチコ°ー \*\*)

(A えー いつでも これは もちご \*\*)

モジク°サモジワ タベレンノ \*\*

モチ草もちは 食べられるの \*\*

79A : タベラレル ワケナンダカ°ネ。

食べられる わけなんだがね。

コ シンケーツニー イー チューコトワ (B ン)

× 神経痛に いい ということは (B ん)

アー カンコ°フサンニ キイタコトカ° アンノ

あー 看護婦さんに 聞いたことが あるの。

茨城 04-3

ン コレワ ジジヅー イーラシンダヨ?  
ん これは 事実 いいらしいんだよ。

80B : ン イー アレワ アノー \*\* (A ン)  
ん いい。 あれは あの \*\* (A ん)

モチク°サナンツーノ ゲンリョーワ アー ヨモキ°ダ ッテワ  
モチ草なんかの 原料は あー ヨモギだ とは

ユツテネ。  
いってね。

81C : ソーダッペ?  
そうだろう。

82B : エー。 (A ン)  
えー。 (A ん)

83C : トケ° トケ°ナンカカ° ハイッタトキニワ  
とげ、 とげなんかが 刺さったときには、

ナンカ ツケンデスカ ヤッパリ ツケナイノ?  
何か つけるんですか やっぱり つけないの?

トケ° トケ°ナンカ トチャット、 ヌグダゲ、 トケ°。  
とげ、 とげなんか とってしまおうと 抜くだけ、 とげ。

84A : ウーン トケ° ヌクノニワ チョットナ コリヤー  
うーん、 とげ [を] 抜くには ちょっとね これは

茨城 04-4

(B {笑}) クスリデワ。

(B {笑}) 薬では。

ココニ アノー コーノス [9] ニネ? (C ン)

ここに あの 鴻巣にね、 (C ン)

エー トゲヌキノ クスリ ッテ ユー カデンオ

えー とげ抜き の 薬 と いう 家伝を

ダシテットコロカ° アンデスヨ。

出しているところが あるんですよ。

(C ホー) (B ン) コレワ ワダヘースケ [10] カ?

(C ほう) (B ン) これは 和田平助か

ノ オー ナンダッテー エー ユーケドネ。

の おー 何だって えー いうけどね。

コレワ アノー キリーダカ ナンダカ モシタ アー クロイコナデ

これは あの 桐だか なんだか 燃した あー 黒い粉で

ノミニクイネ ゴソゴソシテネ。

飲みにくいね ごそごそしてね。

85B : コレワ トゲヌキノ クスリ ッテ (A ン)

これは とげ抜き の 薬 というのは (A ン)

キッテ ハンダヨネ。

切って 貼るんだよね。

茨城 04-5

86A : イヤ アー ハッテモ イーシ ノンデモイー。  
いや あー 貼っても いいし、 飲んでもいい。

87B : ソレオ ウッカリ コカ° ッシャンダヨネ。  
それを うっかり こがしてしまうんだよね。

コカ° ッシャッテ マックロニ ナッチャンデスヨネ。  
こがしてしまって 真っ黒に なってしまうんですね。

(A {咳} イヤ) ソレオ ウッテテ トケ°ヌキサノオ

(A {咳} イヤ) それを 売っていて、 とげ抜きさんを

ソノ トケ°オ ハリオ サシテモ ナンデモ ソノ  
その とげを 針を 刺しても なんでも その

クスリオ ナカ°ク ノンデット ハリカ° デルソーデスヨ？  
薬を 長く 飲んでいると、 針が 出るそうですよ。

88A : \* シ コレワ (B エ) ワタシワ ノンダコトカ° アンデス。  
\* × これは (B え) 私は 飲んだことが あるんです。

コノー ココカ° ホレ コー ハレチャッタンダネー。  
この ところが ほら こう 腫れてしまったんだね。

\* シッケツシッチャッタンデ ンデー ダレーカカ°

\* 出血してしまっただ、 それで 誰かが

トケ°ヌキノ クスリオ カッテキテネ (B シ)

とげ抜きの 薬を 買ってきてね、 (B ん)

茨城 04-6

ノンデミロ ッツンデ エー ソレ ノンダラ ヤッパリ  
飲んでみる というので えー それ [を] 飲んだら、 やっぱり

(B デルサー) イーモネ。

(B 出るさあ) いいものね。

89B : デルソーデスヨ? (A ン コレワ \*\*\*) ソレワ トケ°ワ  
出るそうですよ。 (A ン これは \*\*\*) それは とげは

ハリナンカ サシテオイテ。

針なんか 刺しておいて。

90A : コーノスニ アンデス。  
鴈巢に あるんです。

91B : ハリナンカ サシテオイテ ソンデ  
針なんか 刺しておいて、 それで

ナンダカ ココカ° イデー イデー ッテ ユーノデ  
なんだか ここが 痛い 痛い と 言うので、

(A {咳}) ジャ ドコカニ (A コレワ サケデー ノメバ  
(A {咳}) じゃ どこかに (A これは 酒で 飲めば、

ナオリ イー ッテ ユンダカ°ネ)  
治り [が] いい と いうんだがね)

トケ°デモ ササッテイダカ°ラ \*\*\* トケ°ヌキノ  
とげでも 刺さっていたから \*\*\* とげ抜き

クスリ ノンデミナ ッテ。(A ン) ノンダラバネ  
葉 [を] 飲んでみな っテ。(A ン) 飲んだらね、

ソノ ハリカ° コー イクラカ クロク ミエテキタ  
その 針が こう いくらか 黒く 見えてきた

ッテ ユー ハナシオ キギマシタヨ。  
と いう 話を 聞きましたよ。

(A ン) トケ°ヌキサシ ッテ (A コレー アノー)  
(A ン) とげ抜きさん っテ (A これ あの)

ソレワ マックロ スミノヨーナ クスリナンデスヨネ。  
それは 真っ黒 [な] 炭のような 薬なんですよね。

92A : アレワ ナンダカ カデンダカラ ワガンネーガラ。  
あれは なんだか 家伝だから わからないから。

(B アレワー カデンダカラネー) {息を吸う音}  
(B あれは 家伝だからねえ) {息を吸う音}

エー マー スミッカシノ ヨーナンダワネ。  
えー まあ 炭のかすの ようなんだね。

04↑05

93B : ソー スミッチャシノ コワシタヨーナ コマカナ コナデ  
そう 炭のかすの 壊したような 細かな 粉で

ソレワ オサケデ ノムソーデスヨネ。  
それは お酒で 飲むそうですよね。

茨城 05-2

94A : チジ [11] ノコナダ ッテ ユー シトモ アンダカ°ネ。  
チチの粉だ と いう 人も あるんですがね

95B : オサケ オサケデ ノムト。  
お酒 お酒で 飲むと。

96C : サケデ ノムワケ。 (B エー)  
酒で 飲むわけ。 (B えー)

97A : サケデ ノム。  
酒で 飲む。

98B : オサケデ ノムデス (A ン) (C {息を吐く音}) エー。  
お酒で 飲むんです。 (A ん) (C {息を吐く音}) えー。

99A : サケノホーカ° キキメカ° ハエーンダネーベ？  
酒のほうが 効き目が 早いんじゃないの？

100B : ハヤインデスネ。 (全員 {笑})  
早いんですね。 (全員 {笑})

101C : ナルホドネ。  
なるほどね。

ソレワ ソレデ コーノスマデ カイニ イッタワケデスカ？  
それは それで 鴻巣まで 買いに 行ったわけですか？

102A : エー カイニ (B エー ソーデス) イッタンデスヨ。  
えー 買いに (B えー そうです) 行ったんですよ。

茨城 05-3

(B エー) (C {咳払い}) コーノスナンデスヨ。

(B えー) (C {咳払い}) 鴻巣なんです。

コレワ アー ワダヘースケ ッテ ユー シトカ°  
これは あー 和田平助 と いう 人が

ソノ ウジイ ヨッテ オスエタンダソーダ。  
その 家に 寄って 教えたんだそうだ。

103B : ソレワ オンナノ マー オクサンカ° ツクンナキャ  
それは 女の まあ 奥さんが 作らなければ

ダメダソーデスヨ。 (C ワー ソレワ)  
だめだそうですよ。 (C わあ それは)

ソノ クスリワネ エ。  
その 薬はね、 え。

104A : ソレワ ソノ ソノ エー  
ん それは その その えー

105C : ソノ ジャ カデンヤグデ ズーット センゾカ° ツクッテル。  
ん ジャ 家伝薬で ずっと 先祖が 作っている。

106A : センゾカ° ズーット ヤッテル。  
先祖が ずっと やっている。

107C : ヒデンヤクデ (A ソノ) オクサンニ デンジュスルワケ  
秘伝薬で (A ソノ) 奥さんに 伝授するわけ

茨城 05-4

(A ン) オクサンニ ツタエルワケ (A ンー ツタエル)  
(A ン) 奥さんに 伝えるわけ (A ンー 伝える)

108B : センゾカ° ツタワッテキテ ソノー オクサンカ° エ ソノ  
先祖が 伝わってきて その 奥さんが えー その

オクサ オクサンカ° オクサンカ° ヤルワケナンダ ナッテマスヨ  
××× 奥さんが 奥さんが やるわけなんだ なってますよ

ソノ クスリワネ (C ハー) エー。  
その 薬はね、 (C はあ) えー。

109A : イマデワ イゼンワ ヨグー トケ°ヌキノ クスリ ッター  
今では 以前は よく とげ抜きの 薬 って

ユッタデスヨネ。  
言ったんですよ。

イマワ ンナ ソーユーコトモ キカネーカラ  
今は そんな そういうことも 聞かないから、

アー アンダガ ネーダガ ワガンネーヨネ？  
あー あるんだか ないんだか わからないよね。

110B : アー イマデモ モー (A ア オソラク アンダロートモネ)  
あー 今でも もう (A あ おそらく あるんだろうともね)

タシカ アリマスヨ、 ン。  
確か ありますよ、 ン。

111A : シ。  
ん。

112B : アレ オX1チャン キノクラ [12] ノネ (A シ)  
あれ おX1ちゃん、 木倉のね (A ン)

オX1チャンノ キョーダイカ° イッテンノ ソコサ。  
おX1ちゃんの 兄弟が 行ってるの、 そこに。

113A : ハー (B シ) ナルホド。 コレワ カデンダカラ。  
はあ (B ン) なるほど。 これは 家伝だから。

114C : アト アレ イガナカッタデスカ? オーミヤ [13] ワ  
あと あれ 行かなかったですか? 大宮は。

オーミヤノ ユワセ [14] カナ?  
大宮の 岩瀬かな。

115B : ユワセコーデスカ。 (C シー) \*\*  
岩瀬膏ですか。 (C ン) \*\*

116A : オーミヤワ \* アー ユワセ ユワセコーワ (B \*\*)  
大宮は \* あー 岩瀬 岩瀬膏は (B \*\*)

(C シ) シモエド [15]。

(C ン) 下江戸

117C : シモエド。 (A シ)  
下江戸。 (A ン)

茨城 05-6

118B : ユワセコーワ シモエドダネーノ ユワセコーワ。  
岩瀬膏は 下江戸じゃないの、 岩瀬膏は。

119A : アー ユワセワ \*\* ユワセガ。  
あー 岩瀬は \*\* 岩瀬か。

120B : ユワセ。 ユワセデスヨ (C ン) ユワセ。  
岩瀬。 岩瀬ですよ、 (C ン) 岩瀬。

121A : アー エー シモエドワ ナニガ。  
あー えー 下江戸は 何か。

122B : シマ シモエドワ アー。  
×× 下江戸は あー。

123A : アーノ \*\*\* ナン チューケ? アラ。  
あの \*\*\* 何 といったか? あれは。

124B : アレワ (A エー) アダッタ トキ ノム クスリダカラ  
あれは (A えー) あたった 時 飲む 薬だから、

シモエドワ ナン ツーケネ。  
下江戸は 何 というかな

125A : ショクアダリノ ナニカ (B ショクアダリノ クスリダカラ  
食あたりの 何か (B 食あたりの 薬だから、

ユワセワ ユワセコーワ ユワセデス ユワセ)  
岩瀬は 岩瀬膏は 岩瀬です 岩瀬)

イヤ ユワセ \*\*

×× 岩瀬 \*\*

126C : ユワセワール マンノーコー。

岩瀬は 万能膏。

127B : ユワセマンノーコー チューノ。

岩瀬万能膏 というの。

128C : カッパ [16] カ° ナントカ ッテ ユワナイデスカ? アレ。

カッパが 何とか って いわないですか? あれ。

129A : {息を吸う音} ワカナ ユワセワ \*\* (C ン) \*\*。

{息を吸う音} ××× 岩瀬は \*\* (C ン) \*\*。

130B : ユワセコーワ (A \*) ユワセデ ヤッテンデスヨ。

岩瀬膏は (A \*) 岩瀬で やっているんですよ。

(A ユワセデ) コレモ ヤッパリ シュジンカ° ヤットカ

(A 岩瀬で) これも やっぱり 主人が やるとか、

オクサントコ ヤットカ。

奥さん [の] ところ [が] やるとか。

ウジデモ ヨメカ°ネ? アノー コレ セナカサ

うちでも 嫁がね、 あの これ 背中に

オデキカ° デキタンデスヨネ。 コトシ、 デスネ。

おできが できたんですよ。 今年、 ですね。

茨城 05-8

ソンド ナカナカ ナオンナイガラ セカ°レカ°ー  
それで なかなか 治らないから 息子が

ンダ ユワセコーデモ カッテキテー  
「そうだ 岩瀬膏でも 買ってきて、

ユワセコーデモ ハッテミツペ ッチューワケデ  
岩瀬膏でも 貼ってみよう」というわけで、

ユワセコー カイニ イッタデスヨ。  
岩瀬膏 [を] 買いに 行ったんですよ。

ン ソシタラバ アサハヤク イッタラバー  
× そしたら 朝早く 行ったら、

マダ ヤスンデル ヨースダカラ ッツツテ  
まだ 休んでいる 様子だから といって

オギンノ マツテテ カッテキテ ハッテミタケド  
起きるのを 待って 買ってきて 貼ってみたけれど、

ソノー マー リョー ッテ ユー デキモノナンダツテ  
その まあ「リョウ」という できものなんだって。

コノ セナカカ° (A ンー) クチカ° イクヅモー モー デキタ  
この 背中が (A んー) 口が いくつも もう できた

ンー デキモノデ リョー ッテ ユーナンダツテ  
んー できもので、「リョウ」というんだって、

コレワー マー コーヤクバカシデワ ナオンネーガラ  
これは まあ 膏薬ばかりでは 治らないから

ンー イシャ イッテキタホーガ ナオリヤスイガラ  
んー 医者 [に] 行ってきたほうが 治りやすいから

ツツワケデ イシャサ イッテ キッテキテ  
というわけで、 医者に 行って、 切ってきて

(C {息を吐く音}) スク° ナオツタンデスカ°

(C {息を吐く音}) すぐ 治ったんですが、

ウンジ セワダカラッテ フタツ カッテキタンデスヨ。  
それで めんどうだからって ふたつ 買ってきたんですよ。

05↑06

ンデー ソレワ シトツシカ ツケネーウチニ ミトサ イッテ  
それで それは ひとつしか つけないうちに 水戸に 行って、

キッテキテ タチマチ ナオッチャッタンデスカ°  
切ってきて たちまち 治ってしまったんですが、

ソノ ユワセコーモ イーンデスヨ?

その 岩瀬膏も いいですよ。

131C : アレワ ウツワ ナンニ ハイッテンデスカ? アレ。  
あれは 器 [は] 何に 入っているんですか、 あれ。

132A : アレワー カイコ [17] デスヨ。  
あれは 貝ですよ。

茨城 06-2

133B : カイコニ ハイッテンデスワ。 (C ホー) カイコニ。  
貝に 入っているんですわ。 (C ほう) 貝に。

エ チョード アサリックレーノ カイコデスネー。  
× ちょうど あさりくらいの 貝ですなえ。

(C ホー) エー。

(C ほう) えー。

134C : アスコワ モト イシャナンデスヨネ。 アレネ。  
あそこは 元 医者なんですよね。 あれね。

135A : アー ナルホド。  
あー なるほど。

136B : ソーデスカ。  
そうですか。

137C : ソー (A ン) X2サンテユー。 (A ンー) ンー  
そう (A ん) X2さんっていう。 (A んー) んー

138B : ソー X2サン テ エー。  
そう X2さん て えー。

139C : アレワ ナニカ ウシク [18] アタリデ カップカラ  
あれは なにか 牛久あたりで カップから

デンジュサレタ ッテ ユー (A ンー) (B ソーデスカー)  
伝授された と いう (A んー) (B そうですか)

茨城 06-3

オモシロイ ハナシカ°。  
面白い 話が。

シモエドニモ ナニカ アツタンデスカ？  
下江戸にも なにか あったんですか。

140A：シモエドニワー コレ ショクショーカ°ンダ。  
下江戸には これ 食傷丸だ。

141B：アー ソー ショクショーカ°ン (A \*) ッテ  
あー そう 食傷丸 (A \*) って

ユーンダネ (C ン) シモエドニ アツタノワ。  
いうんだね、 (C ン) 下江戸に あったのは。

142A：ン シモエドニ アツタノワ (C ソレワ？)  
ん 下江戸に あったのは (C それは？)

サイドーゴンベー [19] ッテ エー。  
斉藤権兵衛 と [いう] えー。

143B：ショクアタリサ イーンデスネ。  
食あたりに いいんですね。

144A：ショクアタリ。  
食あたり。

145B：イマワ ドーシタカ°ネ。  
今は どうしたかな。

茨城 06-4

146A : イマワ アンメ。

今は ないだろう。

147B : イマ ネーネ。 (A ン) ハナシ キカナイカラネ。

今 ないね。 (A ン) 話 [を] 聞かないからね。

148A : キカネー。 ヨク コノー オシツツアマー [20] ニワ

聞かない。 よく この お静様には

エンニチニワ デタンダヨネ、 (C ン) ムカシノ。

縁日には 出たんだよね、 (C ン) 昔の。

シー サイドーゴンベー ソレカラ エー アノー

んー 斉藤権兵衛。 それから えー あの

ユ ユワセコーナンドワネ。

× 岩瀬膏なんかはね。

149B : アレ アカキ°リコー スコ°イモンモ (A ン)

あれ 赤切膏、 すごいものも (A ン)

デタンダネーケ°。

出たのではないか。

150A : スコ°イモン アカキ°リコーモ。

すごいもの 赤切膏も。

151B : ソー アレモ ドコデ \*\*\*ケド

そう あれも どこで \*\*\*けど

茨城 06-5

(A ッテンダ? モー コノー エンニチニワ)

(A // // // もう この 縁日には)

ヒャクショーワ ムカシ アカキ°リカ° (A {咳})

百姓は 昔 あかぎれが (A {咳})

キレッカラネ。

切れるからね。

スコ°イモン スコ°イモン ツッタツケ? アレ。

すごいもん すごいもん っていったか? あれ。

152A : アカキ°リコーヤク。

赤切膏薬。

153B : アカキ°リコーヤクダ スコ°イモンダネ。

赤切膏薬だ、 すごいもんだね。

154A : マー アカキ°リコー ッテ ヤツ

まあ 赤切膏 って やつ、

ソレワ スキ°ヤキ°ミタイナ モンデネ

それは 杉ヤニみたいな ものでね、

(B ソー ソレオ ヤイテ ヤケヒバシ オッツケンデスヨ)

(B そう それを 焼いて 焼け火箸 [を] 押し付けるんですよ)

ソレデ コーヤッテ エー コ ココサ ナスリコンデ

それで こうやって、 えー × ここに 擦りこんで、

茨城 06-6

(B ナスリコンデ) ヒバシデ (B ヒバシデ)  
(B 擦りこんで) 火箸で (B 火箸で)

ジースト ヤツテ カミ ハツテオケバ ナオル ッテ ユー。  
ジースト 焼いて 紙 [を] 貼っておけば、 治る と いう。

ン ン。  
ん ん。

155B : ソレナンデスヨネ ヒヤクショーデワ ソンナノ  
それなんですよ、 百姓では そんなの [を]

ヤツタンデスヨ アシデモ ナンデモ マー スアシデー  
やったんですよ。 足でも 何でも まあ 素足で

ヒヤクショー ヤツタンデスカラ  
百姓 [を] やったんですから、

アカキリカ° キレット ヤツパリ イタクテ フンヅケランネーデ  
あかぎれが 切れると やつぱり 痛くて 踏んづけられなくて、

ソレデ ソノ コーヤクオ コー ヨジツテ  
それで その 膏薬を こう よじって、

ソシテ ソノ ワレタトコサ イレデ  
そして その 割れたところに 入れて、

ヤケヒバシオ (A {咳}) オシツケテ ジースト ジツテ  
焼け火箸を (A {咳}) 押し付けて、 // // // //

茨城 06-7

ソシテ カミオ ハッツケテオイタモンデスヨ?  
そして 紙を 貼りつけておいたものですよ。

アタシワ ヨッパラ ソンナコト ヤッタノ  
わたしは たくさん そんなこと [を] やったの。

ハダカ° ワルイガラ。 エー。  
肌が 悪いから。 えー。

156A : マー ソレカラ \*\* エー オシズノ エンニチニワ  
まあ それから \*\* えー お静の 縁日には、

ドゴデモ アカキ°リコーダ ナニカ カッタモンダヨネー  
どこでも 赤切膏だ 何か 買ったもんだよねえ。

157B : イヤ スコ°イモン (A ン) ト イッテ (A ン) ハー  
いや すごいもの (A ン) と 言って (A ン) はあ

(A カッテキタモンダ) アカキ°リコー。  
(A 買ってきたもんだ) 赤切膏。

158C : ソンナ クスリヤサンモ ヤッパリ デタンス (A ン)  
そんな 薬屋さんも やっぱり 出たんです。 (A ン)

ソノ ソノ ニジューロクヤサン [21] ナンカニモ。 (A ン)  
その その 二十六夜尊なんかにも (A ン)

159B : オシズサン デタンデスヨ。 (A オシズダ)  
お静さん [に] 出たんですよ。 (A お静だ)

茨城 06-8

160C : シズ シズノホーネ? (A ン一)  
静、 静のほうね? (A ん一)

161B : オシズ。  
お静。

162A : デタンデスヨ。  
出たんですよ。

163B : デタンデスヨ (A ン) アントキ アカキ°リコーカ°  
出たんですよ。 (A ん) あのとき 赤切膏が

デタンデスヨ。 (C {息を吐く音}) (A {笑})  
出たんですよ。 (C {息を吐く音}) (A {笑})

アカキ°リ アカキ°リコー ケーニ イッテキベー ツツッテ  
赤切、 赤切膏 [を] 買いに 行ってこよう っいていって。

(A {笑}) ヨッパラ イヤ ムカシワ イマト チカ°ッテ  
(A {笑}) たくさん いや 昔は 今と 違って、

イマワ イツモ モー チカタビ ハイテ  
今は いつも もう 地下足袋 [を] 履いて、

タンボエ ハイルクレーダカラ  
田んぼへ 入るくらいだから。

ムカシワ ハダシデショーヨ ナニヤッテモ タンボ ヤッテモ  
昔は 裸足でしょうよ、 何やっても 田んぼ やっても

茨城 06-9

ナニヤッテモ ハダシダガラ アシカ° アレチャッテ  
何やっても 裸足だから 足が 荒れてしまって、

アカキ°リデ コー イタクテ フンツケランネー  
あかぎれで こう 痛くて 踏んづけられなく

ナッテンデスヨネ。 (A ン)  
なっているんですよ。 (A ン)

ソンド アカキ°リコーオ カッテキテ ソシテ ハツツケテ \*\*。  
それで 赤切膏を 買ってきて、そして 貼りつけて \*\*。

164A : イマワ タウエデサエダ テブクロ ハメテ  
今は 田植えでさえだ、手袋 [を] はめて

ヤッテンダカラネ。 (C {息を吸う音})  
やっているんだからね。 (C {息を吸う音})

165B : イーヤ (A ン ムカシワ) ムカシワ サムイノモ  
いや。 (A ン 昔は) 昔は 寒いのも

ハダシデスヨ。 スアシ。  
裸足ですよ。 素足。

166A : ムカシワ スアシダカラ ヤッ テワ アレルワ  
昔は 素足だから ×× 手は 荒れるわ、

アシワ アレルワ。  
足は 荒れるわ。

167B : イヤ (A アー) ホントニ マ テデモ ナンデモ  
いや (A あー) ほんとうに ま 手でも 何でも

06↑07

| Cへ呼びかけて | センサー ココラヘン アカキ°リダラケデ  
| Cへ呼びかけて | 先生、 このあたり あかぎれだらけで

ホントニ (A \*\*\*) タベモノ タベル ッチッタッテ  
ほんとうに (A \*\*\*) 食べ物 [を] 食べる といったって

オゼンデショーヨ。 チャブデーデナイカラ  
お膳でしょうよ。 ちゃぶ台じゃないから

テンデンノ オゼンオ アラウノニ アラエナイヨーデスヨ  
めいめいの お膳を 洗うのに 洗えないんですよ。

(A {咳}) イタクテ テカ° アタシラ  
(A {咳}) 痛くて、 手が、 私たち。

イマワ チャブデーダケダカラーネ オチャワンダケデショーヨ。  
今は ちゃぶ台だけだからね、 お茶碗だけでしょうよ。

168C : スンデー ネ。  
////// ね。

169A : イマワ ホットント テブクロオー (B テブクロ ハメテ  
今は ほとんど 手袋を (B 手袋 [を] はめて

ソノ ヤッテンデスモノネー ナニヤッテ\*\*\*)  
その やっているんですものねえ 何やって\*\*\*)

茨城 07-2

ハメテッカラネー カジル マー カッテバ  
はめているからねえ。 ××× まあ 勝手場 [の仕事を]

ヤンノニモ テブクロ ハメテンダ? イマ。  
やるのにも 手袋 [を] はめているんだ、 今 [は]。

170B : ムガシワ タンボエ ヘーノ スワシデスモノ  
昔は 田んぼへ 入るの [に] 素足ですもの、

モモヒギ ハイテ。  
股引 [を] はいて。

171C : アレー ウチノ シンセキデ チチノ デル クスリ  
あれ うちの 親戚で 乳の 出る 薬 [を]

ヤッテタンダケドネ。 (A・B アー) アノー  
やっていたんだけどね。 (A・B アー) あの

ジョーホクマチ [22] デ イシツカ [23] デ。 (A ホー)  
常北町で 石塚で。 (A ほう)

172B : ホー ソーデスカ ンダ ハナシワ キカナイナー (C ン)  
ほう そうですね。 そんな 話は 聞かないねえ。 (C ん)

ヤッパリ デンデスカ? ソレ ノムト。  
やっぱり 出るんですか? それ [を] 飲むと。

173C : ンー ソレワ \*\* ダイブ モー イマワ ドッカエ ケンリ  
んー それは \*\* だいぶん もう 今は どこかへ 権利 [を]

茨城 07-3

ユズツチャッタ ミタイダケド。 (B アー) (A ンー)  
譲ってしまった みただけど。 (B あー) (A んー)

ヤマカ°チサブ アレ ア ヤマカ°タサブローベーツッテネー?  
×××××××× あれ あ 山形三郎兵衛とってね?

(B ウン) (A ンー) ズット シューメーシテ ヤッテタ。  
(B うん) (A んー) ずっと 襲名して やっていた。

(B ハアー) (A ンー) イマ ガラスヤニ  
(B はあ) (A んー) 今 ガラス屋に

ナツチャッタデス (B アー) (A ナルホドネ ンー)  
なってしまったです。 (B あー) (A なるほどね んー)

ソレ チョーナンニ ズット デンジュシテネ? (B ンー ンー)  
それ 長男に ずっと 伝授してね、 (B んー んー)

(A ンー) ヤッパ キタワケデス。  
(A んー) やっぱり きたわけです。

174A : {息を吸う音} ダカラ ヤッパリー ウー ソノー  
{息を吸う音} だから やっぱり うー その

ソーユーモノワ ムガシカラノ デンジ ッテ ユーモノワ  
そういうものは 昔からの 伝授 と いうものは

ケセネー ケサンナインダヨネ キブンダカラ ン  
消せない 消せないんだよね、 気分だから ん

茨城 07-4

ナニカカ° アンダカラ ン。  
何かがあるんだから ン。

175C : ダイタイ イマノ ソノー アカキ°レノクスリ ナカニ ナガニ  
だいたい 今の その あかぎれの葉 [は] 中に 中に

ナニカ° ハイッテッカ ワカリマー ワカンナイデスカ？  
何が 入っているのか ××××× わからないですか？

176A : ワカンネース {笑}  
わからないです {笑}

177C : ワカンナイ {笑}  
わからない {笑}

178B : ワカリマセンネ。 ソレワネ ン。  
わかりませんね。 それはね ン。

179A : コレワ スキ°ヤキ°デ トグンダカ。  
これは 杉ヤニで 溶くのだか。

180B : コレワ アノー スキ°ヤキ° チョード スキ°ヤキ°ノヨーナノカ°  
これは あの 杉ヤニ ちょうど 杉ヤニのようなのが

(C ン) アノ タケノ カワサ ツツンデアンダカラ。

(C ン) あの 竹の 皮に 包んであるんだから。

(A ア) アレワ エー タケノ カワデ。

(A あ) あれは えー 竹の 皮で。

茨城 07-5

181A : エー ナニオ クスリオ モドニシテー カタメタカ。  
えー 何を 薬を もとにして 固めたか。

182B : ソレワ ワカリマセンネ。  
それは わかりませんね。

183C : ンー ソレデ ソレー イクラグ°ライ シタンデスカ？  
んー それで それ [は] いくらぐらい したのですか。

ソノー (B サー) (A ソンナニー)  
その (B さあ) (A そんなに)

オシズサンニ イッテ カツテクットキワ {笑}  
お静さんに 行って 買ってくるときは {笑}

184A : マー ゴセンカー (B ゴセングレーダッ)  
まあ 5 銭か (B 5 銭ぐらいだ)

ジッセンダネーカ？ (B ジッセンガネー)  
10 銭じゃないか？ (B 10 銭かねえ)

185C : ン ワリアイ タカイネ。  
ん 割合 高いね。

186A : ン ワリアイニ タカインダヨネ。  
ん 割合に 高いんだよね。

187B : ソノ ココラノーネ？ (C ン) (A ン) ココラノー  
その このあたりのね？ (C ん) (A ん) このあたりの

茨城 07-6

ハコデ コー タケノカワサ ツツマッテ アンデスヨ。  
箱で こう 竹の皮に 包まれて あるんですよ。

ン ソレサ カミニ クルンデ アカキ°レコー ッテ  
ん それを 紙に くるんで、「赤切膏」と

チャントー ナマエオ カイテ ウッテンデスヨ。  
ちゃんと 名前を 書いて 売っているんですよ。

188A : ウン。

うん。

189C : ソレワー ドッ ドッカラ デタンデスカ?

それは × どこから 出たんですか?

ソー シモエドカラ デタノ。

そう 下江戸から 出たの。

190A : エー シモエドデス。 ス (C {息を吐く音})

えー 下江戸です。 × (C {息を吐く音})

サイドーゴンペー ツッタネ?

斉藤権兵衛 といったね。

191C : イマ イマ ヤッテナインデスカ?

今、今、 やってないんですか。

192A : イマ サイドーゴンペー ツツー シトワ シンジャッタカラ

今、 斉藤権兵衛 という 人は 死んでしまったから、

茨城 07-7

ソノ ムス ソノ ナニワ シソソワ? アンノワ アッペネ。  
その ×× その 何は 子孫は? あるのは あるだろうね。

タシカニ ノコッテル?  
確かに 残っている?

193B : イマデモ オシズサ イケ°バ アカキ°リコー ウッテンノケ  
今でも お静に 行けば、赤切膏 [を] 売ってるのかな

ヤッパリ。 イッタコトネーカ° シバラク オシズエワ。  
やっぱり。 行ったこと [が] ないが、しばらく お静へは。

194A : イヤ。  
いや。

195B : ワカンネーカ° アダシラ。  
わからないが 私達は。

196A : ソーユー ナニワ ドーシタカ ワガンネーカ°ー シバラクー ソノー  
そういう 何は どうしたか わからないが、 しばらく その

(B イマ アカキ°リコーナンゾ ツカー シトワ アンメーネー)

(B 今 赤切膏なんか 使う 人は ないだろうね)

オシヅサンナンダ イッタコトネーカラ。  
お静さんなんか 行ったことないから。

イマワ ネーダネーカナー。  
今は ないんじゃないかな。

197B : アンマリ アカギ°リナンカ (A ン) キラス シト  
あまり あかぎれなんか (A ん) 切らす 人 [は]

イナイヨネー。 (A ン)  
いないよねえ。 (A ん)

198C : アノー アレ ナンテ ユーンダロ ニッシャビョー ト  
あの あれ 何て いうんだろう、 日射病 と

ユーノカナ コー オヒサマニ コー (A ン) アタッテ。  
いうのかな、 こう お日様に こう (A ん) あたって。

(A ン) アレワ ナンテ ユーンダロー コー オヒサマ  
(A ん) あれは 何て いうんだろう、 こう お日様 [が]

07↑08

アツイトコロデ シコ°ト シテテ。 (B エー)  
暑いところで 仕事 [を] してて。 (B えて)

199A : ン ニッシャビョー。 (B ニッシャビョー)  
ん 日射病。 (B 日射病)

200C : ニッシャビョー ッテ ユーノ? アレワ (A ン) ン  
日射病 と いうの? あれは。 (A ん) ん

アンナトキニワ ドースンデスカ アレ。  
あんなときには どうするんですか、 あれ。

201A : サー ニッシャビョー。  
さあ 日射病。

202B : フッフフン。

ふっふふん。

203A : ニッシャビョーノ ナニワ テアデトシテワ イシャエ  
日射病の 何は 手当としては 医者へ

ユク°ホガ アンメネー。  
行くほか ないだろうね。

204C : ムカシヨ?

昔よ?

205A : シ イヤ ムカシッデモ ナンデモ {息を吸う音}  
ん いや 昔でも 何でも {息を吸う音}

ソーユーナニワー。  
そういう何は。

206B : アマリ キカナイネー。

あまり 聞かないねえ。

207A : キカネーカラネー。

聞かないからねえ。

208C : アーレ ムカシ ダイコンースリ アル ダイコンオロシネ?  
あれ 昔 大根すり [が] ある、 大根おろしね?

(A ンー ンー) アレ オロシテ コー コンナ コー

(A んー んー) あれ [を] おろして こう こんな こう

茨城 08-3

ヒヤシテミタコト アンダケド。  
冷やしてみたこと あるんだけど。

209A : マー (B アー) アノー (C エー) ヨク ユッタネ  
まあ (B あー) あの (C えー) よく 言ったね、

アノー ショギ ウゲタ ツツーノカ° ニッシャビョーノ  
あの 暑気 受けた というのが 日射病の

(C ン アー) ナニカナ?

(C ン あー) 何かな?

210C : ン ソーネ? タシカニ ソー。  
ン そうね。 確かに そう。

211B : ソーカモ シンネーネ。  
そうかも しれないね。

212A : ショギ ウゲタ デーゴ  
暑気 受けた [ときには] 大根 [を]

(B ダイゴオロシ ツケット イーナンテ) アー

(B 大根おろし [を] つけると いいなんて) あー

(C ダイコンオロシ) オロシテ アシノヒラサ (C ン)

(C 大根おろし) おろして、 足の裏に (C ン)

ツケロ ナンテ (C ン) ユッタダカラ。

つける なんて (C ン) 言ったんだから。

茨城 08-4

ソレカ° ニッシャビョーカ ムカ エー イマノ。  
それが 日射病か、 ×× えー 今の。

213B : アツケダカラネ。 (A エー アツケ)  
暑けだからね。 (A えー 暑け)

アツケダカラ ソーダッペ。  
暑けだから そうだろう。

214C : ソレ ヤッタデスカ。  
それ [は] やりましたか。

215A : シー ソレワ ヤッタネ。  
んー それは やったね。

216B : シ ソレワ ヤリマシタネ シ。  
ん それは やりましたね ん。

217A : シ ソレガラ キューリノ ハ。  
ん それから キュウリの 葉。

218C : ア キューリノ ハ。  
あ キュウリの 葉。

219A : シ キューリノ ハオ スオデ モンデ  
ん キュウリの 葉を 塩で 揉んで、

ソシテ ソレオ ナスレー ナンテ。 (B シ) シ。  
そして それを 擦れ なんて。 (B ン) ン。

茨城 08-5

220C : モモノ ハワ ツカワナインデスカ? \*\*  
桃の 葉は 使わないんですか? \*\*

221A : モモノ ハモ ナンデモ アー。  
桃の 葉も 何でも あー。

222B : モモノ ハワー アセモサ (A ン) ツカッタンデスネ  
桃の 葉は あせもに (A ン) 使ったんですね、

(C アセモ) アセモ。

(C あせも) あせも。

223A : アッ アレワ \*\*\* アセモダネ。  
あっ あれは \*\*\* あせもだね。

224B : モモノ ハワ アセモーデスネ。  
桃の 葉は あせもですね。

エー アレオ モモノ ハオ オユニ タテテ ハイット  
えー あれを 桃の 葉を お湯に たてて 入ると

アセモカ° ナオル ッテ (C ン) エ。

あせもが 治る と (C ン) え。

225C : アセモカ° デキタデスカ? ムカシワ。  
あせもが できましたか? 昔は。

226A : イヤー アセモワ デキルヨネ  
いや あせもは できるよね。

茨城 08-6

227B : アセモワ デキマシタネ ムカシワ (A ン) エー  
あせもは できましたね、 昔は (A ん) えー。

アダシラ トシ トツテカラワ  
私達 [は] 歳 [を] とってからは

アマリ アツイ オモイ シテネー。  
あまり 暑い 思い [を] していない。

イマ デキネーケド ワカイトキワ  
今 [は] できないけれど、 若いときは

アセモ デキマシタヨ? エー。  
あせも [が] できましたよ。 えー。

228A : ソンデ アレカ° ソノ アセーモモ ポツリ ポツリ  
それで あれが その あせもも ぽつり ぽつり [と]

ソローンダラ アレカ° ヨル [24] ツツート  
揃ったら あれ [=あせも] が 出る という

コマッチャウンダヨネ。  
困ってしまうんだよね。

229B : アレカ° ヨルットネ イヤー カユクツテ。  
あれが 出るとね、 いや かゆくって。

230A : ヒトドコサ ヨッチマウト。  
一か所に 出してしまうと。

茨城 08-7

231 B : イタクテネ。 (C \*\*)  
痛くてね。 (C \*\*)

232 A : オー カユイトコサ ナンテ ユーヨリ カノー ナンゾ  
おー 痒いところ なんて いうより、 化膿 なんか

スラッタラ タイヘンダガラ。 (B ン) ンー。  
してしまったら たいへんだから。 (B ん) んー。

233 B : アノ モモノ ハモネー クサクテ ネ。 (A ン)  
あの 桃の 葉もね、 臭くて ね。 (A ん)

ハイッタコトモ アッケドモ クサインデスヨネー。 エー。  
入ったことも あるけれども、 臭いんですよ。 えー。

234 C : アレ アノママ イレッチャーノ アノママ イレッチャーノ。  
あれ あのまま 入れてしまうの、 あのまま 入れてしまうの。

235 B : ア ニダデテ イレンデスヨ? (C ハー)  
あ 煮立てて 入れるんですよ。 (C はあ)

モモノ ハオ (C ハ) ニダデテ。  
桃の 葉を (C 葉) 煮立てて。

236 C : ニダテテ。  
煮立てて。

237 B : エー ユデナクテ。  
えー 茹でないで。

茨城 08-8

238C : ソレカ ツユ ツユカ ナンカ ワル? (A {咳})  
それか つゆ つゆか なんか 割る? (A {咳})

239B : シン アレ ツユ ツケテモ イーンデスゲドモ (C アー)  
ん あれ つゆ [を] つけても いいんですけども、 (C あー)

ダイタイ ヤッパ カラダエ デキテッカラー アノー。  
だいたい やっぱり 体に できているから あの。

240A : コワシオデ コー モンデネー ソンデ ツケテモ  
粗塩で こう 揉んでね、 それで つけても

イーンデスヨ シン。  
いいんですよ、 ン。

241C : ナニカ ショクブツ ッテノワ コー ムダカ° ナイミタイネ。  
何か 植物 というのは こう 無駄が ないみたいね。

ミンナ。  
みんな。

242A : ソーネー。 マー ナンデモー アノー タベラレンノワ  
そうねえ。 まあ 何でも あの 食べられるのは

タベラレンダヨネ。 (C シン) シン ドグ ッツーノワ マー  
食べられるんだよね。 (C シン) シン 毒 というのは まあ

メッ タイヘンデワ ネーンダネーゲ ナンデモ。  
×× たいへんでは ないんじゃないの 何でも。

ユーベ テレビーデ アノー ヨゴヤマ \* アレ アノ  
昨夜 テレビで あの ヨコヤマ \* あれ あの

ヘーテーカエー イッテタ。  
兵隊に 行っていた。

243B : ヨコイ [25] サン。  
横井さん。

244A : ア ヨコイサン。  
あ 横井さん。

245B : ン。  
ん。

246A : アノ シトノ ナニオ ヤッタケガネ。 マー ミズオ ミズオ  
あの 人の 何を やったかね。 まあ 水を 水を

アヅイノデ ミズオ ノムノワ タメスコトオ ヤッタツケカ°、  
暑いので 水を 飲むのを 試すことを やったが、

08↑09

{息を吸う音} \* エー ミズ \* アノ  
{息を吸う音} \* えー 水 \* あの

コノ ミズワ イーガ ワルイガ ノンデ ワルイガ アー イーガ  
この 水は いいか 悪いか、 飲んで 悪いか あー いいか

ッテ ユーノオ タメストコロ ヤッタツケカ°ネ ソーシタラバ  
と いうのを 試すところを やったがね、 そうしたら

茨城 09-2

ソノ マワリニ ヘアーッテミテ サカナカ° オヨイデンノワ  
その まわりに 入ってみて、 魚が 泳いでいるのは

ノンデモ サツケーネーダソーデスヨ。 (B アー)  
飲んででも さしつかえないんだそうですよ。 (B あー)

ン サカナカ° スンデルヨーナ ミズワ。  
ん 魚が 住んでいるような 水は。

247B : ナンチャンネルデ ヤッタンダゲ。 ウジデ ミネーチャッタネ。  
何チャンネルで やっていたのか。 うちで 見なかったね。

248A : ナンチャンネルダツケナ ミタンダ?  
何チャンネルだったかな 見たんだ。

249B : ンー。  
んー。

250A : ン ソレオ ユーケカ°ーネ。  
ん それを 言っていたけどね。

エー ヘアーッテ カワノ ナカヘ ヘアーッテ \*  
えー 入って 川の 中へ 入って、 \*

テッペンカラ ミズカ° アツタカラ ッテ ノム ッテ ユート  
最初から 水が あったから って 飲む と いうと、

アダツタリ (B ンー) ナニカ シツカラ ソレオ タメスノワ  
あたったり (B んー) 何か するから それを 試すのは

茨城 09-3

ヨグ (B サカナ) グルリオ ミテ サカナカ°  
よく (B 魚) まわりを 見て、 魚が

イッピキデモ ニヒキデモ スンデルカ スンデナイカ  
1匹でも 2匹でも 住んでいるか 住んでいないか

ツツーノオ ヨグ タシカメロ ト (B アー ナルホド ン)  
というのを よく 確かめろ と (B あー なるほど ン)

ユッタネ。 (B ンー) オエー  
言ったね。 (B ンー) ×××

サカナカ° スムヨーダラバ ノンデ サツケーネート。  
魚が 住むようなら、 飲んで さしつかえないと。

(B ン ン) ン。  
(B ン ン) ン。

251B : ヤッパリー ソーデショーヨ イギモノカ°ネ  
やっぱり そうでしょうよ、 生き物がね

(A イキモノカ° スメバ マ)  
(A 生き物が 住めば ま)

スンデレバ ダイジョーブデショーヨ。 (A ン)  
住んでいれば 大丈夫でしょうよ。 (A ン)

ダイジョーブ \*

大丈夫 \*

茨城 09-4

252A : インダカラ ナンデーモ タベランネーモノワ ネーシダド。  
だから 何でも 食べられないものは ないんだと。

(B イン) イン。

(B イン) イン。

253B : ナンデモ タベタンダッペ? (A ナンデモ) アノ シトワ  
何でも 食べたんだろう? (A 何でも) あの 人は

(A イン) ナカク ナカクッタカラ。

(A イン) 長く 長かったから。

254A : トカゲ°デモ ナンデモ アー (B タベタ) タベタ チューノヨ。  
とかげでも 何でも あー (B 食べた) 食べた というのよ。

ナンデモ タベランネーモノワ ナインダト。 (B イン)

何でも 食べられないものは ないんだと。 (B イン)

クサデモ ナンデモ。 (B イン)

草でも 何でも。 (B イン)

255C : インデ アノー イヌ ナンカニ カマレタコトー  
それで あの 犬 なんかに 噛まれたこと

カマレタラ ドースンデショーネ。

噛まれたら どうするんでしょうね。

イヌ ナンカニ カマレナカッタデスカ? イヌ。

犬 なんかに 噛まれなかったですか? 犬。

256A : イヌ。  
犬。

257B : イーヤ。  
いいや。

258C : ヘビ。  
蛇。

259A : ヘビワ コラー キケンダカラネー。  
蛇は これは 危険だからね。

ドクヘビ ナンドニ カマッタラ ヨーイダネーカラ。  
毒蛇 なんかに 噛まれたら 容易じゃないから。

アー ケ スク°ニ ケ エ イシャ イッテ ケッセー  
あー × すぐに × × 医者 [に] 行って 血清 [を]

シネグレバ ヨーイダアンメア? シ クジハビナンドニ \*\*\*  
しなければ、容易じゃないだろう? ん マムシなんかに \*\*\*

ヤッパリ スク° ユク°ホガ ネーカラ。  
やっぱり すぐ 行くほか ないから。

260C : ヘビワ インデスカ? ココニワ。  
蛇は いるんですか? ここには。

261A : エー イマスヨ。 シ。  
えー いますよ。 ん。

茨城 09-6

262B : イマスヨ。 \*\* コノ ウラノ ホーノ X3チャンカ°  
いますよ。 \*\* この うらの 方の X3ちゃんが

アレー ユーカタ オソクー タンボ イッテ  
あれ 夕方 遅く 田んぼ [へ] 行って

ノデー [26] カ°ー アカ°ッテンノデー トメヨー ト オモッテ  
田んぼの水の出入口が あがっているので 止めよう と 思って、

テー ダシテ コー ヤッタラ チカッ ト ユー ト  
手 [を] 出して こう やったら、 チカッ と いう と

オモッタラ クジハビニ クイツカレチャッタ ッテ。  
思ったら マムシに 食いつかれてしまった って。

ソレデー ア コレ クジハビダナ ト オモッテ  
それで あ これ [は] マムシだな と 思って、

ソンデ キンジョノー シトニ ハナシテ キンジョガラ  
それで 近所の 人に 話して 近所から

キモノ カリテ ソッカラ イシャエ イッタ ハナシナ  
着物 [を] 借りて、 そこから 医者へ 行った 話な

(A ン) X4チャンワネ。 (A ン) ン。

(A ん) X4ちゃんはね。 (A ん) ん。

263A : コレワ スク° イカ°ナキャ ダメダ  
これは すぐ 行かなければ だめだ、

ドグカ° マワッチャウカラ。  
毒が 回ってしまうから。

264 B : \*\*\* ギッシリ シバツテ (A ン) ドグカ°  
\*\*\* ぎっしり 縛って (A ン) 毒が

マワンネーヨーニネ ギッシリ コー ソコオ シバツテ  
回らないようにね、 ぎっしり こう そこを 縛って

ソシテー ネー。  
そして ねえ。

265 A : ダカラ。 アー。  
だから。 あー。

266 B : スク°ニ イシャエ イッタ ハナシー \*\*\*。  
すぐに 医者へ 行った 話 \*\*\*。

267 A : クジハビ ッチューノワ クスリニモ ナンカ°?  
マムシ というのは 薬にも なるが、

ドグモ ア アルワゲナンダヨネ。  
毒も × あるわけなんだよね。

268 C : クチハビ ッテ ユーノワ クチー ハ ハー。  
マムシ と いうのは ××× 歯 歯。

269 A : ハカ° ハカ° コボレンダ ッテ ユーンダカ°ネ。  
歯が 歯が こぼれるんだ と いうんだがね。

ゴハッソー ッテ ュッテ エー ハジカ°ツニ ゴカ°ツカ°  
「五八そう」 と いて、 えー 8月に 5月が

イチバン キケンナ アー \*\* マー クスリニモ ナンダワネ。  
いちばん 危険な あー \*\* まあ 薬にも なるんだわね。

09↑10

270C : ドンナニ スンノ? クスリニ スットキワ。  
どんな [ふう] に するの? 薬に するときは。

271A : クスリニ スンノウ ヘビオ。  
薬に するのは 蛇を。

272B : アレデショ \*\*\*。  
あれでしょ \*\*\*。

273A : ショーズーツケニ スルトカ アルイワー アー。  
焼酎漬けに するとか、 あるいは あー。

274B : ヤイデ。  
焼いて。

275A : ムイデ ヤイデ タベルトカ。  
剥いて 焼いて 食べるとか。

276B : ヤイデ タベテモ イーソーデス?  
焼いて 食べても いいそうです。

トデモ オイシソーデスネ アレワ。  
とても おいしいそうですね、 あれは。

茨城 10-2

277A : コーバシクテ ンマイモンダヨ? (B コーバシクテ)  
香ばしくて うまいもんだよ。 (B 香ばしくて)

278C : ナンニ キクノ?  
何に 効くの?

279A : コレワ ナニサデモ イーンデスヨ。  
これは 何にでも いいんですよ。

280B : ナニサデモ イーンダヨネー。 アノー クジハビ ッチューノワ。  
何にでも いいんだよねえ。 あの マムシ というのは。

(A ン) オイシイソーデスヨ? ネー。 アノー

(A ん) おいしいですよ。 ねえ。 あの

(A コノネ ンー クチ) スキナ シトワ アタマ モイ オ

(A このね んー うち) 好きな 人は 頭 ×× を

モッテ コー ムイチャンデスワネ。 (C ハー) エー。

持って、 こう 剥いちゃうんですわね。 (C はあ) えー。

281A : キモワー アー コドモニー ムシノクスリダナンテ  
肝は あー 子供に 虫の薬だなんて

ノマセチャウ。 メ。

飲ませてしまう。 目。

282B : アノ メ メカ° アノー (A ン) トテモ コドモノ

あの 目 目が あの (A ん) とても 子供の

茨城 10-3

ムシノクスリニ イーンダ ッテ イキメカ°。  
虫の薬に いいんだ って、 生き目が。

283A : イキメカ°。 (C {息を吐く音})  
生き目が。 (C {息を吐く音})

284B : クジハビノネー。 エ。  
マムシのねえ。 え。

285A : エー ワダシャネ エー {息を吸う音} コノー ミナミノ  
えー 私はね えー {息を吸う音} この 南の

ホーサー イッタトキニ エー イシャニ イカ° ワルクテ  
方に 行ったときに、 えー 医者に 胃が 悪くて

イシャニ ミハナサレデ エー ナンデー クジハビカ° イー  
医者に見離されて、 えー 何でも マムシが いい

ッテ ユーンデ クジハビオ ツケテネ? ショージュエ。  
と いうんで、 マムシを 漬けてね、 焼酎へ。

ソシテ ソレオ ノンデ エー エー ナオッタ ト。  
そして それを 飲んで えー えー 治った と。

ンデ エー ツケテオク シトカ° アンダラバ  
それで えー 漬けておく 人が いたら、

イクラデモ カネオ ダステ カイマス ッテ ユッタネ。  
いくらでも 金を 出して 買います と 言ったね。

茨城 10-4

(C {息を吐く音}) ダカ° ジッサイニ エ コノー

(C {息を吐く音}) だが、実際に え この

クジハビオネ? ショージュエネ ツケテ ソレオ ノメバ  
マムシをね、 焼酎 [に] ね 漬けて、 それを 飲めば、

イワ ナオリマスワ。 コレ ズッサイ オレケ°デ  
胃は 治りますわ。 これ 実際 [に] 俺のところまで

タメシタンダカラ。

試したんだから。

286C : ノ ノミニククナイデスカ? コレ。

× 飲みにくくないですか? これ。

287A : イヤ ノメネ {笑} クサクテ ノメネ。

いや 飲めない {笑} 臭くて 飲めない。

288B : フ フ フン。 \*\*\*

ふ ふ ふん。 \*\*\*

289A : フ フ イカニ サケノ スキナ シトデモネ? アレオ マショーニ

× × いかに 酒の 好きな 人でもね、 あれを 普通に

ノ ノメル シトワネ。 {笑}

× 飲める 人はね。 {笑}

290B : ヤッパリ クスリダ ト オモーガラコソ ノムンデショーヨネー。

やっぱり 薬だ と 思うからこそ 飲むんでしょうよねえ。

291A : クサイソーダ。  
臭いそうだ。

292B : ノム ノムンダッペ {笑} (A ン) クサイ。  
飲む 飲むんだろう {笑} (A ン) 臭い。

293C : {息を吐く音} ソンナ クサイノ。  
{息を吐く音} そんな [に] 臭いの。

294A : ン クサイソーダ?  
ん 臭いそうだ。

295C : アンタ ノンダンデショー?  
あんた 飲んだんでしょう?

296A : イヤ ワ ワダシワ ノマネーナ。  
いや × 私は 飲まないな。

297C : ノマナカッタノ {笑}  
飲まなかったの {笑}

298A : ダガ アリマスヨ? ツケテ ンー ハー。  
だが ありますよ、 漬けて ンー はー。

299C : コレ クジハビ ッテ マムシノ コト?  
これ 「クチハビ」 って 「マムシ」 の こと?

300A : マムシノ コトデスヨ。  
マムシの ことですよ。

茨城 10-6

301B : マムシデスヨ。  
マムシですよ。

302A : エー ショージュエーオ イッショー オー サー イッポン イレテ  
えー 焼酎を 1 升 ×× ×× 1 本 入れて、

ハジ ソー シチハチネンニ ナッカナ？  
8 そう 7、8年に なるかな。

303C : ソンデモ クサイノウ ヌケナイノ。  
それでも 臭いのは 抜けないの。

304A : ヌゲネーネ。 (C {息を吐く音}) ソックリシテッカラ。 \*\*\*  
抜けないね。 (C {息を吐く音}) そのままの形だから。 \*\*\*

305B : フルイホド フルイホド イーンダソーデス。  
古いほど 古いほど いいんだそうです。

306A : シ フルイホド コレワ アー エンノシタトカネ エ  
ん 古いほど これは あー 縁の下とかね え

ナントカーサ イレテオクンデスヨ。 ビンサ イレテネ。  
何とかに 入れておくんですよ。 瓶に 入れてね。

ソノー ジューネングレー タツタンデワ ソックリシテンネ。  
その 10年ぐらい 経ったのでは そのままの形だね。

マルマツタリキリダネ。 クズレネーネ。  
丸まったきりだね。 崩れないね。

茨城 10-7/11-1

ン ウー ウジノ ヨメカ°ー イカ° ワルクテネ。  
ん ×× うちの 嫁が 胃が 悪くてね。

エー ソートー マー \*\* ミドエ カヨッタヨネー。  
えー そうとう まあ \*\* 水戸へ 通ったよね。

エー イカ° イダクテ。  
えー 胃が 痛くて。

10↑11

ソンド ナントシテモ ダメナンドスワ ナ ナオンナクテネ。  
それで 何としても 駄目なんですわ × 治らなくてね。

ンデー クジハビカ° アツタンデ エー マズー クスリダ ド  
それで マムシが あったんで えー まず 薬だ と

オモエバ ノメネーコト アンメー ッテ マー スコシズズ  
思えば 飲めないこと ないだろう って まあ 少しずつ

ノンデ ミロ ト イッテータラー ソー アンモ  
飲んで みろ と 言ってたら、 そう あれも

ゴンコ°ーク°ライワ ノンダッペナ？  
5合ぐらいは 飲んだらうな？

307B : X5サン。

X5さん。

308A : ン (B アー) カッ ヨルー カッテバサー ソノ  
ん (B あー) ×× 夜 勝手に その

茨城 11-2

イッショービンオ モツテク°ンダヨネ。  
1 升瓶を 持って行くんだよね。

ナミデワ ドーモ ウツストキ ダイナー ソノママ  
並では どうも 移す時 /// そのまま

モツテッタンデワ ヨケード ノメメー ト オモーンダカ°。  
持って行ったんでは よけいに 飲めないだろう と 思うんだが。

{息を吸う音} アー アレオ マー ウスメテ ノンダンダロード  
{息を吸う音} あー あれを まあ 薄めて 飲んだんだろう と

オモーンダ。 ソノママ ノメネーカラ。  
思うんだ。 そのまま 飲めないから。

ナント ピツタリ ナオッチャッタカラネ。  
なんと ピツタリ [と] 治ってしまったからね。

イマ イデー ハナシ シネーカラ。  
今 痛い 話 [を] しないから。

アレタケ イシャエ カヨッタノニ イノ ハナシ シネーカラ。  
あれだけ 医者へ 通ったのに 胃の 話 [を] しないから。

イデー イデー ハナシワ。  
痛い 痛い [という] 話は。

ダカラ タシカニ キクコトワ キクネ ン。  
だから 確かに 効くことは 効くね、 ん。

茨城 11-3

イマワ ソレカラ ツケテオクンデスヨ。 ハーハンデスヨ。  
今は それから 漬けておくんですよ。 // // //ですよ。

アヨーダラ ケ°アンスヨ。 (全員 {笑})  
必要なら あげますよ。 (全員 {笑})

309B : \*\* クジハビ ツツーノワ キタイナ ヘビデ  
\*\* マムシ というのは 不思議な 蛇で、

アー クジハビカ° イタ ト オモツテ コー ミテット  
「あー マムシが いた」 と 思って、 こう 見ていると

チャーント シテンダ ッテネ。 (C ハー) チョット  
ちゃんと しているんだ ってね。 (C はあ) ちよっと

メ ハナシタラ スッ イッチャーランダッテ。  
目 [を] 離れたら、 すっ [と] 行ってしまうんだって。

(C {息を吐く音}) ミデナキャ ダメナランダッテ。  
(C {息を吐く音}) 見ていなければ 駄目なんだって。

コー (A {笑}) ミテレバ、  
こう (A {笑}) 見ていれば、

ア クジハビカ° (A デ) コレ イタナー ット オモツテ、  
「あ マムシが (A ×) これ いたな」 っと 思って、

コー メオ ミテレバ (A クジャ\*)  
こう 目を 見ていれば、 (A ×××\*)

茨城 11-4

ジーット シテンダ ッテ。  
じっと しているんだ って。

310A : クジハビ ッチューノワ \*\*\* ソノー。  
mamshi というのは \*\*\* その。

311B : メー ハナシタラ モー ハヤインダッテ。  
目 [を] 離したら もう 速いんだって。

312A : ナンボデモ ヨッテキンデスヨ。  
いくらでも 寄って来るんですよ。

(B ハヤインダソーデスヨ) アノ アレオ ムイデ アラッタラ  
(B 速いんだそうですよ) あの あれを 剥いて 洗ったら、

ナンボデモ キル ッテ ユー セツダカラネ。  
いくらでも 来る と いう 説だからね。

アラッタトコサ ナンボデモ ヨッテキル ッツーンダ  
洗ったところに いくらでも 寄って来る というんだ、

クサイカラ。 ダカラー クジハビー チューノワ アレ  
臭いから。 だから mamshi というのは あれ

コン コンノ エー キレカ° マー ドグナノカナ?  
紺 紺の えー 布が まあ 毒なのかな?

(B アー) テダス [27] デモ ナンデモ コンダカラネ。

(B あー) 手甲でも 何でも 紺だからね。

茨城 11-5

(B ンー) トル シトワ ウン。

(B んー) とる 人は うん。

313B : アノ ヨク クジハビトリニ キンデスヨネ。  
あの よく マムシとりに 来るんですよ。

コノ ヤマノ シタニ。

この 山の 下に。

314A : ヨー クジハビトリワ キマスヨ。  
よく マムシとりは 来ますよ。

315B : キマスヨ? (A ン) コノー ヤマノ シタノ ホーサネ。  
来ますよ。 (A ん) この 山の 下の 方にね。

ジメジメシタ ドゴニ インダガラ クジハビワ。  
じめじめした ところに いるんだから、 マムシは。

316A : コレワ。  
これは。

317C : ア コンノ ケッキョク アレニ。  
あ 紺の 結局 あれに。

318A : コ コンノ キモノネ (C エー エー) エーッ ユーテカラ  
× 紺の 着物ね、 (C えー えー) えー 言ってから

コン ッテ ユーノワ エー \*\* ハガ° コボレッカ  
紺 と いうのは えー \*\* 歯が こぼれるか

ナニカーダガ ナンダカ° ミンナノ コノ コンノ テダスダワネ。  
何かだか 何だか みんなの この 紺の 手甲だわね。

エ キモノールイ ナンデモ ソーユーノオ キテ エー  
× 着物類 [は] 何でも そういうのを 着て えー

キンダカラ。 ナンボデモ ソノ ヤマー コノ ヤマノ  
着るんだから。 いくらでも その 山 この 山の

ヤマカ°タ [28] アタリサ イク° ツツート インダソーダネー。  
山方 あたりに 行く という と いるんだそうだねえ。

エー エー ウジノ ナカエ ヘーノンノモ キー  
えー えー 家の 中へ 入るのも 気 [を]

ツケーネート ヘーレネーヨ ナンテ ンー。 (C \*\*)  
つけないと 入れないよ なんて んー。 (C \*\*)

319B : ワダシラ ウジニ イルコロ タン ナカニ イタコト  
私達 [が] 家に いる頃、 田の 中に いたこと [が]

アッタツケネ。  
あったね。

11↑12

320A : イヤー オラカ° タン ナカデー。 エー。  
いや 私が 田の 中で。 えー。

321B : イネノ カブツラ マンナカデ。  
稲の 株 [の] 真ん中で。

茨城 12-2

322A : マンナカニ イルケドネ。  
真ん中に いるけどね。

323B : マルマッテ (A ソレカラ) (C ハー) イタコト  
丸まって (A それから) (C はあ) いたこと [が]

アンデスヨネ。  
あるんですよ。

324A : ゴカ°ツニ ナル ッテ ユート オカサ アカ°ンデスヨ。  
5月に なる と いうと、 陸に あがるんですよ。

クワノ キワ クワノ ウエニ マルマッテ クワカリナドカ°  
桑の 木は 桑の 上に 丸まって 桑刈りなどが

イッタカ° ツツート ソコニ イタリ ナニカ。  
行ったが という と そこに いたり 何か。

ダカラ クイツカッター タイヘンダカラー ソノウチニャー アー  
だから 食いつかれたら たいへんだから そのうちには あー

コロッシマーカー° メッケレバネ。 (C {息を吸う音}) ン。  
殺してしまうが、 見つければね。 (C {息を吸う音}) ん。

325C : タンボニモ イルノ? アレワ。  
田んぼにも いるの? あれは。

326A : ンー タンボニモ イマスヨ。 (B イマスヨ エ) ン。  
んー 田んぼにも いますよ。 (B いますよ え) ん。

茨城 12-3

327B : タンボニモ オカニモ (A ン) インデスヨ アレワ。  
田んぼにも 陸にも (A ン) いるんですよ あれは。

328A : ソンデ アレワ ヘビ ッチューノワー コノー ハダグバ  
それで あれは 蛇 というのは この 叩けば

アー ハダシ ハデーデ コロセバ ゼッタイ ムゲネーソーダカラ。  
あー ××× 叩いて 殺せば、絶対 [に] 剥けないそうだから。

329B : コロッシャツテワ ムゲネーソーデスネ。(A ン) エ。  
殺してしまつては 剥けないそうですね。(A ン) え。

330C : イキテテ ムクワケ。  
生きていて [=生きてままで] 剥くわけ。

331A : エー \*\* イキテテ アタマカラ。  
えー \*\* 生きていて [=生きてままで] 頭から。

ハデーダ トコワ ムゲネーソーダカラ。(C {息を吐く音})  
叩いた ところは 剥けないそうだから。(C {息を吐く音})

ン。 \*\*

ん。 \*\*

332B : X6サンラ オンナデモ ムクノワ ジョーズダヨ?  
X6さん達 [は] 女でも 剥くのは 上手だよ。

(A {笑}) ソノ オバーダニ シモエド ウマレダカラ

(A {笑}) その おばあさん [は] 下江戸 生まれだから

茨城 12-4

(A {笑}) ヤマノ。

(A {笑}) 山の。

333A : アタマノ ココントコ チョット モツテ  
頭の このところ [を] ちょっと 持って、

ツルット コー ムイッチャウンダネ。 (B ン)  
つるっと こう 剥いてしまうんだね。 (B ン)

334C : カワワ ナニカ ナンデスカ カワワ。  
皮は 何か [に] なるんですか、 皮は。

335A : カワワ。  
皮は。

336B : カワワ アノー (A コノ) ヒョーソー [30] ダ ナンテ ユー  
皮は あの (A この) ひょうそうだ なんて いう

トゴサ マイドオク°ド イーソーデスヨ? (A ン)  
ところに 巻いておくと いいそうですよ。 (A ン)

ア カワ。 (C ヒョーソー) (A ン) テカ°  
あ 皮。 (C ひょうそう) (A ン) 手が

ヒョーソーニ ナッタ ナンデ アンデショーヨ。 (C ン)  
ひょうそうに なった なんて あるでしょうよ。 (C ン)

337A : コー テカ°ー アルワネー ヒョーソー ナッタノ。  
こう 手が あるわねえ ひょうそう [に] なったの。

338B : ソコサ コー マイドグド  
そこに こう 巻いておくと

(A マイ マイドグド ナオル) ナオルソーデスヨ、ウマナイデ。

(A ×× 巻いておくと 治る) 治るそうですよ、膿まないで。

(A ン) ン カワネ。

(A ん) ん 皮ね。

339A : ヨクー コノ ンー トツテキル シトワー マー  
よく この んー とってくる 人は まあ

ヤイデ タベンダネーケ。

焼いて 食べるんじゃないか。

クー ソノ イマデワ ホラー ショージュー ツケタリ  
// その 今では ほら 焼酎 [に] 漬けたり

ナニカニ シテネ ト オクカ° アー タベツチャウンダヨネ。  
何かに してね × おくが、 あー 食べてしまうんだよね。

ワダシラ バシャヒキ シタカラ ソノー ンー スコシ  
私達 [は] 馬車曳 [を] したから、 その んー 少し

ウマニ タベラセロ イギオイカ° ツツカラ ク°ライデ。  
馬に 食べさせろ、 勢いが つくから ぐらいで。

エート アレワ シツポオ ヤル ツツート シツポオ  
えーっと あれは 尻尾を やる というと 尻尾を

茨城12-6

タベラセル ツツート ケンノー。  
食べさせる というと // // //。

(C {息を吐く音}) (B {笑})  
(C {息を吐く音}) (B {笑})

アダマ タベラセット クイツカレツカラ ナンテ イツテ。  
頭 [を] 食べさせると 食いつかれるから なんて 言って。

マンナカバカナンダヨ、 アレ。  
真ん中ばかりなんだよ、 あれ。

340B : {笑} ホンノー。 \*\*\*  
{笑} // // //。 \*\*\*

341C : アー ウマ ウマ ウマ ウマ タベンデスカ アレ。  
あー 馬 馬 馬 馬 [が] 食べるんですか、 あれ [を]。

342A : ンー ナンボデモ。  
んー いくらでも。

343B : ホンノ イッスンク°ライシカ タベテワ イケネーンダ。  
ほんの 1寸くらいしか 食べては いけないんだ。

ヨゲー タベラレナイ。 アンマリ ツオスキ°テ。  
よけい [には] 食べられない。 あんまり 強すぎて。

344A : アレ ムヤミニ タベラセタラ (B ツオスキ°テ)  
あれ むやみに 食べさせたら (B 強すぎて)

ン ヨーイダネーヤ。  
ん 容易じゃないんだ。

345C : アレ ウマニワ アノママ。  
あれ 馬には あのまま。

346A : イヤー ウマニワ キッテ エー コナ シテー  
いや 馬には 切って えー 粉 [に] して、

マゼテ クワセル。 (全員 {笑})

混ぜて 食わせる。 (全員 {笑})

ソスト イギオイカ° チカ°ーンダヨネ。  
そうすると 勢いが 違うんだよね。

347B : イヤ ニンケ°ンカ° タベテモ? ヤッパ タクサン  
いや 人間が 食べても、 やっぱり たくさん

タベテワ ワルイソーデスヨ?  
食べては 悪いそうですよ。

コノッケズル コー タベナケレバネ。 (C {息を吐く音})

//////// こう 食べなければね。 (C {息を吐く音})

(A {笑}) アノ ツオスキ°ルソーデスヨ。

(A {笑}) あの 強すぎるそうですよ。

アノ ヘビーノ クチハビ ツツーノワネ  
あの 蛇の マムシ というのはね。

348A : マー セイブンカ° アル ツツノカナ?  
まあ 成分が ある っていうのかな?

349B : セーブンカ° ツヨイデショー (A ン) タシカ エー。  
成分が 強いでしょう (A ン) 確か えー。

350C : ソ ヤッパリ マムシ ナンテ ユーノモ キチョーナ モンナノネ。  
そ やっぱり マムシ なんて いうのも 貴重な ものなのね。

351A : ンー キチョーナ モンナンダネ。  
んー 貴重な ものなんだね。

352B : アレニ クイツカレタラ イノチマデ トラレッカラネ。  
あれに 食いつかれたら 命まで とられるからね。

353A : ソレカラー アー シマヘビ。  
それから あー 縞蛇

354C : アー シマヘビ。 (A ン) (B エー) アレ  
あー 縞蛇。 (A ン) (B えー) あれ [は]

クスリ ナンデスカ?  
薬 [に] なるんですか?

355A : アレワー ハイビョーノ クスリ。  
あれは 肺病の 薬。

12↑13

356B : シマヘビワ。  
縞蛇は。

茨城 13-2

357 A : シン シマヘビ ッチューノ コレ イメー イマワ。  
ん ん 縞蛇 というの [は] これ いないだろう、今は。

メッタニ。  
めったに。

358 B : イナイネー。 (A シン)  
いないねえ。 (A ん)

359 C : イヤ ワタシモ コドモノ コロ タベタデスヨ? シマヘビワ。  
いや 私も 子供の 頃、 食べましたよ、 縞蛇は。

360 A : シマヘビワ (B {咳}) アラー アー ケツカクサ イーンダヨ?  
縞蛇は (B {咳}) あれは あー 結核に いいんだよ。

アラ。 (B アー) シン。  
あれは。 (B あー) ん。

361 C : ケッコー タベタデスヨ。 (A シン) ウチノ チチカ°  
けっこう 食べましたよ。 (A ん) うちの 父が

トツテキタンデ。 (B シン) (A シン) シマヘビワ。  
とってきたんで。 (B ん) (A ん) 縞蛇は。

362 A : ウマイソーダヨ?  
うまいそうだよ。

363 B : インデ アオデアーショー チューノワ タベランネーノ、 アレ。  
それで 青大将 というのは 食べられないの、 あれ。

茨城 13-3

364A : アオダイショーモー タベル シト アッペヨ。  
青大将も 食べる 人 [が] あるだろうよ。

365B : イヤ ウジノ ヤシキン ナカニワ フットイ アオダイショー  
いや うちの 屋敷の 中には 太い 青大将 [が]

{笑} インデスヨ。

{笑} いるんですよ。

366A : アレ イヤー マーダ ココラデワ タベネーカ° (B {笑})  
あれ いや まだ このあたりでは 食べないが、 (B {笑})

タバタ シトワ アノ デアーワ タバタ ト ユー  
食べた 人は あの 台 [地のほう] は 食べた と いう

シトワ ハナシタ \*\*。

人は 話した \*\*

367B : イーヤ イッケンモ アルヨーナ ナカ°イノカ° インダモノ。  
いや 1間も あるような 長いのが いるんだもの。

(A ン) オッカネーホド フットイ コンナ フットイノカ°。

(A ん) 恐ろしいほど 太い こんな 太いのが。

368A : ヘビダケワ ダメダナ。  
蛇だけは だめだな。

369C : カミサマノ ツカイダ ナンテ ユーノカ° イルカラネ。  
神様の 使いだ なんて いうのが いるからね。

茨城 13-4

ヘビノ ナカニワネー。

蛇の 中にはねえ。

370B : シー ソンダカラ (C シー) コロスナ ナンテ (C シー)  
んー それだから (C んー) 殺すな なんて (C シー)

ユッテツケドモ。

いってるけども。

371C : アオダイショー ッテ ナマク°サインジャナイ? (A {笑})  
青大将 って 生臭いんじゃない? (A {笑})

{笑} アオ ッテ ユーソダカラ。

{笑} 青 と いうんだから。

372A : ヘビニワ イロイロー アンダワネー。

蛇には いろいろ あるんだわねえ。

373C : ネショーベン ナンカワー ナニカ クスリ アッタンデスカ?  
寝小便 なんかは 何か 薬 [が] あったんですか?

コドモカ° ネショーベン スルナンテ。

子供が 寝小便 [を] するなんて。

374A : ネショーベンニワ (B {咳}) イヌノ アガイロノ ニク  
寝小便には (B {咳}) 犬の 赤色の 肉 [を]

タベラセレバ イー ナンテワ ユッタネ。 イヌノ ニク。

食べさせれば いい なんては 言ったね。 犬の 肉。

茨城 13-5

375C : ソーデスカ。 (A ン) ホカ ナイノカナー  
そうですか。 (A ン) 他 [に] ないのかなあ、

ネショーベンニワ。 ヘビダッタラ ヘビノ コナ ナンカ  
寝小便には。 蛇だったら 蛇の 粉 なんか

ダメナノカナ? ネショーベンニ。  
駄目なのかな? 寝小便に。

376A : ネショーベンダ ヘビーノ コナーワ (C {笑}) ドーシタカナ。  
寝小便には 蛇の 粉は (C {笑}) どうしたかな。

アレ ヨク ユツタンダヨネー。 アノー アガイヌダラ アー  
あれ よく 言ったんだよねえ。 あの 赤犬なら あー

ニク タベラセツ ト ツー \*\*\*\*。  
肉 [を] 食べさせる と いう \*\*\*\*。

377B : アー ソーサネ。  
あー そうだね。

378A : ダカ° ナントナク ジブンデ コロシテワー  
だが 何となく 自分で 殺して [まで] は

(C {息を吸う音}) タベル キニ ナンネーカラナ。 ン。

(C {息を吸う音}) 食べる 気に ならないからな。 ん。

379C : ウマノ ニクナンカ クスリニ ナツタンデスカ? アレ。  
馬の 肉なんか [は] 薬に なったんですか? あれ。

茨城 13-6

380A : サー ウマノ ニグモ ソートー ソノ ウマダッテー エー  
さあ 馬の 肉も そうとう その 馬だって えー

マー ニクニ シテ バニクダ ナンテ ウツタンダガラ  
まあ 肉に して、 馬肉だ なんて 売ったんだから、

アー タベラサレタンダッペカ° ワガンメー。

あー 食べさせられたんだろうが わからないだろう。

381B : ワカンネーネ。

わからないね。

382A : コレカ° コレカ° ウシノ ニクダカ ブダ {笑} ニクダカ  
これが これが 牛の 肉だか、 豚 {笑} 肉だか

ナンテ ユッタッテ バニク ナンタッテ ワカンネー  
なんて いったって、 馬肉 [だ] なんてったって わからない

シロードワ。

素人は。

383B : シロートワネ。

素人はね。

13↑

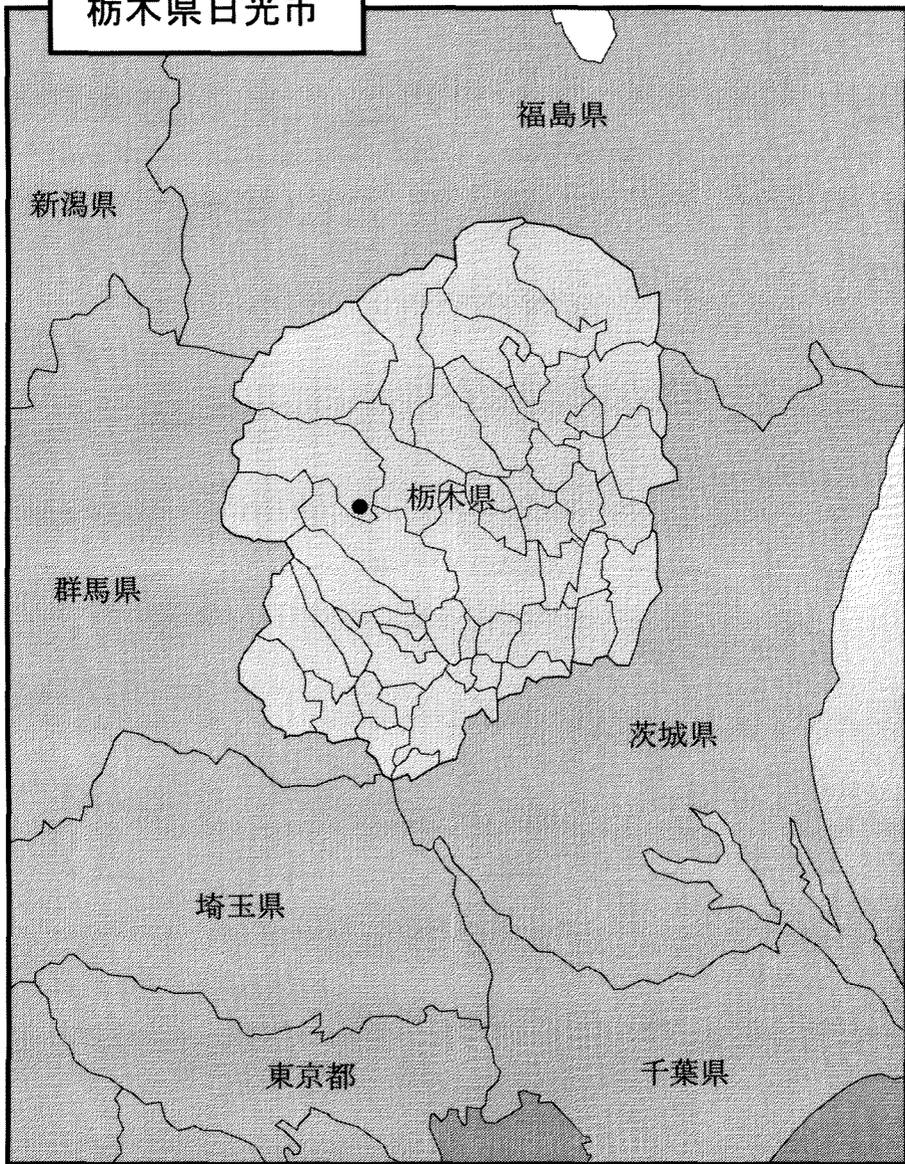
## 茨城県水戸市1982注記

- [1] ニガトーヤク  
植物名。センブリ。苦当薬。
- [2] カゴソー  
植物名。夏枯草のことと思われる。
- [3] ヒコージョー  
戦時中につくられた国田飛行場のこと。
- [4] センダン  
植物名。センダン科の落葉喬木。実は、あかぎれなどの薬となる。
- [5] コーゾ  
植物名。紙の原料となる。楮。
- [6] ミミダレグサ  
植物名の方言か。
- [7] ユキノシタ  
植物名。ユキノシタ科の多年草。
- [8] ケーロッパ  
植物名。オオバコ。カエルツパ。
- [9] コーノス  
茨城県那珂郡那珂町鴻巣。
- [10] ワダヘースケ  
和田平助。水戸藩の武士。
- [11] チジ  
松のこぶから出る樹液。
- [12] キノクラ  
茨城県那珂郡那珂町木倉。
- [13] オーミヤ  
茨城県那珂郡大宮町。
- [14] ユワセ  
茨城県那珂郡大宮町岩瀬。

- [15] シモエド  
茨城県那珂郡那珂町下江戸。
- [16] カッパ  
河童が傷薬を伝授したという伝説が県内にある。
- [17] コ  
接尾語。
- [18] ウシク  
茨城県稲敷郡牛久町。ここに牛久沼がある。
- [19] サイドーゴンペー  
斉藤権兵衛。那珂郡那珂町下江戸の人で、薬を作っていたと思われる。
- [20] オシツツァマー  
茨城県那珂郡瓜連町にある静神社。
- [21] ニジューロクヤサン  
茨城県那珂郡瓜連町にある常福寺。
- [22] ジョーホクマチ  
茨城県東茨城郡常北町。
- [23] イシツカ  
茨城県東茨城郡常北町石塚。
- [24] ヨル  
あせもなどが一か所にかたまって出る。
- [25] ヨコイサン  
横井庄一氏。
- [26] ノデー  
田んぼの水の出入りするところ。
- [27] テダス  
手甲のことと思われる。手甲は、布や革で作った、手の甲を覆うもの。
- [28] ヤマガタ  
茨城県那珂郡山方町。
- [29] ヒョーソー  
指先の部分に化膿菌が感染して起こる急性の発症。瘰癧。

**Ⅱ. 栃木県日光市  
1979**

栃木県日光市



## 栃木県日光市1979話者・担当者

### 「各地方言収集緊急調査」

話者	大橋一博 谷津カネ 矢野明次
収録担当者	中里善則
文字化担当者	中里善則
共通語訳担当者	中里善則 森 芳樹
解説担当者	中里善則

(敬称略 項目別50音順)

### 「全国方言談話データベース」

編集担当者	佐藤亮一 江川清 田原広史 井上文子
編集協力者	新井小枝子 鳥谷善史 熊谷康雄

## 栃木県日光市1979解説

### 収録地点名

栃木県日光市にっこうし小来川地区おころがわ  
(旧・栃木県上都賀郡小来川村)

### 収録地点の概観

#### 位置

日光市は栃木県の西部、小来川は日光市の中心部から南へ直線距離にして約10kmに位置する。

#### 交通

国鉄日光線鹿沼駅と今市駅の間を、小来川を經由して往復するバスの便と、両駅から小来川森崎までを折り返すバスの便がある。鹿沼駅から小来川森崎まで約1時間、今市駅からは約40分である。なお、主要地方道「鹿沼日光線」・一般県道「小来川文挾石那田線」・「小来川清滝線」が通じており、鹿沼市街まで約22km、今市市街まで約12kmである。

#### 地勢

地形的には西部山地のうちの足尾山地の北部に位置し、周囲を標高600～1,000mの山に囲まれ、2本に分かれた黒川の上流の沢沿いに集落地を形成している。小来川の標高は347.6mである。

#### 行政区画

建武年中、中納言藤原藤房が遁世来国の折、この地に宿し歌をものしたとき、河川が小さく来るこの里の形容を小来川と詠んだために、小来川と称するに至ったという。

古くから日光社領の一郷であったが、一旦分離され、1620(元和6)年日光神領に編入され、東小来川・西小来川と称した。

1869(明治2)年2月、小来川村として日光県に属し、東・西小来川に代わり一番組より六番組までの6部落制をとり、1871(明治4)年11日光県廃止とともに栃木県に属することになった。

1889(明治22)年4月、市町村制施行により、板来村大字小来川となったが、1893(明治26)年6月、板来村分村の際独立し、自治村として小来川村として発

足した。

1954(昭和29)年2月11日、折からの国の町村合併促進の政策に応じて日光市と合併し、今日に至っている。

単位集落として明治期の一番組より六番組までの呼称は、その後一区～六区と代わったが、現在ではその順に南小来川・宮小来川・東小来川・中小来川・西小来川・滝ヶ原の呼称が用いられている。

### 戸数・人口

1954(昭和29)年の合併時の国勢調査では、世帯数415戸、人口2,324人であったが、1980(昭和55)年2月の住民登録世帯、人口報告によれば、378戸、1,513人に減少している。

### 産業

東西5.0km、南北11.4km、総面積50km<sup>2</sup>の大部分は、地形を生かした杉・檜の造林地であり、木材の産出が盛んである。なお、小規模であるが、特殊林産物加工組合が設立されて、なめこ・しめじの栽培が試みられ、最近はみょうがの出荷も試みられている。水田はかつての28町歩程度が50町歩近くに拡張されているが、地形上、経営規模は小さい。

### 収録地点の方言の特色

#### 方言区画上の位置・隣接諸方言との関係

関東地方北部に位置する栃木県の言語は、県南西部の足利市・佐野市・安蘇郡とそれ以外の地とに二大別して方言地図上に線を引くことができる。前者は西関東方言地帯であり、後者は東関東方言地帯である。西関東方言地帯については、上記3地区の他に栃木市を加える説、あるいは足利市のみと見る説もある。

小来川は県北部に位置し、福島・宮城・山形などの南奥羽方言地帯に隣接または近く位置する。日光山・古峰原の信仰者は、これらの地方に多く存在し、昭和初頭まで街道を通過地として往還していたことがあるので、その影響が残されているのではないかとも思われる。

### 音韻

(1) 栃木県においては、単独の母音「イ」と「エ」とを、発音上区別しないことが多く、この際の発音は「イ」よりもむしろ「エ」に近い中間音となる。

(2) 二重母音の長母音化の傾向が著しい。特に、「アイ→エー」、「エイ→エー」の場合が多い。

アイ → エー     サイモン (祭文) → セーモン  
                      シナイ (しない) → シネー  
                      ~ク<sup>o</sup>ライ (~ぐらい) → ~ク<sup>o</sup>レー  
エイ → エー     センセイ (先生) → センセー  
                      エンテイ (堰堤) → エンテー  
                      ケンメイ (懸命) → ケンメー  
イエ → エー     ヒエ (稗) → へー  
                      ミエナイ (見えない) → メーネー

(3) 語中・語尾のカ行音・タ行音が濁音化することがある。

(4) ラ行音, 「ノ」, 「ニ」の後に [t], [d], [k], [b], [m], [n] が続く場合, 撥音の「ン」になることが多い。

アルノダカラ (あるのだから) → アンノダカラ  
オボエテ (イ) ルゼ (覚えてるぜ) → オボエテンゼ  
ソノトキ (その時) → ソントキ  
ワスレタノカモ (忘れたのかも) → ワスレタンカモ  
ジダイニナッタ (時代になった) → ジダインナッタ

(5) 「馬」が「ウマ」[uma]ではなく、「ンマ」[mma]と発音されることがある。

(6) 「ヒト (人)」は, しばしば「シト」と発音される。

(7) 「ツァ」の音がある。

チツツアイ (小さい)  
キイツツァン (貴一さん)

(8) 直音が拗音化されることがある。

ジキュー (自給) → ジュキュー

(9) 「てしまう」, 「てしまった」, 「という」, 「といった」が拗音化され, さらにその略形で用いられることが多い。

テシマウ → チャウ  
テシマッタ → チャッタ, チッタ, チタ

トイウ → チュウ, ツー, ツ

トイッタ → チュッタ, チッタ, ツッタ, チタ, ツタ

- (10) 接続詞の「それで」が数種類に発音され、しかも第1音がしばしば不明瞭に発音される。

ソレデ → ソンデ, ホンデ, フンデ, ウンデ, ンデ

## 文法

- (1) 推量, 意志, 勧誘を表す助動詞として「べー」, 「べ」, 「ペ」(促音に続く場合)が用いられる。北関東方言として有名であり, 現在でも老人層にはかなり使用されている。「ダンペー」, 「ダッペ」も推量として頻繁に用いられる。
- (2) 過去の回想, 確認の働きを持つ「タッタ」が使用される。

ミタッタ (見た)

キイタッタ (聞いた)

ゴリンカラ ツカエタッタナイ (5厘から使えたね)

- (3) 仮定を表す場合は, 「ナラ」よりも「ダラ」が使用される傾向にある。
- (4) 場所・方向・目的を表す格助詞としてサが使用されることがある。共通語の「に」, 「へ」, 「を」, 時として「で」に相当する。
- (5) 形容動詞「キレダ」が連用修飾語となる時, 「キレク」になることがある。これは形容詞「美しい」, 「清い」に類推したものであろう。
- (6) 逆接の接続助詞の「ケレド」, 「ケレドモ」に, さらに「ガ」が添加されて, 「ケレドガ」, 「ケレドモガ」となることがある。
- (7) 敬語は, 栃木県方言では一般に発達していないが, 注目すべきものとして尊敬表現の「(ラ) ッセ」の使用がある。

ハチジューマデワ イキラッセ (80歳までは生きてください)

## 語彙

動植物名, 仕事, 遊び, 信仰, 日常生活などに特徴的な語彙があり, 共通語と同形でも意味を異にするものもある。

ヤマカ<sup>°</sup>チッカ (動物の名前)

ホーキシバ (植物の名前)

ノデンボー (木の名前)

ボラ (雑木の茂み)

セーフロ（風呂）  
トリコ°ヤ（どんど焼き）  
ホケットリ（お手玉遊び）  
パス（めんこ）  
クク°ッチョ（小鳥とりのしかけ）  
ハカ°（とりもち）  
オトモリ（子守り）  
ブー（背負う）  
ナス（返す，産む）  
ミッチラ（十分，しっかり）  
マサカ（やはり，さすがに，非常に）など

（以上の解説は，基本的に，「各地方言収集緊急調査」当時の報告原稿によるものである。）

## 栃木県日光市1979凡例

談話資料は、方言談話音声、方言談話音声の文字化、方言談話の共通語訳から成る。CD-ROMには、ページ単位で切った方言談話音声を、CDには、方言談話音声全体を収録した。

### 文字化と共通語訳

方言談話音声の文字化はカタカナで表記し、方言談話の共通語訳は、漢字かなまじりで表記した。方言談話音声の文字化と共通語訳とは、対照ができるように、上下2段を1組として示した。上段が文字化、下段がその共通語訳である。

文字化については、表音的カタカナ表記を用いている。つまり、長音は「ー」で示し、助詞「は」は「ワ」、助詞「を」は「オ」、助詞「へ」は「エ」と表記する。「カ°」「キ°」「ク°」「ケ°」「コ°」はガ行鼻濁音を表す。

また、分かち書き、句読点などは、便宜的なもので、厳密なものではない。「各地方言収集緊急調査」における、方言談話音声の文字化の方法は、後に掲げる「調査実施上の留意事項について」などに詳しく記されている。ただし、今回、「全国方言談話データベース」として公開するにあたり、文字化・共通語訳を整備する際には、当時のマニュアルにはとらわれず、読みやすさ、意味のとりやすさを優先して処理をした部分がある。

また、この文字化は、時間の流れを忠実に反映することを意図していない。したがって、発話の重なりや、複線的な会話の進行の構造が、文字化からは読み取れない。データを使用する際には、文字化・共通語訳を見るだけでなく、実際に、音声を聞いて判断していただきたい。

### 発話単位

ひとりの話者が続けて話している、話者が交替するまでの連続した発言を1発話とする。途中にあいづちが入る場合もある。

### 発話番号 〈半角〉

発話の通し番号を、各発話の話者記号の前に付した。

例：1A

## 話者記号 〈全角〉

話者、調査者など、談話の場にいる人物について、A、B、C、D、E、F、……のように、アルファベットで示した。

例：1A

## 固有名詞

話者および一般の人名については、文字化・共通語訳の該当個所を、A、B、C、X1、X2、X3などのアルファベットに置き換えた。話者、調査者など、談話の場にいる人物については、A、B、C、D、E、F、……のように示し、話題の中の第三者については、X1、X2、X3、……のように示した。ただし、音声は、該当個所に加工をしなかった。

歴史上の人物や、有名人の人名については、記号に置き換えることはせず、個人名を出すことにした。また、会社名、店名、製品名などについても、発言されたとおりに記している。

地名については、そのまま扱うことにした。

## 記号

### 。(句点) 〈全角〉

ポーズがあって、意味的にひとつのまとまりを持つ文と考えられる個所。

共通語訳については、実際の発話でポーズが置かれていないところでも、意味の取りやすさを優先して句点をつけた場合もある。

例：ソーデス ソーデス

そうです。 そうです。

### 、(読点) 〈全角〉

基本的に息をついた個所、または、ポーズのある個所。

共通語訳については、実際の発話でポーズが置かれていないところでも、意味の取りやすさを優先して読点をつけた場合もある。

また、文字化と対応しなくなっても、読みやすさを優先して、取り去った場合もある。

例：シ、ヤクシヨ

市役所

? (全角)

上昇イントネーションと判断した個所。

例：アズケトイテ？

預けておいて？

( ) (全角)

あいづち。ひとりの人が連続して話している時にさえぎったり、口をはさんだりした個所。

(A ……) のように、開き括弧の次にあるアルファベットは、発言している話者を示す。( ) の閉じ括弧の直前の句読点は省略した。

なお、( ) 内のあいづちと、独立した発話扱いされているあいづち的発話との違いは必ずしも明確ではない。

例：(A アー ソーデスカ)

{ } (全角)

笑，咳，咳払い，間，などの非言語音。

例：{笑}

{咳}

{手を叩く音}

××× (全角)

言い間違いや言い淀みなど。

例：ム ム ムツカシー

× × 難しい

\*\*\* (全角)

聞き取れない部分。

例：オチャズケノ\*

お茶漬けの\*

//// (全角)

対応する共通語訳が不明な部分。

例：モーゼーノ モジナンデスナ、

//////// 「文字」 なんですネ。

[ ] 〈全角〉

方言音声には出てこないが、共通語訳の際に補った部分。

例：ミカン ノセテ  
みかん [を] 乗せて

= 〈全角〉

[ ] 内の=は、意味の説明や、意識であることを示す。

例：イマ ユー  
今 いう [=今話題にあがった]

| | 〈全角〉

注意書きなど。

例：| Aに対して|

[ ] 〈全角〉

注記。方言形の意味・用法、特徴的音声などについて説明し、文字化・共通語訳の後にまとめてある。[ ] 内の半角数字は、注記の番号を示す。

例：ホシツキサソノオモチ [1]

## 音声

CD-ROMには、冊子のページ単位で区切った方言音声の wave ファイルを収録している。冊子のページを pdf ファイルにしたものに、方言音声をリンクさせていて、各ページにある **再生** の部分をクリックすると、そのページの音声を聞くことができる。

CDには、談話全体の音声を収録している。以下にあげるように、適当な個所で、トラックに区切っている。

## CDトラック番号

文字化・共通語訳のヘッダは、方言音声を収録した CD のトラック番号を示している。「栃木 14-1」は CD トラック番号が 14 で、その 1 ページ目ということである。「栃木 14-1」「栃木 14-2」……「栃木 14-12/15-1」……「栃木 22-8」のように表示される。

また、文字化・共通語訳部分には、CD のトラックの切れ目を表示した。矢印の部分

がトラックの切れ目を表し、その両側の数字はトラック番号である。**↑14**， **14↑15**， …… **21↑22**， **22↑** のように表示される。

第4巻のCD（73分33秒）には、栃木県日光市の談話、【狐のいたずら、昔の祝儀、遊び、正月行事、浪曲師】の全体の音声を収録している。各トラックの開始ページ・行、終了ページ・行、時間は下記のとおりである。行は、文字化の行を表示した。

トラックNo.	開始ページ・行	終了ページ・行	時間:分:秒
14	p.131・0.1	p.142・0.7	0:03:54
15	p.142・0.9	p.151・0.11	0:04:06
16	p.151・0.13	p.161・0.1	0:04:02
17	p.161・0.3	p.171・0.3	0:04:23
18	p.171・0.5	p.179・0.15	0:03:51
19	p.179・0.17	p.189・0.9	0:04:02
20	p.189・0.9	p.197・0.13	0:03:59
21	p.197・0.15	p.205・0.15	0:04:00
22	p.205・0.17	p.212・0.7	0:02:26
計			0:34:43

## 栃木県日光市1979談話

収録地点 栃木県日光市にっこうし おころがわ小来川地区  
(旧・栃木県上都賀郡小来川村)

収録日時 1979(昭和54)年8月20日

収録場所 栃木県日光市小来川 日光市教育委員会 小来川分館

話題 狐のいたずら, 昔の祝儀, 遊び, 正月行事, 浪曲師

話者

A	男	1917(大正6)年生	(収録時62歳)	農業
B	女	1913(大正2)年生	(収録時66歳)	農業
C	女	1909(明治42)年生	(収録時70歳)	農業

調査員

D	男			
---	---	--	--	--

収録時間 (CD) 34分43秒

【狐のいたずら、昔の祝儀、遊び、正月行事、浪曲師】

話し手

- A 男 大正6年生 (収録時62歳)  
B 男 大正2年生 (収録時66歳)  
C 女 明治42年生 (収録時70歳)  
D 男 (調査員)

1B：ヤマナカ [1] アタリニモ キツネワ イタ。  
山中 あたりにも 狐は いた。

↑14

オレー アノー ハナミノ ハナミジャ ネー、  
俺、 あのう 花見の、 花見じゃ ない、

ハナイチノ カエリニー ヨル オソーク (A ウン)  
花市の 帰りに 夜 遅く (A うん)

ジデンシャデ キタ トキニ、 コンコン コンコンテ ナイテ イタノー、  
自転車で 来た ときに、 こんこん こんこんと 鳴いて いたのを、

ウン エンテートコロノ (A ウン) カミデ、  
うん 堰堤 [の] 所の (A うん) 上で、

オレ ソノ コエオ キイタ コト アルケド (A ハー)  
俺 その 声を 聞いた こと [が] あるけど (A はあ)

ホントニ コンコンッテ キコエルネ。 (A ハー)  
ほんとうに こんこんと 聞こえるね。 (A はあ)

栃木 14-2

フシギニ キツネノ コエワ。  
不思議に 狐の 声は。

2C : スト ウチノ ウラノ イナリサマワー  
すると [私の] 家の 裏の 稲荷様は

シロキ°ツネダッタノ。 (A アー)  
白狐だったの。 (A ああ)

ソンデ ホラ イツカ アノー Bサンチノー  
それで ほら いつか あのう Bさん [の] 家の

オオ アノー X1サン [2] ト (B ウン)  
×× あのう X1さんと (B うん)

コキ°シテンデ アノー イマイチカラー アノー  
懇意 [に] しているので あの 今市から あの

ダイフクナンカ シッカリ モラッタダヨネ。  
大福 [餅] なんか たくさん もらったのだよね。

ソンデ (B ウン) ヨッパラ アソンデー ヨルンナッテ  
それで (B うん) 十分 遊んで 夜になって

ホラー カド デタラバ ハ [3] カド デルート  
ほら 門 [を] 出たところ もう 門 [を] 出ると、

ハ バカンサレタツツンド。 ソノー、 (B フーン)  
もう 馬鹿にされたっていうぞ。 そのお、 (B ふーん)

栃木 14-3

オマンジュー ホシクッテ。 (B ウン)

お饅頭 [を] 欲しくて。 (B うん)

ソンデ ヨク X1サン [4] カ ウチエ キチャ  
それで よく X1さんが [私の] 家へ 来ては

ヒトツバナシ ミタイニ イッタンセ。  
一つ [覚えの] 話 みたいに 言ったのさ。

ソンデ ヨーヨデ  
それで ようようで [=やっとの思いで]

アノ ウチエ イキツイテ (B ウン)

あの 家へ 行き着いて [=たどり着いて] (B うん)

シテ アノー、 オカアチャ オッカサンワ ナン チッタッケ?  
それで あの、 ×××× お母さんは 何 といったっけ?

ウーン X1サンノ オヤワ (A \*\*\*) ナン ツタッケナ。  
うーん X1さんの [母] 親は (A \*\*\*) 何 といったっけな。

ア カーチャン。  
あ かあちゃん [は]。

3A : オヤワ ナン ツンダ \*\* X2サン [4] ノ  
親は 何 というんだ \*\* X2さんの

4C : ナン ツタッケナ。 X2サンノ カミサン。  
何 といったけな。 X2さんの [お] かみさん。

栃木 14-4

ナン テ

何 と

5B : \*\*\* (A ジブンカ°) X3 [5] ッチュンダケド  
\*\*\* (A 自分が) X3 というんだけど

X4 [6] ッチュッタンダ。 \*\*\* (A アー)

X4 っていったのだ。 \*\*\* (A ああ)

6C : オX4サン。 (B ウーン) オX4サンカ° トキデ  
おX4さん。 (B うーん) おX4さんの ときで

オッカー オレワ ウチエ キタンダンベナ  
「おっかあ、俺は 家へ 来たのだろうな」

ッテ イッタツツンダヨ。 (B ウン ウン)  
と 言ったというのだよ。 (B うん うん)

スト ナンダ コノヤロー ウチ キテ ソトコト ユー  
すると 「なんだ この野郎 家へ 来て そのようなこと 言う」

チュト マタ チーット スキ°ット  
というと また 少し 過ぎると

オッカー ウチエ キタンダンベナ ッテ。  
「おっかあ 家へ 来たのだろうな」 って。

ソレオ サーンカイグ°レ イッタッテ。 (B フーン)  
それを 3回ぐらい 言ったって。 (B ふーん)

栃木 14-5

ソシタラ ソンデモ ジブンデ ショーチシテ  
そしたら それでも 自分で 承知して

ソノ オマンジュー モラッタノワ ミッチラ カカエタンデ  
その お饅頭 [を] もらったのは しっかり 抱えたので

(B ウーン) アノ トランナカッタ ッチュコトワ。

(B うーん) あの 盗られなかった ということは。

7B : ソレ バカニ サレチャッタンダ。  
それ 馬鹿に されてしまったのだ。

8C : バカン サレテ (B ハハー) ソーユク ャッタネ。  
馬鹿に されて (B ははあ) そういうこと [を] 言ったね。

(B ウーン) デ アノ カドカ° ワカンナカッタ チュンダカラ

(B うーん) で あの 門が わからなかった いうのだから

コー (B へー)

こう (B へー)

X5サンチノ カドト (A ウン) ウチノカドカ°。

X5さんの家の 門と (A うん) 家の門が。

ハンダカラ デルト スク°ー ツケラレタラシッテ。

それだから 出ると すぐに [後を] つけられたらしいって。

(B ウーン) ヨーク ココニー キツネカ° イルゾー

(B うーん) よく ここには 狐が いるぞ、

栃木 14-6

キツネカ° イルゾ ッチュコトワ (B ウーン)  
狐が いるぞ ということは (B うーん)

ウチ キテ ナンカイモ イッタヨ。(A・B ウン)  
[私の] 家 [に] 来て 何回も 言ったよ。(A・B うん)

{間} イナリサマカ° アッカラ キツネモ イツカナ ナント。  
{間} 稲荷様が あるから 狐も いるかな なんて。

{笑} (A ウーン) ネ。

{笑} (A うーん) ね。

9B : ムカシャー アノ テンノーヤマノ シタノ アタリノ ネットコン  
昔は あの 天王山の 下の あたりの 根っこの

(A ウン) トコニヤ アナダラケダッタンダカラ。

(A うん) ところには 穴だらけだったのだから。

(A アー ア) オラノ コドモン トキワ。 ウン。

(A ああ あ) 俺らの 子どもの ときは。 うん。

ソレー イマワ アナワ ネーケンドモ タシカニ  
それ 今は 穴は ないけれども 確かに

キツネワ イタワヨ。

狐は いたわよ。

10A : \*\*\*

\*\*\*

栃木 14-7

11B : ノ ボデラ [7] デ ニドク<sup>レ</sup>レー ミタモン。  
× 坊平で 二度ぐらい 見たもの。

12A : ハー イタンベケンド  
はあ [=もう] いたのだからけれど、

リョーワ スクネヤナー。  
量は 少ないやなあ。

13B : イーヤー ス\*\* ホントニ キーロイ エー エロ シテルヨー。  
イーヤー ×\*\* ほんとうに 黄色い いい 色 してるよ。

(C ウーン) キツネエロ ッチケンド。  
(C うーん) 狐色 というけれど。

14A : ホッカー キツネワ ナンベカンダ  
そうかあ、 狐は //////////////

15B : ホントノ キツネナンダヨ。  
ほんとうの 狐なんだよ。

16A : {笑} ホッカ  
{笑} ///

ホカノ アレジャ ネンケネー {笑}  
他の あれでは ないのかねえ。 {笑}

17B : ダッテ オラチノ アノー モト ヤケジョカ<sup>°</sup> アッタ トコノ  
だって 俺の家の あのー もと 夜警所が あった ところの

栃木 14-8

アノ ドカンノ ウエニ ノボッタダ。

あの 土管の 上に 登ったんだ。

ホレー ミタンダ。 (A アー) (C ハー)

それを 見たのだ。 (A あー) (C はー)

アスコエ イッタラバー オ オレット デカシタンダカラ。

あそこへ 行ったならば × 俺と 出くわしたのだから。

(A ウン) (C ハー) ミチデ。

(A うん) (C はあ) 道で。

(A ウン) ダカ° アスコエ ムク° ッチャヤカ° ッタ。

(A うん) だが、あそこへ 潜ってしまいやがった。

(A ウン)

(A うん)

18C : デ キツネダカ ムジナダカ シンネケド

で、 狐だか 貉だか 知らないけれど

トモロコシナンカワ (A ウーン) カエテ

トウモロコシなんかは (A うーん) くわえて

モッテッチマウワネ。

持って行ってしまおうね。

(A ウーン) ムジナダカ ドーナン ドッチナンダカ。

(A うーん) 貉だか どうなの どちらなのだか。

栃木 14-9

19B : キツネワ イタワヤナ。 タシカニ。  
狐は いたよ。 確かに。

20A : キョネンダカー オットシアタリワ ムカイハラ [8] アタリデ  
去年だか 一昨年あたりは、 向原あたりで

ズイブン トームキ° カカレタンダヨネー。  
ずいぶん トウモロコシ [を] 折られたのだよね。

(B ハー)

(B はあ)

21C : ナンデモ ウチアタリモ コ アノ カカレタゼ。  
なんでも、 うちあたりも × あの 折られたぜ。

(A ウーン) (B ウーン)

(A うーん) (B うーん)

22A : トームキ° デキンアキ。  
トウモロコシ [が] できるときに。

23A : ダカラ クマジャ ネーンカナ。  
だから 熊では ないのかな。

24C : ウーン ナンデモ ナンデモネ ウーン。 (B ハー)  
うーん。 とにかく とにかくね、 うーん。 (B はあ)

25A : ヨナカニ キテ。  
夜中に 来て。

栃木 14-10

26B : キツネ (C {咳払い}) キツネジャ ネーナ。  
狐 (C {咳払い}) 狐では ないな。

ソラ クマダカ シンネナ アラー。  
それは 熊だか しれないな あれは。

27A : \*\*\* シトバンニ ヤラレチャウンダチュカラ。  
\*\*\* 一晩に やられてしまうのだから。

(B ヘエー) \*\*\*。

(B ヘええ) \*\*\*

28C : ソーイッパイデモ ネーケンドネ。 ニサンボン  
そういっばいでも ないけれどね。 2、3本

29B : キツネワー  
狐は

30C : オッタワ \*\*\*  
折ったわ \*\*\*

31A : ソーワ クワネーカンネ。  
そうは 食わないからね。

32B : \*\*\*ナー  
\*\*\*なあ

33A : ソーワ デキネヨ。 キツネワ チツツアイカラ  
そうは できないよ。 狐は 小さいから

(B ウーン)

(B うーん)

34B : ソーフ クワネヨ。  
そうは 食わないよ。

35A : クマダ ッチュタヨ。 (C クビヤー ソーケ エー)  
熊だ といったよ。 (C / / / そうかい、 ええ)

36B : ソラ ソダヤ  
それは そうだよ。

37A : シトッパタケク°レー シトバンニ \*\*\*  
一畑くらい [=畑一枚くらい] 一晩に \*\*\*

38B : アラ テカ° アンダモノ。 (A ウーン)  
あれは 手が あるのだもの。 (A うーん)

ガルガルガル クウ  
がるがるがる [と] 食う

39A : デ カラオ (B \*\*\* ハー) チラシテ イグ°ンダ  
で からを (B \*\*\* はあ) 散らして 行くのだ

ッチュカラ。 (C ウーン) (B ハハー) {間}  
というから。 (C うーん) (B ははあ) {間}

40C : キョーネワ ダイブー ソッチ コッチー  
去年は だいぶん そっち こっちに [=ほうぼうに]

栃木 14-12/15-1

(A ウン) シッパリ アルッタケンド

(A うん) 引っ張り 歩いたけれど

コトシワ ソンナ コトワ ネーヨダネ。 イマノ。  
今年は そんな ことは ないようだね。 今の。

41A : イマツトコワ ネーヨネー。 (C エー)

今のところは ないよね。 (C ええ)

42C : ドコ イツテモ アルカラー ア イマントカラー。 {間}

どこ [に] 行っても あるから × 今のところは。 {間}

14↑15

43A : ジャ Cチャンノ ホーエダ。 ジャー X6サン [9] コト

では Cちゃんの ほうにだ。 では X6さん [の] こと

モラウ トキノ ホンジャ ハナシー キカセロヤ。  
もらう ときの それでは 話を 聴かせろや。

(C ナンダカ {笑}) (B ウン) (A・B・C {笑})

(C なんだか {笑}) (B うん) (A・B・C {笑})

44C : ナ ゴジューネンノ オハナシ (A・B {笑})

× 50年の お話 (A・B {笑})

\* オモイデモ ナクツテ。 {笑}

\* 思い出も なくて。 {笑}

45A : ダケド ゴシューキン トキワ ナンデ キタンダヨ。

だけど ご祝儀の ときは 何で 来たのだよ。

ンマカイ？ バシヤカイ？  
馬かい？ 馬車かい？

46C：バシヤダッタネ。  
馬車だったね。

47A：バシヤカイ。 (C ハイ) トテバシヤ。 (C ハイ)  
馬車かい。 (C はい) とて馬車。 (C はい)

ウーン。  
うーん。

48C：フバサミ [10] カラ ホラ (B ウーン) (A アー)  
文挾から ほら (B うーん) (A あー)

デテタカラ ハー ゴジュネンダヨ。  
出てたから もう 50年だよ。

49A：ゴジュネンダンベケドサ。 (B {笑}) {笑}  
50年だろうけれどさ。 (B {笑}) {笑}

50B：ハー アノ ジダイワ トテバシヤダッタカイ。 (C ウ マー)  
はあ あの 時代は とて馬車だったかい。 (C う まー)

51A：トテバシヤダカ シンネナー。  
とて馬車だか [も] しれないなあ。

アノー オレノ シタノ オX7サンガ° オラ  
あのう 俺の 下の おX7さんが 俺 [は]

栃木 15-3

クットキ シッテンダヨ。 (B アー ソーカイ)  
来るとき [のことを] 知っているのだよ (B ああ そうかい)

(B ウーン) トテバシャデ クンノ。  
(B うーん) とて馬車で 来るの。

カジツツァカ [11] サカ<sup>o</sup>ッテ クンノ  
鍛冶坂 [を] さがって 来るの [を]

(B ウン ウーン) チョーチン グルット クツツケテー  
(B うん うーん) 提灯 [を] ぐるっと くつつけて

イマノ ヤタイ ミテータ。  
今の 屋台 [=花車] みたいた。

(B ハー) (C {笑}) ウンデ  
(B はあ) (C {笑}) それで

オレ ガタガタ ガタガタ サカ<sup>o</sup>ッテグノ  
俺 [は] がたがた がたがた [と] 下がって来るの [を]

コッチデ ハー ミンナ ミテテー (B フーン)  
こっちで もう みんな [が] 見ていて (B ふうん)

トークエ クルナー。 {笑} デムカエタリ  
遠くへ 来るなあ。 {笑} 出迎えたり

52C : ナンダカ ムカ<sup>o</sup>ムチュデー {笑} ハナシ  
何だか 無我夢中で {笑} 話 [を]

栃木 15-4

スルヨナコトモ。 {笑}

するようなことも。 {笑}

53A：オラン トキワー センソチューダッタカラ。

俺の ときは 戦争中だったから。

オラ モクタンシャ チュンデー ノッテ キタンダヨ。

俺は 木炭車 というので 乗って 来たのだよ。

(C ハー) {笑} フバサミカラ。

(C はあ) {笑} 文挟から。

ソーシタラ アノ ナメカ°ワ [12] ノサカエ

そうしたら あの 行川の坂へ

タラバ クルマカ° アカ° ンネエンダ。

[そうし] たらば 車が 上がらないのだ。

モクタンシャ ナンデェ?

木炭車 なの?

54C：ハー ソイジャ ヒドカッタダネー。

もう それでは ひどかったのだね。

55A：アレジャー ヒデカッタネー。 ホンデ シャーネンデー

あれでは ひどかったねえ。 それで しかたがないので

ヨメサマダケワ ノセテ。

嫁様だけは 乗せて。

栃木 15-5

ミンナ オムコサンマデ オリテー アトオシダモノ。  
みんな お婿さんまで 降りて 後押ししたもの。

(C ハー) (B ウン。 {咳})  
(C はあ) (B うん。 {咳})

56C : マッタクネー。  
まったくねえ。

57A : センソーチューダカンネ。  
戦争中だからね。

58C : イマトワ エライ チカ°イダヨー。  
今とは たいへんな 違いだったよ。

(A ウーン) {笑}  
(A うーん) {笑}

59B : サカーン ナル\*ト チカラカ° ナクテ アカ°レネノ  
坂に なる\*と 力が なくて 上がれないの。

{笑}  
{笑}

60A : アカ°レネーデ シトカ° ゴヌン ゴヌンク°レ ノッタ  
上がれないで 人が 5人 5人くらい 乗った [ら]

アカ°レネーダカンネー。 {間}  
上がれないのだからねえ。 {間}

栃木 15-6

イマト ゼンゼン ソノ アレカ° チカ°ウカラ。  
今と 全然 その あれが 違うから。

(C {咳払い}) ジダイカ° \*\*\*カラ アレダケンド。  
(C {咳払い}) 時代が \*\*\*から あれだけど。

チャント ナコドサマカ° キテ ナカエ ハイッテナー。  
ちゃんと 仲人様が 来て 中へ 入ってねえ。

61C : イマ ミテナ ジブンデ ヨ ヨクレバ  
今 みたいに 自分で × よければ

イ ナンチュンジャネ。  
いい などというのではない。

ミタコトモ ナニモ ナクテ {笑}  
見たことも 何も なくて {笑}

イッターリ キタリ (A フーン) シシャッタダカンネー。  
行ったり 来たり (A ふーん) してしまったのだからねえ。

62A : ウーン ホンデ ウン。  
うーん それで うん。

ホンデ ミンナ ジタクデ トマリコミダネー。 (C ソーダヨ)  
それで 皆 自宅で 泊まり込みだねえ。 (C そうだよ)

アーッチコッツィノ シンセキカラ シカシ ヨク  
あっちこっちの [=ほうぼうの] 親戚から しかし よく

栃木 15-7

アノ コロワ シカシ ナンジューニンモ キテ ネットマリシテ。  
あの 頃は しかし 何10人も 来て 寝泊りして。

(A・C {笑})

(A・C {笑})

63C : ケッコ ナントカ カントカ ソーク [13] ヤッタンダカンネー。  
けっこう、なんとか かんとか そういふうに やったのだからねえ。

ドコデモ

どこでも

64A : スコ°セタンダネー。 (C ハーイ)

過ごせたのだねえ。 (C はい)

ドンナ コトデシテ ネットンダカ ナンダカ (C {笑})

どんな ことでした 寝たのだから 何だか (C {笑})

\*\*\* {笑} アノ トジワ トテモ タイヘンダンベ。

\*\*\* {笑} あの 当時は とても たいへんだらう。

カク° {間} リョーリヤワ トマリコンデ キテ ヤルシネー。

// {間} 料理屋は 泊まり込んで 来て やるしねえ。

(C マーッタク) ナニッカ {間}

(C まったく) 何か {間}

イライ サワキ°ダッタヨ。 イマト チカ°ッテナ。

たいへんな 騒ぎだったよ。 今と 違ってな。

栃木 15-8

イマワ ホラ (C イマワー) カネダケ ダセバネ。  
今は ほら (C 今は) 金だけ 出せばね。

(C ソーダヨ) ミンナ ドコエデモ イッテデキルケンド。  
(C そうだよ) みんな どこへでも 行ってできるけれど。

ナンデモ カンデモ ウチデ。 {間} センコ°ダワネ。  
何でも かんでも 家で。 {間} 戦後だわね。

コーフニ カワッテ キタノワネ。 (C ホント)  
こういうふうに変わって きたのはね。 (C ほんとう)

(B ウン ウン) {間}  
(B うん うん) {間}

65C : ム  
×

66A : ムッカシノ ホンデー コドモタチカ°  
昔の それで 子どもたちが [=の]

アーツソビカタナントカ° (B {咳}) ムカシワ サカナトリ。  
遊び方などが (B {咳}) 昔は 魚とり。

イマワ ツリ ッチュノモ ホーボデ ヤッテケド  
今は 釣り というものも ほうぼうで やっているけれど

ツリ ナンチュノワ ヤッタ コト ナカッタケド。  
釣り などというのは やった こと [が] なかったけれど。

栃木 15-9

Bヤン ド ドーシタッタヤ。 テズカミ。  
Bさん × どうした [の] でしたか。 手掴み。

67B : オラネ ツリッ ツリッデ モンジャネーヤ。  
俺はね ××× 釣りという [ちゃんとした] ものではないや。

68A : テズカミ。  
手掴み。

69B : ヤス [14] ズキカ°。 {笑}  
やす突きが。 {笑}

70A : ヤスズキト アレ ヤマエ ハイット サワワ ハー ホスノネー。  
やす突きと あれ 山へ 入ると 沢は もう 干すのね。

(B ウン) ナ ナニボシ ッチュウタツケ? アラ。  
(B うん) × 何干し といったっけ? あれは。

カタッポエヨ。 (B ウン。 カワボシネー)  
片方へよ。 (B うん。 川干しねえ)

ポリ エー ホリオ マワシテ。 (C アー ネ) ホシテー  
×× エー 堀を 回して。 (C あー ね) 干して

フチミテナトコ ホシテ (C ハー) ホー。  
溯みたいなところ [を] 干して (C はあ) ××

71B : アレカ° オモシロクッテナー。 {笑}  
あれが 面白くてねえ。 {笑}

栃木 15-10/16-1

72A : オモシロクッテネー。 ヤマ イッテニ ホレカ°  
面白くてねえ。 山 [へ] 行ってね それが

ユイツノ マー タノシミダッタナー。 ヤマエ ハイッテ。  
唯一の まあ 楽しみだったなあ。 山へ 入って。

ヤマダ [15] ニ イタカラ モット サカナネー (B ウーン)  
山の中の田んぼに いたから もっと 魚ねえ (B うーん)

ヤマダン ヤマダノ カジッカ [16] ダノ。 (C {咳})  
×××× ヤマメだの カジカだの。 (C {咳})

ナンダカー ソーユモノ オソラク メーネーナー。  
何だか そういうもの おそらく 見えないな。

サワ ハイッテモ。  
沢 [に] 入っても。

15↑16

73B : ヤ ムッカシ マカ°リバタ [17] ナン チュノニ  
や 昔 曲畑など というところに

ナンボ ヤモ [18] カ° イタンダカ ワカンナカッタ。  
どんなにか やまめが いたのだから 分からなかった。

(C ハー)

(C はあ)

74A : イタンダヨナー サワ サワニ。  
いたのだよね 沢 沢に。

栃木 16-2

75B : ヒトフチゴトニ ミンナ ヤモカ° イタンダ。 (C ハー)  
一涸ごとに みんな やまめが いたのだ。 (C はあ)

76A : ウン タマッテタンダヨネー。  
うん たまっていたのだよね。

77B : イマワ イナクナッチャッタ。  
今は いなくなっちゃった。

78A : イナイヤ。 シトツツモ ホント メーネーヤ。  
いないや。 ひとつも ほんとうに 見えないや。

カジッカダッテ イネアーシ。 (B ウン)  
かじかだって いないし。 (B うん)

79C : コノー オーカワダッテ チューニュー [19] ヤッテッカラー  
この 大川だって 注入 [を] やってから [は]

グット (A ウーン) ヘッタッチュ コト  
ぐっと (A うーん) 減ったという こと [を]

ユーンダワネ。  
いうのだわね。

80A : ウンデ オーカワニ イタノワ カジッカト アレダ ザッコケ?  
それで 大川に いたのは かじかと あれだ 雑魚かい?

81B : ウン ソーダネ。  
うん そうだね。

栃木 16-3

82A : ネー。 ヤモワ イナカッタワナ。 (B ウン) アンマリネー。  
ねえ。 やまめは いなかったわな。 (B うん) あまりねえ。

イクラカ イタケド。 (B ウン) デ ドシタ  
いくらか [は] いたけれど。 (B うん) で どうした

83B : デ イマワー サカナモ コンデ フイチシタンダヨ。  
で 今は 魚も これで 増えてきたのだよ。

チューニュー ヤメテー マー (A ウーン) シバラクン  
注入 [を] やめて まあ (A うーん) しばらく

ナッカンネー。 (A ウン)  
なるからね。 (A うん)

84C : ハー ハ シバラクンナルワネー。 (B ウン)  
もう もう しばらくになるわねえ。 (B うん)

85A : ザッコナント フイタワネー。  
雑魚など 増えたわねえ。

86B : フイタヨ。  
増えたよ。

87C : アー ソーカイ。 (B ウン ウン)  
ああ そうかい。 (B うん うん)

88B : ヤモダッテ イルヨーニ ナッタモン。 (A ウーン)  
やまめだって いるように なったもの。 (A うーん)

栃木 16-4

モトワ イナカッタヨ。 (A ウン)  
もとは いなかったよ。 (A うん)

ゼンゼン ヤモナンタ。  
ぜんぜん やまめなどは。

89A : サワッコニワ イタモンネー。 (B ウン) モット。  
沢には いたものねえ。 (B うん) もっと。

90C : ハー ナンジューネンニモ ナンペカラー  
もう 何10年にも なるだろうから

(A ウン) ネー。 (B ウン)  
(A うん) ねえ。 (B うん)

91A : アンデー トキドキー サカナトリ ツレテッテ モラッテ  
あれで 時々 魚とり [に] 連れていって もらって

アノ ヨッチ X8チャンカ° イテネ。 {笑}  
あの ××× X8ちゃんが いてね。 {笑}

X8チャンカ° ソーダイショーデ。 \*\*\*  
X8ちゃんが 総大将で。 \*\*\*

92B : ヤツワ スキダッタカンナー。 (A ウーン) {笑}  
奴は 好きだったからなあ。 (A うーん) {笑}

93A : ハー ヨバラレテェ。 サカナトリ ツレテッテェ  
もう 呼ばれて。 魚とり 連れていって

栃木 16-5

コブンデ ホラ ツカーレタワケサ。 (C アー)  
子分で ほら 使われたわけさ。 (C ああ)

(A・B・C {笑})  
(A・B・C {笑})

アノ シトワ オヤブンデ (B エー) マー カントクヤクデ。  
あの 人は 親分で (B えー) まあ 監督役で。

(C {笑}) ホンデ ワケマエニ ナットー  
(C {笑}) それで 分け前に なるよ

オヤブンカ° イートコ トッチャッテ。  
親分が いいところを とってしまつて。

(A・B・C {笑}) {間} アレナンドワ。  
(A・B・C {笑}) {間} あれなのだよ。

ンデ カタッポエ ソレオ ホリキリオ シテ ミズマワシオ シテ。  
それで 片方へ それを 堀切を して 水回しを して。

94C : ホネオットコワ ヤッタカイ? {笑}  
骨を折る [=たいへんな] ところは やったかい? {笑}

95A : エー。 デ テズカミデネー。 (C アー) マダ イクラカ  
ええ。 で 手掴みでねえ。 (C ああ) まだ いくらか

ホラ シミテー タマッテンノカ° アル。  
ほら [水が] しみて たまっているのが ある。

栃木 16-6

ソコニ ホラ ミンナ (C アー) サカナカ°  
そこに ほら みんな (C ああ) 魚が

アツマツチャンダヨネー。 (C ハー)  
集まってしまうのだよねえ。 (C はあ)

96B : アンデ X8チャンワ コドモモ ノコシタンカイ?  
あれで X8ちゃんは 子どもも 残したのかい?

97A : コドモワ イルワ。 (B アー ーン ウーン)  
子どもは いるわ。 (B ああ んー うーん)

フタリカ ソコラ (B ウーン) インジャ ネーカナ。  
二人か そこら (B うーん) いるのではないかな。

98B : ジャー ソートー オッキクナッテルナ。  
では 相当 大きくなっているな。

99A : ヤー オーキイワ。  
やあ 大きいわ。

100C : マルダイ [20] ノ (A エー) ヒトカイ? アー ソーカイ。  
丸大の (A ええ) 人かい? ああ そうかい。

101A : ウン マルダイノ ヒトダ シタニ イインチョーノ  
うん 丸大の 人だ 下に 委員長の

102B : マ マルダイジャ ネーヨ。 X9ツァン [21] チノ アレサ。  
× 丸大では ないよ。 X9さん [の] 家の あれさ。

栃木 16-7

103C : アー X9チャン ハー ソーケ。  
ああ X9ちゃん はあ そうかい。

104A : ウン モー ナクナッチタケンド。 (C ウーン)  
うん もう 亡くなってしまったけれど。 (C うーん)

B ヤンヨリー アレダ  
B やんより あれだ

105B : オレヨリ ヒトツツ オッキンダヨ。  
俺より 一つ [=1歳] 大きいのだよ [=年上なのだよ]。

106C : アー ソーカイ。 モン。  
ああ そうかい。 ××

107A : イツキュー シター ソノ シトトー アレ  
1級 [=1学年] 下の その 人と あれ

イッショニ ツレアリテ イッタダヨナ。 (B {笑})  
一緒に 連れられて 行ったのだよな。 (B {笑})

(C ウーン ウーン) トート。 (B ウン)  
(C うーん うーん) いつも (B うん)

サカナトリ。 (B ウン)  
魚とり。 (B うん)

108C : マ アソビ ゲッタッテ ナーン ソゲニ ナカッタモノ。  
ま 遊び といったって 何 [も] そんなに なかったもの。

栃木 16-8

109A : ナニモ ホラ アソビー ッチュモノカ° ナカッタカンネ。  
何も ほら 遊び というものが なかったからね。

(C ウーン) ツリ ナンチュノワ ゼンゼン ナカッタシネー。  
(C うーん) 釣り などというのは ぜんぜん なかったしねえ。

110B : X10ヤン [22] ワ イマデモー インカイ？  
X10さんは 今でも いるかい？

111A : イネーヤ。 ナクナッター キョネン  
いないや。 亡くなった。 去年

112B : ア ナグナッタンカイ。 (A ウン) アレー。 ウーン。  
あ 亡くなったのかい。 (A うん) あれえ。 うーん。

113A : キョネン。 ソレトー ウナキ°トリカイ？  
去年。 それと 鰻とりかい？

ウキスチューノ ツクッテネー。 (B ウーン) アレ。  
うけすというの [を] 作ってね。 (B うーん) あれ。

ヨクー アレダ  
よく あれだ

114B : X11ヤン [23] モ シンダッチッタネ。 (A ウン) ネ。  
X11さんも 死んだと聞いたね。 (A うん) ね。

115A : アノ シトワ センソーチューダ。  
あの 人は 戦争中だ。

栃木 16-9

116B : \*\* センソーチューダナー アレワ (C ウーン) {間}  
\*\* 戦争中だなあ あれは (C うーん) {間}

117A : ウン ムカシワ ホラ トリトリ。  
うん 昔は ほら 鳥とり。

コトリワ カク° クク°ツッチョ [24] チューノ ツクツテ。  
小鳥は ×× くぐっちょ というの [を] 作って。

(B・C {笑}) (C {咳払い}) クク°ツッチョー ツクツテ。  
(B・C {笑}) (C {咳払い}) くぐっちょを 作って。

アラー ホージロガナー イマ イエバ。 (B ウン) ネー。  
あれは ホオジロだなあ 今 [で] いえバ。 (B うん) ねえ。

ホージロダノ イロイロ。  
ホオジロだの いろいろ。

ソノホカニー ホラ ハカ° [25] ツチタツケカ アレ。  
その他には ほら はが といったっけか あれ。

トリモチデ (B ウン ウン) コマカクヨ ホラ ミズ ミズノミバ  
とりもちで (B うん うん) 細かくよ ほら 水 水飲み場

サワヤエ ミズノミニ キタ (B サワニネ) トコロナイ [26]。  
沢などへ 水飲みに 来た (B 沢にね) ところね。

(B ウン) ソノ フチエ ス センボ [27]。  
(B うん) その 淵へ × せんぼ。

栃木 16-10

センボ ッチュタンダナ アラ。 (C センボ ッチュタン\*)  
せんぼ といったのだな あれは。 (C せんぼ といったの\*)

トリモチオ クツケター (B ウン)  
とりもちを くつつけた (B うん)

アノー クシ ミテーナサ ソーユノ オイテ トツタリ。  
あの一 串 みたいなさ そういうの [を] 置いて とつたり。

コトリワ ソレマエ ウント イタシネー。  
小鳥は それ [の] 前 [は] うんと いたしねえ。

(B ウーン) イマト チカッテー。  
(B うーん) 今と 違って。

ホーントニ ムカシワ イロイロ イタケド。 {間}  
ほんとうに 昔は いろいろ いたけど。 {間}

ツイニ イマワ ホッホホー モー。  
ついに 今は // // // // もう。

カスミアミデ トルノ キンシサレチッタケンドモ。  
かすみ網で 取るの [を] 禁止されてしまったけれども。

ヤマノ テッペンサ アミオ ハッテ トヤ [28]。 トヤトリ。  
山の 頂上に 網を 張って 鳥屋。 鳥屋取り。

ソコエ ミニ イツタリ ナニカ シテー。  
そこへ 見に行ったり 何か して。

栃木 16-11/17-1

コトリワ ホーフニ トレタシ。 {間}

小鳥は 豊富に とれたし。 {間}

16↑17

ズイブン オコロカ°ンダッテ ナンカシヨモ アッタンベヤ  
ずいぶん 小来川にだって 何か所も あっただろうよ

アントキワネー。 (B ウーン)

あのときはねえ。 (B うーん)

コッサイリ [29] ダノ スキ°ザイ [30] ノ アタリダノ。

小沢入りだの 菅沢入りの あたりだの。

ナ \*\* コタツイリ [31] ニモ アッタ。 オネバタケ [32] ダノ。

× \*\* 古里入りにも あった。 尾根畑だの。

118B : アノジダイワ ソートー ツク° [33] モ トレタンベー。

あの時代は 相当 ツグミも とれただろう。

ゴロッカシヨ アッタンベ。 ウーン。

5、6か所 あっただろう。 うーん。

119A : トルシトワ アサニー ヒトアサニ ホラ ナンジューレンモ

とる人は 朝に 一朝に ほら 何10連も

トレタナンツンダカラ。 (C ウン) イチレンチノワ

取れたなどというのだから。 (C うん) 1連というのは

アラ ジュッパダッタンベ。

あれは 10羽だっただろう。

栃木 17-2

120C : ジュッパナンダカ シンネネ。 {咳払い}  
10羽なのだから しれないね。 {咳払い}

121A : アノー ワラナワサ コー (B ウン) アンデ。  
あのを 藁縄を こう (B うん) 編んで。

クビオ ハサンデナ。  
首を 挟んでな。

122C : マイトシ ウラ ウチノ (A ウン) オトツツアンラ  
毎年 裏 [の] 家の (A うん) おとつつあんら

ホラ ホーキシバ [34] キンダ ナンツツテ (A アー)  
ほら 帚柴 [を] 切るのだ などと言って (A ああ)

マイトシ サケダノ ダイコンダノ (A ウーン)  
毎年 酒だの 大根だの (A うーん)

ソンナモノ ショイアケ°テ イチンチ。  
そんなもの 背負い上げて 1日。

123A : アレワー ホレ ヤマノ テッペンデ アサヒカ° アカ°ットコロ  
あれは ほれ 山の 頂上で 朝日が 上がるどころ [の]

マエダンベカラ ヒノ アカ°ルネー。  
前だろから 日の 上がるねえ。

(C ウン) (B ウン) ホンデ トリオ トツテ  
(C うん) (B うん) それで 鳥を 取って

栃木 17-3

(C ヤイテ。 {笑})

(C 焼いて。 {笑})

ソレオ ヤイテナ イッパイ ヤッタ\*  
それを 焼いてな 一杯 やった\*

(C ソレ タベテ。 {笑}) キブンカ° タシカニ イーヨ。

(C それ 食べて。 {笑}) 気分が 確かに いいよ。

イマ ミツリョーデ キンジラレテッケド。

今 密猟で 禁じられているけど。

アノコロワ オンカン [35] ニ ミンナ デキタシネー。

あの頃は おおっぴらに みんな できたしねえ。

(C イータカンネー)

(C いたからねえ)

ホンデー ナン ツタッテ カズカ° イタカネー。

それで 何 とやったって 数が いたからねえ。

(B ウン) {間}

(B うん) {間}

124B : マー トヤジャ ニタンタ [36] ノ ウン ケシクカ°

まあ 鳥屋では 二反田の うん 景色が

イチバン イーモノ。 (A ウン) {鼻をすする音}

いちばん いいもの。 (A うん) {鼻をすする音}

栃木 17-4

ウツノミヤ マルミダカンネー。(C ハー)  
宇都宮 [が] 丸見えだからねえ。(C はあ)

コサンタ [37] ワ。  
小沢田は。

125A : ニタンタ。 コサユリノ。  
二反田。 小沢入りの。

126B : ウン。 コサユリノ。(A ウーン) (C コサユリノネ)  
うん。 小沢入りの。(A うーん) (C 小沢入りのね)

ウーン。  
うーん。

127A : アッチワー ホント。 ヨルノ クライ ウチッカラ アカッテ。  
あっちは ほんとう。 夜の 暗い うちから 上がって。

(B ウン) ヨアケカ° アッテネー。  
(B うん) 夜明けが あってねえ。

128C : ソノコロワ マダ ジテンシャモー ナクテ タイヘンダヨ。 {笑}  
その頃は まだ 自転車も なくて たいへんだよ。 {笑}

ヨチヨチ アルッテ。  
よちよち 歩いて。

129A : ウン ジデンシャモ カワト アルテダカンネー。  
うん 自転車も // 歩いてだからねえ。

栃木 17-5

130C : ソレ ヤマノ ミネマデ イグノ タイヘンダッタ。  
それ 山の 峰まで 行くの [が] たいへんだったなあ。

{笑} (A ノボラネート) {間}

{笑} (A 登らないと) {間}

131A : イマ ゼンゼン トヤバ ナンチュノ  
今 ゼんぜん 鳥屋場 などというの [は]

ナクナッチタケンド。  
なくなってしまったけれど。

アノコロ ゾーキモ ホラ オーカッタシネ。  
あの頃 雑木も ほら 多かったしね。

(C ウン) トリモ ホーフニ イタカラ。

(C うん) 鳥も 豊富に いたから。

132B : ニタンタワ X12コーチャン [38] トーチャンカ°  
二反田は X12校長 [の] おとうさんが

ヤ ハッテタンダカラ。 (A アー)

屋 [を] 張っていたのだから。 (A ああ)

オレ イッテ トマッテ キタコトアンダ。 ウーン。

俺 [は] 行って 泊まって きたことがあるのだ。 うーん。

133A : サカモトヤ [39] ノ X13ナントモ ヤッタノ  
坂本屋の X13などとも やったの

134B : アー ウン。 ソーダ。

ああ うん。 そうだ。

135A : アラー ソノ アトダ。

あれは その 後だ。

136B : ソノ アトダ。 (A ウーン) サカモトヤカ° アッタノ\*。

その 後だ。 (A うーん) 坂本屋が あったの\*

137A : オラモ イッタ コト アンナー コサイレ。

俺も 行った こと [が] あるなあ 小沢入り [には]。

(B ウーン) X14ヤンカ° ヤッテオッタカン\*\*

(B うーん) X14さんが やっていたから\*\*

138B : アー ソッカイ。 (A ウーン)

ああ そうかい。 (A うーん)

139A : アーサ クライノニ テサグ°リデ {笑} (C {笑})

朝 暗いのに 手探りで {笑} (C {笑})

ナワ モッテ。 (B ウン) {間}

縄 [を] 持って。 (B うん) {間}

140D : オンナノコナンカー ドンナ アソビ シテタンカー。

女の子なんかは どんな 遊び [を] してたのかなあ。

141C : オン (A ウン) マ ナンテ イッテイーカ。

×× (A うん) ま なんて 言っていいか。

栃木 17-7

142A : ホッケ [40] チュンケ アレ。 (C ハイッ?)  
「ホッケ」 というのかい あれ。 (C はいっ?)

ホッケ。 ホッケ ッテ。  
「ホッケ」。 「ホッケ」 って。

143C : ホッケー。 ソンナ マンノシカ ナカッタカラナイ。  
「ホッケ」。 そんな ものしか なかったからね。

144A : アーン (C オ オナワ) ナ ナワ ナン アレー  
あーん (C × 女は) × 縄 ×× あれ

アヤトリ ッチュンケ。  
「アヤトリ」 というのかい。

145C : アヤトリダトカ サイ オニンキ°ヨサンナンカ ツクツタリ。  
「アヤトリ」だとか // お人形さんなんか 作ったり。

146A : ウン。 ニンキ°ヨアソビネ。  
うん。 人形遊びね。

147C : ソーユー。  
そういう。

148A : アヤトリト ホッケー チンカナ。  
「アヤトリ」と 「ホッケ」 というのかな。

149B : ウー オテダマ トルコト ホッケトリー  
ウー お手玉 [を] とること [を] 「ホッケトリ」

栃木 17-8

ホッケトリ チュタンダカンナー。  
「ホッケトリ」といったのだからなあ。

(A ウーン) ウーン。 ウン。

(A うーん) うーん。 うん。

150C : ホッケトリ チッタ。  
「ホッケトリ」といった。

151A : オテダマ。  
お手玉。

152C : ソレニー テンマリ。 テンマリツキダナンテ。  
それに 手まり。 「テンマリツキ」だなんて。

(A アー テンマリ) {笑}

(A ああ 手まり) {笑}

153A : ソレニ ナン チュッタツケヤ。 アノー。  
それに 何 といいつけや。 あのー。

154C : マー ソレカ° イチバンノ アソビーコ°トク°ライダッタワネ。  
まあ それが いちばんの 遊びごとぐら이었다わね。

155A : ニワサ コー アレ カイテー マルナンテ カイテ トン  
庭に こう あれ 描いて 丸なんて 描いて ××

トンデ アルクノ ナン チッタツケ アラー。  
飛んで 歩くの 何 といったかい あれは。

アナフミダッタカ。  
「アナフミ」だったか。

156C : アレワー。  
あれは一。

157A : イシケン [41]。  
「イシケン」。

158C : イシケン。 イシケン。 (B ウーン)  
「イシケン」。 「イシケン」。 (B うーん)

(A イシケンカ) ソ イシケン テ アノー  
(A 「イシケン」か) × 「石けん」 って あの

イシ ナケ°チャ アソブー (A ウーン) {笑} アレサ。  
石 [を] 投げては 遊ぶ (A うーん) {笑} あれさ。

159A : デ イロイロナ カタチニ カイテナー。 (C ハイ)  
[それ]で いろいろな 形に 描いてなあ。 (C はい)

(B ウン) コー ナケ°テー カタシデ コー トントン  
(B うん) こう 投げて [は] 片足で こう とんとん。

ハネテツタリ。 \*\* イシケリ。  
跳ねて行ったり。 \*\* 石けり。

160C : ナワー ナワハネダ ナンツタリ ソーユー  
縄を 「ナワハネ」だ などといたり そういう

栃木 17-10

(A \*\*\*ネー) {間} デ アンマリ

(A \*\*\*ねえ) {間} [それ] で あまり

ベンキョーモ シネーデ ソータコトデー (A ウン) {笑}

勉強も しないで そんなことで (A うん) {笑}

(A {笑}) ジブンラノ ジダイワ {笑} オエチャッタンダヨ。

(A {笑}) 自分らの 時代は {笑} 終えてしまったのだよ。

161A : アーソビワ アソビドーク° チタッテナー ウーン。

遊びは 遊び道具 といったってなあ うーん。

162C : ソンデ コドモ ブエノナンテー

それで 子ども [を] 負ぶえの [=だ] なんて

ブッチラレタリ (A オットモリカ° \*\*\*)

負ぶわせられたり (A 子守りが \*\*\*)

オットモリカ° アレダ\*\*

子守りが あれだ\*\*

163B : オトコワ パスブチ [42] グ°レダカンナー。

男は 「パスブチ」 くらいだからなあ。

(C ソーダヨ) (A ウーン) ウン。 {笑}

(C そうだよ) (A うーん) うん。 {笑}

164C : マ セキー (A ウン) タコデモ アケ°レバ

まあ // (A うん) 凧でも あげれば

ソソデ アレダカラ。  
それで あれだから。

165A : ウン パスブチニ タコアケ°。 {間}  
うん 「パスブチ」に 「タコアケ」。 {間}

17↑18

ハナビ ナンチュノワ ナカッタカンナ。  
花火 などというのは なかったからな。

166C : ハナビ ナンチュコトモ ナカッタシナイ。  
花火 などということも なかったしね。

167A : ソナニネー。 ナカナカ タカクテ。  
そんなにねえ。 なかなか 高くて。

センコハナビカ° アルグレーデ。 {間}  
線香花火が あるくらいで。 {間}

168C : イマノ コドモワ ムロン ナシデモ オモチャモ アレダシ。  
今の 子どもは むろん なしでも 玩具も あれだし。

169A : ウン。 ネー イマ ナンデモ スキナモノ アルカラネー。  
うん。 ねえ 今 何でも 好きなもの あるからねえ。

170C : タイシタ ウン \*\*\* スキナモノ アル \*\*\*  
たいした うん \*\*\* 好きなもの ある \*\*\*

171B : シアワセダイ。 イマノ コドモラワ。  
幸せだよ。 今の 子どもたちは。

栃木 18-2

172C : コドモワネー。 (A ウン)

子どもはねえ。 (A うん)

ナンデモ オモチャモ ナニモ ナクテ  
何でも 玩具も 何も なくて

マサカ タマニヤ クリームモ ツケタンダモ\*。  
やはり たまには クリームも つけたのだ\*\*。

クリームノ ビンナンカ {笑} ツケテー。  
クリームの 瓶なんか {笑} つけて。

(A ウン) ソーユー オモチャデ。

(A うん) そういう 玩具で。

173A : デ ムガシワ クリヒロイ イツテネー。  
[それ]で 昔は 栗拾い [に] 行ってねえ。

(B ウーン) ヤマニ クリカ° オチテサイ。

(B うーん) 山に 栗が 落ちてさ。

(C \*\*\*\*\*) ダカラネー) アキン ナット。

(C \*\*\*\*\*) だからねえ) 秋に なんと。

クリワー ズイブン アッタッタナー。  
栗は ずいぶん あったものだなあ。

フトコロエ マー キモン キテ イッタンダケド。  
懐へ まあ 着物 [を] 着て 行ったのだけど。

栃木 18-3

{笑} (C キ {笑}) グルート ツケテー。

{笑} (C × {笑}) ぐるっと つけて。

カラダ シトマワリ スルホド、 ヒロッタコト アッタネー。  
体 [に] 一回り するほど、 拾ったこと [が] あったなあ。

モミノ キダチ [43] ダノ アレ。 (C ハー) (B アー)  
もみの キダチだの あれ。 (C はあ) (B ああ)

ゲンパチザワ [44] ノ ハイリックチワ トツタンベ。  
源八沢の 入り口は とっただろう。

(B ウン) ムカイカ°ワ\* (B ウン ウン) ドバー  
(B うん) 向かい側\* (B うん うん) ///

ナカノサワノ ハイリ  
中の沢の 入り

174B : マダ クリワ アッコラニ アッタカンナー。 ゲンパチザワノ \*\*  
まだ 栗は あそこらに あったからなあ。 源八沢の \*\*

175A : クールノ キカ° エーッパイ (B ウン)  
栗の 木が いっぱい (B うん)

デカイノカ° アッテー。 (B アー)  
大きいのが あって。 (B ああ)

アーノコロワ クリカ° ヒロエタナ。 (B ウーン)  
あのころは 栗が 拾えたな。 (B うーん)

栃木 18-4

イマコ°ロワ チ チタケトリモ ナンボデモ アッタシネー  
今ごろは × チタケとりも いくらでも あったしねえ

ゾーキカ° オーカッタカラ。  
雑木が 多かったから。

イーマ チタケワ クスリニ スルホド アー アレモ ネーワ。  
今 ちたけは 薬に するほど ああ あれも ないわ。

モー ドコ イッテモ。  
もう どこ [へ] 行っても。

176B : イツノ ヨニモ チタケナント ミタコト  
いつの 世にも チタケなど 見たこと [が]

(A ウーン) ネーナ。 ウン。  
(A うーん) ないな。 うん。

177A : ソイニ アキンナット アケビトリ。 (C アケビ。 {笑})  
それに 秋になると アケビ採り。 (C アケビ。 {笑})

(B ウーン) イッタコト ナー。  
(B うーん) 行ったこと なあ。

カワップチ ズーット サワ アカ°ッテ イクト  
川淵 [を] ずっと 沢 [を] 上がって 行くと

カワノ フチノ デカイ キダノ ボラ [45] ニ  
川の 淵の 大きい 木だの 茂みに

コー カラマッテ。 {間}

こう 絡まって。 {間}

178C : タベリヤー イー アジダカンネー アケビワ。  
食べれば いい 味だからねえ アケビは。

(A ウン アケビワ) タネカ° アンダケンド。 {笑}

(A うん アケビは) 種が あるのだけど。 {笑}

(B うん {咳})

(B うん {咳})

179A : ウン アケビワ モー ホラ アッケドー ホラ  
うん アケビは もう ほら あるけれど ほら

イマミテーニ ナンデモ アル トキジャ ナカッタカラー。  
今みたいに 何でも ある ときでは なかったから。

(C エ ソー) クダモノカ°ネー。

(C え そう) 果物がねえ。

180C : ウマカッタンダカ シンネケンド イマワ。  
うまかったのだから [どうだか] 知らないけれど 今は。

181A : ウマカッタ\* イマー アケビ (C アンノー)  
うまかった\* 今 [は] アケビ (C あのう)

アッタッテサイ トル シト (C アンダ)

あったってさ とる 人 [は] (C //)

栃木 18-6

アンマリ イネケンド。 (B {笑}) (C ナイー)  
あまり いないけれど。 (B {笑}) (C ねえ)

182B : タイシター (A ウーン) モンダ ト オモッタヨ。  
たいした (A うーん) ものだ と思ったよ。

アケビナンダー メズラシクッテ  
アケビなどは 珍しくて

(A マーツタク アーキジャネ)  
(A まったく 秋ではね)

(C ソーダヨ) ウーン。 (A タベタモンダヨ)  
(C そうだよ) うーん。 (A 食べたものだよ)

183B : イマー ソレデ ホント クワネーヨ。  
今は それで ほんとう [に] 食わないよ。

(A ウン) トテモ。 (C {笑})  
(A うん) とても。 (C {笑})

184A : キョービワ コトリカ° タベルク°レーデ。 (B ウン {笑})  
このごろは 小鳥が 食べるくらいで。 (B うん {笑})

ナシ カキダノネー。 カキモ ズイブン。 (B フーン)  
梨 柿だのねえ。 柿も ずいぶん。 (B ふーん)

185C : ズイブン ナッテモ タベチャットンダケンド (A ウン)  
ずいぶん なっても 食べてしまったのだけれど (A うん)

栃木 18-7

イマワ ナンボモ ナンネンノ。  
今は いくらかも ならないの。

ソレカ° ノコッテー (B ウン) タベル。  
それが 残って (B うん) 食べる。

186A : カキモ イマワ トンネシネー。 {間}  
柿も 今は とらないしね。 {間}

マサカー [46] ソレー イマ ウエツケ\* スキーニ  
やはり それ [を] 今 植えつけ\* 杉に

ミンナ {咳払い} ヒノキニ ウエチャッタケド  
みんな {咳払い} 檜に 植えてしまったけれど

ムカシ ゴーキカ° オーカッタカラ (C ソーネ)  
昔 [は] 雑木が 多かったから (C そうね)

ソーユー ヤマノ サチワー オーカッタヨネー。  
そういう 山の 幸は 多かったよねえ。

187B : ウーン オーカッタネ。 ムカシワ。  
うーん 多かったね。 昔は。

188A : キノコニシロ (B ウン) ソーユー ナリモンニシロ  
茸にしる (B うん) そういう なりものにしる

(B ウン) デ ドコ イッテモ ソーユー  
(B うん) [それ] で どこ [へ] 行っても そういう

栃木 18-8

アレカ° アツタカラ。 (B ウン) {間}  
あれが あったから。 (B うん) {間}

イマワ ホントニ キノコナントモ ジブンデ ツクンナクッチャ  
今は ほんとうに 茸なども 自分で 作らなくては

タベラレナクナッチッテ。  
食べられなくなってしまっテ。

189C : サ イマノー イマ デル キノコワ アジカ° ネーノナイ。  
さ 今の 今 出る 茸は 味が ないのね。

190A : ヤッパリ ジンコーダカンネー。 (C ハーイ)  
やっぱり 人工だからねえ。 (C はい)

シゼンニー (C アー ソダヨ) ヤマエ デタノワ。  
自然に (C ああ そうだよ) 山へ 出たのは。

191C : クーキモ (A ウン) アレダシ。  
空気も (A うん) あれだし。

ダシモ アンマリ デネーнда。  
だしも あまり 出ないのだ。

192B : ウン オカ° オカ° ックズエ デター キノコ ナントワー  
うん ×× おが屑に 出た 茸 などは

(A ウーン) ウマカネーヨ。 タカカ° カタチダケデ。  
(A うーん) うまくはないよ。 たかが 形だけで。

栃木 18-9/19-1

ウン。 (A ウーン)

うん。 (A うーん)

193C : ムカシ ナンカ マー (A メズラシ\*) コー  
昔 なんか まあ (A 珍しい\*) こう

ナン チュカ ツイテンダ トカ ナンダ トカチャ  
何 とうか ついてるのだ とか 何だ とか言うては

(A ウン) オリニ ハイッテタ ヒトツツク°ライワ

(A うん) 折り [箱] に 入っていた 一つくらいは

(B アー) (A ウン)

(B ああ) (A うん)

トーテモ オイシクッテー {笑} タベタンダケンドモ  
とても おいしくて {笑} 食べたのだけれども

マー イマワ キノコダッテ ソノヨニ ウマカナクッテ。  
まあ 今は 茸だっ て そのように うまくはなくて。

194A : キセツンナット ホーフニ デテクッカラ ドシテモ。  
季節になると 豊富に 出てくるから どうしても。

18↑

—— 中 略 ——

195A : コラー アノー ホラ トリコ°ヤ [47] ワ ショーカ°ツノ  
これは あの ほら 鳥小屋は 正月の

↑19

栃木 19-2

マー コドモノ ネンチュキ° ヨージノ イチバン  
まあ 子どもの 年中行事の いちばん

タノシミノ オッキイ シコ° トデ  
楽しみの 大きい 仕事で

196 B : ソンデー (A ホン) コノ ブラックワ イチバン  
それで (A //) この 部落は いちばん

マー カネー モラエタカンナ。 (A {笑})  
まあ 金を 貰えたからな。 (A {笑})

ドコノ ブラックエ イッタッテ ココノ {笑} (A アレワー)  
どこの 部落へ 行ったって ここの {笑} (A あれは)

\*\*\* カネンナッタ ブラックワ ネーンダカラ。  
\*\*\* 金になった 部落は ないのだから。

197 A : ジューヨッカ。 (B イチバ\*) イチカ° ツジューヨッカカ°  
14日。 (B ///\*) 1月14日が

トリコ° ヤノ ヤク バンダッタネー。  
鳥小屋の [=鳥小屋] 焼く 晩だったねえ。

(B ウーン) (C ソーダネ) ンデー ハー  
(B うーん) (C そうだね) それで もう

オサンカ° ニチ スキ° ット ハジマッタンダヨ。  
お三が日 [が] 過ぎると 始まったのだよ。

栃木 19-3

ゴミアツメネー。 (B ハー \*\*\* ウーン)  
ごみ集め [が] ねえ。 (B はー \*\*\* うーん)

ホーボカラ ゴミト タケー モライアツメテ。  
ほうぼうから ごみと 竹を 貰い集めて。

ホンデ カクブラクデ ヤッテンダケド アレダワネー  
それで 各部落で やっているのだけど あれだわねえ

ガッコサ イク<sup>ト</sup> コノ トリコ<sup>ヤノ</sup> デカイノ  
学校へ 行くと この 鳥小屋の 大きいの

(A・B・C {笑}) (C ジマン ジマンシテ。 {笑})  
(A・B・C {笑}) (C 自慢 自慢して。 {笑})

アー デキタノカ<sup>°</sup> ジマンニナツテェ。  
あー できたのが 自慢になって。

198B : カインジャー ニ ニクブラク [48] ニワ  
//////// × 二区部落には

カナネナカッタカンナー。  
かなわなかったからねえ。

(C {笑}) (A ニブラクワ ホラ) アラ ヒトツツダカラ。  
(C {笑}) (A 二部落は ほら) あれは 一つだから。

199C : ヒトツーニ マトマツテイルカラ。  
一つに まとまっているから。

栃木 19-4

200A : ヒトツダシ マ。  
一つだし ま。

201B : コッチャー カミ シモ ベツダカラ。  
こっちは 上 [と] 下 [が] 別だから。

202A : ヨンブラク [49] ワ カミ シモ ベツダケンドネ。  
四部落は 上 [と] 下 [が] 別だけれどね。

203B : ホンデ イトックビ [50] ダ ナンチ (A ウン) イワレテ  
それで 糸首だ などと (A うん) 言われて

クヤシクッテ。 (A・B・C {笑})

悔しくって。 (A・B・C {笑})

204A : ソレトー (B {笑}) アトワ \*\* ショーカ°ツノ  
それと (B {笑}) あとは \*\* 正月の

ホーノ サムライノ アレ デッテネ。 (B ウン)

ほうの 侍の あれ 出てね。 (B うん)

ゴネン シンネンマワリデ。

ご年 新年回りで。

カタナ ワキザシオ ツクッテモラッテ。

刀 [と] 脇差を 作ってもらって。

ノデンボー [51] デ。 (B ウン)

のでんぼうで。 (B うん)

栃木 19-5

ソNDER オイワイオ モラウノカ° タノシミデネ。  
それで お祝いを もらうのが 楽しみでね。

(C ホーント。 {笑}) アノコロワ ゴジッセンダー  
(C ほんとう。 {笑}) あのころは 50銭だの

イ\*\*ナントウン ロクジュッセンダナンター  
/\*\*// // 60銭だなんて

シトリノ ワケマエカ° アルナンチッタラ  
一人の 分け前が あるなどといったら

イライ アレダッタ。  
えらい あれだった。

205 B : ウーン。 ターイシタ モンダッタヨ。  
うん。 たいした ものだったよ。

ゴロクジュッセンニナッタノ  
5、60銭になったの

ナナジュッセンク°レニ ナッタコトカ° (A ウン)  
70銭くらいに なったことが (A うん)

アルカンネー。 ウン。  
あるからねえ。 うん。

206 C : ウーチデモ ホラ ハジメテノ (A ウン)  
うちでも ほら 初めての (A うん)

栃木 19-6

ナンネンブリノ オトコッコデ (A ウン)  
何年ぶりの 男の子で (A うん)

ホラ ロクカ°クネンデ オワリダカンネ。 (A ウン)  
ほら 6学年で 終わりだからね。 (A うん)

ソンド ウチデ ヤドシタラ ヤー ミンナ タノシクッテ  
それで うちで 宿 [を] したら やあ 皆 楽しくて

マー ナン アノ カレーカ° イッ チワケデ  
まあ // あの カレー [ライス] が いい というわけで

カレー ツクッタラ マー (A ウン)  
カレー [を] 作ったら まあ (A うん)

オレワ ゴハイメダ ナンテ {笑} タベル コドモモ アッタヨ。  
俺は 5杯目だ などと {笑} 食べる 子どもも あったよ。

(A エー) オトコノ ソダチザカリダカラ。  
(A ええ) 男の 育ち盛りだから。

207A : ホントネ。 ショーカ°ツノ アレダッテネイ。  
ほんとうね。 正月の あれだっけね。

ギョージダッテ ホラ イマト チカ°ッテ  
行事だっけ ほら 今と 違って

ヤマカラー オマツオ ムカエテキテ ドコデモ  
山から お松を 迎えてきて どこでも

栃木 19-7

カドマツヤ ウチンナカ イッパイニ カザラシ。  
門松や 家の中 [に] いっぱいに 飾るし。

(C イッパイ カザルカンネー) オトーミョー アケルシネ。  
(C いっぱい 飾るからねえ) お燈明 [を] あげるしね。

208C : イマワ (A ウーン) オマツモ ホントノ  
今は (A うーん) お松も ほんとうの

(A エー) {笑} (A ホンデー)  
(A えー) {笑} (A それで)

アレダケ デキル ヒトトリデ。  
あれだけ できる 一通りで。

209B : マー ゴムクサダッテ アツマッタカンネー。  
まあ ごみ草だって 集まったからねえ。

210A : デ ゴミモ アツメテ (C ウーン)  
[それ] で ごみも 集めて (C うーん)

ヤー ホレカ° マー ジマンナンダヨ  
やあ それが まあ 自慢 [に] なるのだよ

ガッコイグットネ。 {笑} (B {笑})  
学校 [へ] 行くとね。 {笑} (B {笑})

エー マケ マケチャ シャーネツ チュトコデ。  
ええ 負け 負けては しょうがない ということ [＝こと] で。

栃木 19-8

(B ウン) アーンデ。

(B うん) あれで。

アレワ ナンネン ショカ°ッコー ナンネンーアタリカラ  
あれは 何年 小学校 何年あたりから

ナン ニ ニネンカ サンネン アタリカラ デタンダッタンベカ。  
何 × 2年か 3年 あたりから 出たのだったろうか。

211B : ソーダッタナー。 ニネンカ サンネンダッタナイ。  
そうだったなあ。 2年か 3年だったね。

212C : カミエバワー ショーカ°ッコー アカ°ルト デラレンダヨ。  
////// 小学校 [に] 上がると 出られるのだよ。

(A アー) ハイ。 (A スクナカッタ)

(A ああ) はい。 (A 少なかった)

ソンデ ロクネンデ オシマイ。 (A ウン)  
それで 6年で おしまい。 (A うん)

213A : ソンデ ヤドデワ オニシメオ ツクッテ モラッテ  
それで 宿では お煮しめを 作って もらって

サケオ カッテ。  
酒を 買って。

エー ホ トリコ°ヤエ イクト  
ええ × 鳥小屋へ 行くと

栃木 19-9

ミンナ オキヤクサンニ ツイデ  
みんな お客さんに ついで

エー ダシテ セッター シテモラッタンダケンドナー。  
えー 出して 接待 してもらったのだけれどなあ。

214C : ソレオ ナー ン オキヤクサマニナイ  
それを // / お客様にね

サケトー ハサンデ ヤッテ。 {笑}  
酒と 挟んで やって。 {笑}

215A : ウチノ オヤタチモ ホーラ イッショケンメーデ  
うちの 親たちも ほら 一生懸命で

ヤッパリー オニシメ ツクッテ  
やっぱり お煮しめ [を] 作って

サケノ サカナダナ ケッキョク。 (C アー サカナ)  
酒の さかなだな 結局 [は] (C ああ さかな)

ジューバコ イレテ {笑} イクツモ。  
重箱 [に] 入れて {笑} いくつも。

216C : ニンジン ゴボーダケデネ。 (A エー)  
人参 [と] 牛蒡だけでね。 (A ええ)

217A : ホンデー カミデ モー オーゴ°ヤ ココ°ヤツッテ  
それで 上で もう 大小屋 小小屋とって

栃木 19-10

オキット ツイツツアイ コヤオ ツクツテ。  
大きい [の] と 小さい 小屋を 作って。

ホンデ ハジメワ ツイツツアイノカラ モシハジマツテ。  
それで 始めは 小さいのから 燃し始まって。

218C : ハー オッキーノ ソラ (A ウーン) オッキーノサ  
もう 大きい の そら (A うーん) 大きい の

モヤシタゾ ナンチツテ オーイソキ°デ ダシテェ  
燃やしたぞ などと言って 大急ぎで 出して

{笑} ダンコ° ショツテ {笑}  
{笑} だんご 背負って {笑}

219A : ウーン デ アモー ドコデ モシタカ \*\*\*  
うーん [それ] で / / / どこで 燃したから \*\*\*

{笑} コッチデ モーセ ナンテ  
{笑} こっちで [も] 燃やせ なんて

ダンコ°オ ツクツテ モツテツタリ。 {間}  
だんご 作って 持って行ったり。 {間}

マツタク。 (C ソレカ° タノシミデ) {咳}  
まったく。 (C それが 楽しみで) {咳}

アノコロ ケッコー カゼモ ナクツテー  
あの頃 [は] けっこう 風も なくて

(C モ モヤセタンダヨネー) ウーン ヤレタンダワネー  
(C × 燃やせたのだよねえ) うーん やれたのだよねえ。

(C ハイ) ユキモ オーカッタシ  
(C はい) 雪も 多かったし

イマト チカッテ。 アブナイトモ。  
今と 違って。 危ないとも。

イマナントワ カサイ カジカ° アブネーナ ナンチンデ  
今などは 火災 火事が 危ないな なんていうので

ホラ ナルタケ アツメンナ ナンチツテネー。  
ほら なるべく 集めるな などといってねえ。

19↑20

(C ソーダヨ) イッテルケンド  
(C そうだよ) 言ってるけれど

アノコロワ キューダカラ アーレナンカナー。  
あの頃は 旧だから あれなのかなあ。

ユキカ° ナンダカ ダイブ アッタヨナ キカ° シタナー。  
雪が 何だか だいぶん あったような 気が したなあ。

220C : デ           ウチアタリジャ ホラ タサ ツクルモンダカラ  
[それ] で うちあたりでは ほら 田に 作るものだから

アンマリ (A ウン) ウチノ ソバジャ ダメダ  
あまり (A うん) 家の そばでは 駄目だ [とか]

栃木 20-2

ナンダデ。 (A ウーン タオネー)  
なんだ [とか] で。 (A うーん 田をねえ)

ヤッパリ バシヨカ° ナクテー  
やっぱり 場所が なくて

トート マイトー ウチデ カワリバンコセ。  
いつも 前 [の家と] うちで 代わりばんこさ。

221A : ジンカニ ハナレタ トコロ。 (C ハイ) マーツタク  
人家から 離れた ところ。 (C はい) まったく

ムカシッテ オーキイノカ° ジマンニ シテタカラ。  
昔って 大きいのを 自慢に していたから。

{間} アノ ヒトツキリワー シモダッテー  
{間} あの 一時期は 下だって

ジューニン ク°ライワー アーダネー  
10人 くらいは あれだね

222B : ウーン ジューニサンニンソーワ デタヨ。 ウン。  
うーん 12、3人は 出たよ。 うん。

223A : デタヨネー ユーニ。 (B デタヨ)  
出たよね ゆうに。 (B 出たよ)

オトコッコバッカリ。 (B ウン)  
男の子ばかり。 (B うん)

栃木 20-3

224C : ウチアタリワ キューニン (A アー) ハチニク°ライダネ。  
うちあたりは 9人 (A ああ) 8人くらいだね。

(A アー) (B ウン)  
(A ああ) (B うん)

225A : イマワ トッ リヤカダナーク イマワ イチリンシヤ  
今は ×× リヤカーではなく 今は 一輪車 [が]

アックドセー (B ウン) ミンナ ショットタンダカンネ。  
あるけれどさあ (B うん) みんな 背負ったのだからね。

226C : シータツケ ナンカ {笑} シッパツテ デルダラケンナツテ  
そうすると なにか {笑} 引っ張って 泥だらけになって

227A : タケワ シッパルシ (B ウン) {間} ダイイチ アノ  
竹は 引っ張るし (B うん) {間} 第一 あの

ノテンボー チュノカ° ナクナッチッタカンネー。  
ノテンボウ というのが なくなってしまったからねえ。

(C ナクナチタネ) ヤマカラーン イロイロナ  
(C なくなってしまったね) 山から いろいろな

オカザリモン ツクンダノ。 {間}  
お飾りもの 作るのだの。 {間}

228A : ソンデ サキー アレシタ ゲーノー ゲーノージンジャナイケドー  
それで さっき あれした 芸能 芸能人ではないけれど

栃木 20-4

テンブウケンエーリユー アレ ナン ツッタンベェ。  
天風軒栄龍 あれ 何 [と] いったのだろう。

ナニゾー チッ ナニゾー チンダヨ アレ。  
何ぞう という 何ぞう というのだよ あれ。

X15チャン [52] ノ オトートワ。  
X15ちゃんの 弟は。

X16 チュンケ? ナーンッ チン  
X16 というのはかい? 何って //

229B : X17ボー X17ボー ツツタンダケンド。  
X17坊 X17坊 といったのだけれど。

230A : X17ボーヤン チタンケ。 (B ウン)  
X17坊 といったのかい。 (B うん)

231B : X17ボーヤン ッチタンダナー。  
X17坊 といったのだなあ。

232A : アノシトワー アレダヨネー。 ダイブ、 イマ  
あの人は あれだよね。 だいぶん、 今

アレダラバ ナナジューツカラ ナンダケンド。  
あれならば 70から なるのだけれど。

シン シンネカイ。 アノ  
×× 知らないかい。 あの

栃木 20-5

233C : イクラカー。  
いくらか。

234A : サカモトノ。  
坂本の。

235C : ア サカモトノ。 (A ウン) ヤッパシ ソノコロワ  
あ 坂本の。 (A うん) やっぱし そのころは

ホラ デテ アルカナカッタカラ (A ウン) ナン。  
／／ 出て 歩かなかったから (A うん) ／／。

236A : デー ダイブ ジョーブンナッテ テンリサマ [53]  
[それ] で だいぶん 丈夫になって 天理様

アタリデ ヤッタッタネ。  
あたりで やった [のだ] ったね。

237B : ウーン。 (C アー ヤッタッタカシンネーワネ)  
うーん。 (C ああ やった [のだ] ったかshれないわね)

アリヤー イチバンニワ シンナカッタナイ  
あれは いちばんには 知らなかったね

テンリサマデ ヤッタノカ° ウーン。  
天理様で やったのが うーん。

238A : \*\*\* シンデン カリテ アノ ヒルマ。  
\*\*\* 神殿 [を] 借りて あの 屋間。

栃木 20-6

ガッコージャ ヤンナカッタ。  
学校では やらなかつた。

239C : ソントキワ キツテ ナカッタカ キテタツカ シ  
そのときは 来て なかつたか 来た [ので] あつたか X

240A : ソーユー ホラ アツマリバシヨカ° ナカッタカラ ココジャネー。  
そういう ほら 集まり場所が なかつたから ここではね。

241C : ナカッタワネー。  
なかつたわねえ。

242A : ナンデモ ソントキ キイタツタナー。  
何でも そのとき 聞いた [のだ] ったなあ。

アノコロソ ナツタラ ソートー ハー  
あのころに なつたら 相当 もう

ウワヤクソ ナツチャツター。  
上役に なつてしまつて。

243C : イマモ ソレ ヤツテルノ。  
今も それ やつているの。

244A : ヤツテネワナイ。 (C ハイ)  
やつてないわね。 (C はい)

アラ センゼンダツタ マダネー。  
あれは 戦前だつた まだねえ。

栃木 20-7

245B : アアー グット マエダヨ。 (C ウーン)  
ああー ぐっと 前だよ。 (C うーん)

246A : ダケンド ジョーズダッタヨ。  
だけれど 上手だったよ。

アノ オカノキンエモンダノ アマノヤリヘー。  
あの 岡野金右衛門だの 天野屋利兵衛。

リコードニ ミンナ ハイッタンダ ビクターノ。  
レコードに みんな 入ったのだ ビクターの。

(B ハー) ウチデモ カッテャ アア  
(B はあ) うちでも 買っては × ×

アッタッタケンドネー。 (C アー ソーカイ) レコード。  
あった [のだ] ったけれどもね。 (C ああ そうかい) レコード。

アノコロワ ナミワブシ (C {咳})  
あのころは 浪曲節 (C {咳})

イマト チガッテャ ソーユー ゲーノカンケーダッテ  
今と 違って そういう 芸能関係だって

ナミワブシー マ ニホンコライノカイ。  
浪曲節 ま 日本古来のかい。

247C : ソ ソ\*\*\* ネー。  
そ ×\*\*\* ねえ。

248A : ソーユモノノ ゲーノーノ ホーカ° アレダッタカラー。  
そういうものの 芸能の ほうが あれだったから。

タイシタ モンダッタンダヨ。 ナミワブシ。  
たいした ものだったのだよ。 浪曲節。

アノシトワ。 テンブーケンエーリユー チッテ。  
あの人は。 天風軒栄龍 といって。

249A : ソレニ シバイダノ カツドー。  
それに 芝居だの 活動。

カツドー ツタンダ アノタネー。  
活動 といったのだ あのことねえ。

250C : ソーダ カツドー。 {笑} (B {笑})  
そうだ 活動。 {笑} (B {笑})

251A : アラ カツドー ッチャー イマワ デンキダッタケンド  
あれは 活動 といえば 今は 電気だったけれど

アノコロ ガスダッタンダンベカナ。 アラ。  
あの頃 [は] ガスだったのだろうか。 あれは。

252B : ア ガスダッタナイ。 デンキ ナカッタンダカラ。  
あ ガスだったね。 電気 [は] なかったのだから。

253A : ナカッタカンネー。  
なかったからねえ。

254B : ウーン ガスデ ヤンダカラ タイヘンダツタンダ。 アレ。  
うん ガスで やるのだから たいへんだったのだ。 あれ。

255A : ウン。  
うん。

256B : キカイカ° ボッコレチャッター。  
器械が 壊れてしまって。

(A ウン) ウツ (A ソレデ) ウツンネーデ。

(A うん) ×× (A それで) 映らないで。

(A {笑}) {笑} トチュー \*\*\*

(A {笑}) {笑} 途中 \*\*\*

257A : マー トーキー ナンチューノワ マー ソノゴダケンドネー。  
まあ トーキー などというのは まあ その後だけれどねえ。

258C : ソーネ。  
そうね。

20↑21

259A : デー サイカチバラ [54] エ アレダ  
[それ] で 槐原へ あれだ

エーカ°カ° カカッター ナニカ アレ ダレカ° ヤツタンダカ  
映画が かかって 何か あれ 誰が やったのだから

セーネン シュサイナンダカ ナンダカ。  
青年 [団] 主催なのだから 何 [なの] だか。

栃木 21-2

ウチエナント ショータイジョーカ° キタンデ。  
家へなど 招待状が 来たので。

(C アーア) (B フン フン) ツツンデー ウ  
(C あーあ) (B ふん ふん) [お祝い金を] 包んで ×

オーゼシテ ミイイッタコト アッタケンダー。  
大勢して 観に行ったこと あったけれど。

(C アー ソーカイ) アノー サイカチバラコーバ  
(C ああ そうかい) あの 槐原工場 [は]

(C アー) ヒルマカ° ホラ ナカッタカラ。  
(C ああ) 昼間が ほら なかったから。

(C アー ホント) マー アキデモ ナレバ  
(C ああ ほんとう) まあ 秋 [に] でも なれば

タンボカ°ー アレダッタケドネー。  
田んぼが あれだったけれどねえ。

260C : ソーユコトダヨネー。  
そういうことだよねえ。

261A : ウンデー イッタラ アレワー アレー  
それで 行ったら あれは あれ

カコ°ノトリノ エーカ°ー ヤッテタッタネー。  
「籠の鳥」の 映画を やっていた [のだ] ったねえ。

栃木 21-3

(C アー ソーカイ) アレワ オボエテイタッタナー。

(C ああ そうかい) あれは 覚えていた [のだ] ったなあ。

チツツァカッタケドー。 (B ウン)

小さかったけれど。 (B うん)

キオクニ アッタネー。 デ

記憶に あったねえ。 [それ] で

ヨクー シバイモ アツクデ ヤンタンダヨ。

よく 芝居も あそこで やったのだよ。

カンバラ [55] デネー。 バシヤヤ。

上原でねえ。 馬車屋。

262B : ウン カンバラ。 ウン ウン。 バシヤ

うん 上原。 うん うん。 馬車

263C : バシヤヤデ ヤッタッタネー。

馬車屋で やったねえ。

264A : ウン エー カ バシヤヤノ ニワナンカ ヒロイ

うん えー × 馬車屋の 庭なんか 広い

265B : バシヤ チューサンケ°カ° ホラ スキダッタカンナー

馬車 //////////////// ほら 好きだったからなあ。

266A : スキナンデ ヤルンダナ。 タノンデキタンダナー。

好きなので やるのだな。 頼んできたのだなあ。

栃木 21-4

(B ソーソー) スキナ ヒトカ° (B ウン)  
(B そうそう) 好きな 人が (B うん)

ヒラサ [56] ノ X18ヤンノ トコデモ。  
平沢の X18さんの ところでも。

ミナカッタカイ? アツコデ。 ナンダツケ アレ。  
観なかつたかい? あそこで。 なにだっけ あれ。

シバイカ° アッタッタナー。  
芝居が あつたのだったなあ。

267B : ウーン ソンナコト アルナイ。  
うーん そんなこと あるね。

ミタッタナー アツコラン  
観たのだったなあ あそこら [あたり]

268A : ソレニ ホラ イマイチカラ ヨク アル ダイカク°ラ。  
それに ほら 今市から よく ある 大神楽。

{笑} イマイチダイカク°ラ。  
{笑} 今市太神楽。

269C : ダイカク°ラ ハー ヨク キタヨ。 {笑}  
太神楽 もう よく 来たよ。 {笑}

270A : キタネー。 キョクケ°ー シタリネー。  
来たねえ。 曲芸 [を] したりねえ。

栃木 21-5

271B : イマイチダイカク°ラモ ズイブン キタワ。  
今市太神楽も ずいぶん 来たわ。

(A ウーン) ウン。

(A うーん) うん。

272A : マズ ソーユノ ヤルトキワ グルット カコイオ  
まず そういうの [を] やるときは ぐるっと 囲いを

シシヤッテ カネトリダカラ。

してしまつて 金取りだから。

273C : カネ トリダカラネ。  
金 取りだからね。

274A : トーク ソトオ  
遠く 外を

275C : X19ノ ウラノ アタリデモー ヤッタ コト アッカ シンネネ。  
X19の 裏の あたりでも やった こと あるか しれないね。

(A ア ソーケイ) ハイ。

(A あ そうかい) はい。

(A ウーン) X19サンラカ° ヤッタンダネ。

(A うーん) X19さんらが やったのだね。

(A ハー) ソンデ ベタベタ ボンノ トキデ

(A はあ) それで ベたべた 盆の ときで

栃木 21-6

(B ウーン) アメカ° マ トート。

(B うーん) 雨が まあ とうとう。

276A : {笑} アメ フットワ サカ°リキ ナッチャウネー。  
{笑} 雨 [が] 降るとは シャかりきに になってしまうねえ。

デキネーデ。

できないで。

277B : X19 トーサンノー \*\*\* ウン  
X19 とうさんの \*\*\* うん

278C : イルウチ イっぱイ アメ フッテー  
いるうち いっぱい 雨 [が] 降って

カエッタラ テンキン ナル \*\*\* (A {笑})  
帰ったら 天気になる \*\*\* (A {笑})

ソンナ アレカ° (A アー) アッタッタヨ。  
そんな あれが (A ああ) あったのだったよ。

(A アー) ロクニ ミランネー チャッタ。  
(A ああ) ろくに 観られない と言っていた。

279A : シバイナン チュノワ ホラ (B {笑})  
芝居など というのは ほら (B {笑})

ミンナ ニグルマエ ツケテー (C ソー) キテー  
みんな 荷車へ つけて (C そう) 来て

栃木 21-7

ゴンチモ イッシューカンモネー (C イッシューカンモ\*\*)  
5日も 1週間もねえ (C 1週間も\*\*)

オーゼデ イルワケダカラ アメ フラレタンジャ  
大勢で いるわけだから 雨 [に] 降られたのでは

280C : エライ ソンカ°イダッタナンテ サワイダヨダッタナイ。  
えらい 損害だったなんて 騒いだようだったねえ。

(A ウーン) ソンナ ハナシー コドモ°コロニワ。

(A うーん) そんな 話を 子ども心には。

(A ウン) (B ウン)

(A うん) (B うん)

281A : エライ アカジデネ。  
えらい 赤字でね。

282C : ウン オレラカ° ジューコ°ロクノ トキダッタカー  
うん 俺らが 15、6の ときだったか

(A アー) シンネナイ。

(A ああ) しれないね。

ソンデ オヤノ アト クツツイテッテ オアシ [57] エ  
それで 親の 後 [を] くつついて行って 大芦へ

ホラ マー センコアケ° イッテ  
ほら まあ 線香上げ [に] 行って

栃木 21-8

フタバ ン ミバン トマツテクンノニ カエツテ キタラ マダ イタ。  
二晩 三晩 泊まってくるのに 帰って 来たら まだ いた。

アメ フツテ {笑} (A ウン) ヤレネンデ  
雨 [が] 降って {笑} (A うん) やれないので

マダ イタナンチ サワギダツタンダヨ。  
まだ いたなんて 騒ぎだったのだよ。

283A : ンダヨネー (C {咳払い}) \*\*\* {咳払い}  
そうだよねえ (C {咳払い}) \*\*\* {咳払い}

ソイノ タテバ [58] ノ アツコデモ ヤッタッタナー。  
そういうの 立て場の あそこでも やったのだったなあ。

イマ コーバン ナツテル。 ナーンダ タテバノ ジイサン。  
今 工場に なっている。 なあんだ 立て場の じいさん。

タテバデ シット アレ シタンダカ。  
立て場で / / / あれ したのだから。

284B : ウーン タテバノ ジーサンモ ヤッタナー ウン。  
うーん 立て場の じいさんも やったなあ うん。

285A : ダレガ ヤツタンダカ。 アツクデ ヤツタンダツタネー。  
誰が やったのだから。 あそこで やったのだったねえ。

(B ウーン) {間} マー カツドート シバイク°レーシカ

(B うーん) {間} まあ 活動と 芝居くらいしか

アト ミルモノ ナカッタカラ イマ {間}  
あと [は] 観るもの なかったから 今 {間}

(C {咳払い}) アトーワー オシャカサマ。  
(C {咳払い}) あとは お釈迦様。

オシャカサマナンテノモー シカ°ツヨーカダツケカ。 アレ。  
お釈迦様などというもの 4月8日だっけか。 あれ。

286C : ソーダネ。  
そうだね。

287A : ガッコノ イマ (C ウエニ アッタ) ヤクシサマ  
学校の 今 (C 上に あった) 薬師様

ナクナッチャッタケンド アツコワ タッコダカイ ヤマガ°  
なくなってしまったけれど あそこは 小高い 山が

アッテネー。 (C ヤマガ° アッタカラ)  
あってねえ。 (C 山が あったから)

アツコエ ヒヤッカットー ツケタリ。  
あそこへ 百花燈を つけたり。

21↑22

288C : マー ジャー オテラサエモ モッテッチャッテアンダ。  
まあ では お寺さんへも 持って行ってしまっているのだ。

ヒカ°シバネ エー  
//////// //

栃木 22-2

289A : ウン モコーエ イマ アイコージノ アツコエ  
うん 向こうへ 今 円光寺の あそこへ

ヤクシドー モッテッタンダケド。  
薬師堂 持って行ったのだけれど。

290A : イマー オシャカサマ ナンツツテモ ダレモ。  
今は お釈迦様 などといっても 誰も。

291C : アマリニモ イガ ネンカネ。  
あまりにも 行かないからね。

292A : イク シト ナカッタンダケド  
行く 人 [が] なかったのだけれど

アノコロワ ニキ<sup>°</sup>ヤカダッタンダヨ。 ヨル ネー。  
あのころは 賑やかだったのだよ。 夜 ねえ。

293C : ヤッパ アソビモ ネーカラ (A ウン)  
やっぱり 遊びも ないから (A うん)

オシャカサマ ナンチュート。  
お釈迦様 などというと。

294A : シー マイツキ ニジュヨッカニワ  
んー 毎月 24日には

ムカイハラノ ジゾーサマ。  
向原の 地藏様。

295 C : ジゾーサン。 {笑}  
地蔵さん。 {笑}

296 A : アレモ ニキ°ヤカダッタネー。  
あれも 賑やかだったねえ。

297 C : イマワ ヤッパリ アンマリ オマイリ スル シトワ  
今は やっぱり あまり お参り する 人は  
  
ナイケンドネ。  
ないけれどね。

298 A : イマワ イ イカ°ネヨネー。  
今は × 行かないよねえ。

299 C : ジャ ホントノ トシヨリデモ ナクツチャ  
では ほんとうの 年寄りでも なくては

(A エー) ヤッパリ テ アワセネ。  
(A ええ) やっぱり 手 [を] 合わせない。

300 A : ムカシワ  
昔は

301 C : センソゴワ ゴリヤク ナクナッタンダカ (A ウーン)  
戦争後は ご利益 [が] なくなったのだから (A うーん)

{笑} アンマリ  
{笑} あまり

栃木 22-4

302A : ヨク アノ ワカイシュ ダトカネ ホレ ムスメダトカ  
よく あの 若い衆 だとかね ほれ 娘だとか

ヨク アーア ニジューヨッカダ ツートオ {笑} (C {笑})  
よく あーあ 24日だ という と {笑} (C {笑})

オマイリニワ イツタンダッタケンド。 {間}  
お参りには 行ったのだったけれど。 {間}

303B : イマデモ ケッコー ナンダカ ニジューサンヤニ  
今でも けっこう 何だか 二十三夜に

ナニッカ アゲモン シテ アンジャネカイ。  
何か あげもの して あるのではないかい。

304A : オライデーカ (B アー) オラジャー ヨク  
俺の家でか (B ああ) うちでは よく

オバヤンカ° アケ°ダカラ (B ウーン)  
おばさんが あげたから (B うーん)

オバヤンカ° ジョーブントキワ トート イッタ。  
おばさんが 丈夫なときは いつも 行った。

イマ イケ°ネカラ ダイリダ。 ダイサン。  
今 行けないから 代理だ。 代参。

305C : ア アー ジイサン アー ソーカイ。  
あ ああ じいさん ああ そうかい。

306A : イッテコー  
行って来い。

307C : デモ タイシタモンダ。 {笑} {咳払い}  
でも たいしたものだ。 {笑} {咳払い}

308B : バーチャンニンカー \*\*\* ケッコー アルンダナー  
ばあちゃんにか \*\*\* けっこう あるのだなあ

ト オモッテヨー。 ウスクタッテ ウン。  
と 思ってよ。 薄くたって うん。

309C : ハ ソタニ トーッパシリ デキネーカイ。  
もう そんなに 遠出 [は] できないかい。

310A : ウチンナカニ イルダケデエ (C アー ソーカイ)  
家の中に いるだけで (C あー そうかい)

ターダ シャベッテルダケデ。 (B ウーン ウン)  
ただ シャベっているだけで。 (B うーん うん)

311B : シカシ ジョーブダワナー。  
しかし 丈夫だわなあ。

ナカ°イキ シタワ ズイブン ソレワ モー。  
長生き したわ ずいぶん それは もう。

ハタラクノモ ハタライタケンドモ \*\*  
働くのも 働いたけれども \*\*

栃木 22-6

312C : ハータライタケンネー。 (B ウン)  
働いたからねえ。 (B うん)

313B : ミンナ ハー ホトンド トシヨリー。  
みんな もう ほとんど 年寄りに。

アノ ネンパイノ ヒトワ モー ハー アレダモンネー。  
あの 年配の 人は もう もう あれだものねえ。

314C : オX20サンラト (B ウーン) オンナシク°ライナンカイ。  
おX20さんらと (B うーん) 同じくらいなのかい。

315A : オX20サンヨリ ヒトツツーカ (C \*\*)  
おX20さんより 一つか [= 1歳か] (C \*\*)

アレト オンナジダヨ。 X19。  
あれと 同じだよ。 X19。

316C : アー ソーカイ。 (A エー)  
あー そうかい。 (A えー)

アノ オバヤンワ ハー ネタツキリデー。 (A ウン)  
あの おばさんは もう 寝たきりで。 (A うん)

(B ハー) ハ イチネンモ ネテンジャナイカナ。  
(B はー) もう 1年も 寝ているのではないかな。

X19ノ オバヤン。  
X19の おばさん。

栃木 22-7

317B : オX20サンダノ オラチノ オフクロラカ° (A ウン)  
おX20さんだの 俺の家の お袋らが (A うん)

オナイドシク°レナダカンナー。 (A ウン)  
同じ年くらいなのだからなあ。 (A うん)

(C アー ソーカイ)

(C あー そうかい)

318C : オX20サンラ ズイブン (A ウーン) ジョーブダゼ。  
おX20さんら ずいぶん (A うーん) 丈夫だぜ。

(B ウーン)

(B うーん)

319B : オX20サンワ ヒトツツ オラチノ オフクロヨリ  
おX20さんは 一つ 俺の家の お袋より

デカイモンカナー。  
大きい [=年上な] ものかなあ。

(C フーン) (A ウン) ウン。

(C ふーん) (A うん) うん。

320C : ク ダトカ ッテ イッテタケンド。  
[8]9[歳] だとか と 言っていたけれど。

(B アー) (A ウン)

(B ああ) (A うん)

321 B : ハチジュク。

89 [歳]。

322 C : クナンダカ

シンネゼ。

[8]9 [歳] なのだか 知れないぜ。

イマノ キュージュー ナンダ ッテ イッテタ。

今の 90 [歳] なんだ って 言ったた。

323 B : ハー ナルホドナ。

はあ なるほどな。

22↑

## 栃木県日光市1979注記

- [1] ヤマナカ  
地名。山中。南小来川地区で、板荷との境。
- [2] X1  
話者B氏の父。
- [3] ハ  
「もはや」、「もう」の意。ハーと長音化する場合もある。
- [4] X2  
話者B氏の祖父。
- [5] X3  
X2氏の妻。
- [6] X4  
X3氏の別名。
- [7] ボデラ  
地名。坊平。ボーダイラ。土地の人はボデラと言うことが多い。
- [8] ムカイハラ  
地名。向原。中小来川の小字名。
- [9] X6  
話者C氏の夫。
- [10] フバサミ  
地名。文挾。今市市。
- [11] カジツツアカ  
地名。鍛冶坂。
- [12] ナメカ°ワ  
川の名前。行川。今市市の西側を流れる。
- [13] ソーク  
そのように。そういうふうに。  
指示詞の「こ」・「そ」・「あ」・「ど」それぞれについて、「コーク」・「ソー  
ク」・「アーク」・「ドーク」という形がある。

- [14] ヤス  
漁具の一種。長柄の竹または木の先に、先端がとがった三股または四股になった鉄製の槍状のものをつけたもの。魚を突き刺して捕る。
- [15] ヤマダ  
山の中の田。
- [16] カジッカ  
魚名。鰻。澄んだ水を好む川魚。はぜに似て、美味である。
- [17] マカ°リバタ  
地名。曲畑。
- [18] ヤモ  
魚名。やまめ。ヤマベ。鱒の一種で、釣魚として好まれる。
- [19] チューニュー  
「注入」。電柱を腐らせないため、硫酸銅の溶液を切口から注入し、その廃液を川に流したことがあったのを行っている。
- [20] マルダイ  
屋号。丸大。材木屋。
- [21] X 9  
X 8氏の父。
- [22] X 10  
X 8氏の兄。
- [23] X 11  
X 8氏のもうひとりの兄。
- [24] クグッチョ  
小鳥とりのしかけ。
- [25] ハカ°  
小鳥をとるために、とりもちをつけたしかけ。「ハカ°を張る」、「ハカ°張り」。
- [26] ナイ  
間投助詞「ね」に相当し、強調・念を押す働きがある。ほとんど終助詞化している。

[27] センボ

小鳥とりのしかけのひとつ。とりもちをつけた竹ぐし。単に、とりもちのことをも言う。

[28] トヤ

小鳥を生け捕る網を張るところ。鳥屋場。

[29] コッサイリ

地名。小沢入り。コサユリ。

[30] スキ°ザイ

地名。菅沢入り。スケ°ザワイリ。スケ°ザイリ。

[31] コタツイリ

地名。古里入り。コサトイリ。

[32] オネバタケ

地名。尾根畑。

[33] ツク°

鳥名。ツグミ。かつては大群をなして、秋、シベリア方面から日本に渡来した。肉の美味しい代表的な猟鳥であった。

[34] ホーキシバ

山どうだん。庭箒を作る材料となるので、この名がある。

[35] オンカン

おおっぴらに。公然と。オンカ。

[36] ニタンタ

鳥屋場のひとつ。鳥屋場をタという。ニタンタ、オンタなど。

[37] コサンタ

小沢入りのニタンタ。

[38] コーチャン

コーチャンはコーチャーヤンの縮約形か。

[39] サカモトヤ

屋号。坂本屋。酒店。

[40] ホッケ

お手玉遊び。ホッケトリ。

- [41] イシケン  
片足飛び。ケンケントビ。アシケン。アシケンケ。
- [42] パスブチ  
面子遊び。
- [43] キダチ  
地名。古里入りの中にある。
- [44] ゲンパチザワ  
地名。源八沢。
- [45] ボラ  
雑木の茂み。
- [46] マサカー  
やはり。さすがに。非常に。  
共通語の、予期しない仮定を表す「まさか」とは異なる。
- [47] トリコ<sup>°</sup>ヤ  
どんど焼き。正月14日、正月に飾ったしめ飾り・松を、子供達が各戸を回って貰い歩き、河原や空地に持ち寄り、竹を真中に立て、その周囲にしめ飾り・松を積み重ね、トリコ<sup>°</sup>ヤと呼ばれるものを作る。子供達はその中に入り、持ち寄ったもので飲食する。その後、トリコ<sup>°</sup>ヤに火をつけて燃やす。このどんど焼きで焼いた団子を食べると風邪をひかないという俗信がある。
- [48] ニクブラク  
小来川の単位集落の呼称。
- [49] ヨンブラク  
小来川の単位集落の呼称。
- [50] イトックビ  
組み立てた時、材料が乏しいために、トリコ<sup>°</sup>ヤの先端が先細りになっている状態。
- [51] ノデンボー  
木の名前。生育がよく、弓なりに育つので、子供の遊びの脇差などを作るのに適する。うるしに似て、ノデブシという実がなる。

[52] X15

天風軒栄龍の本名。

[53] テンリサマ

中小来川にある天理教教会。

[54] サイカチバラ

地名。槐原。西小来川の小字名。

[55] カンバラ

地名。上原。南小来川の小字名。

[56] ヒラサ

地名。平沢。ヒラサワ。宮小来川の小字名。

[57] オアシ

地名。大芦。オーアシ。小来川の南西部に隣接する。

[58] タテバ

立て場。荷馬車の休憩所。バス開通以前はトテ馬車であった。

# 作成・公開の経緯

## 「各地方言収集緊急調査」について

昭和52(1977)年度から昭和60(1985)年度にかけて、文化庁によって「各地方言収集緊急調査」が実施された。これは、「全国的に急速に変化し、失われつつある各地の方言を各都道府県において、緊急に調査し、これを記録・保存する」目的で行われた、全国規模での方言談話の収録事業である。国立国語研究所は、文化庁の要請により、この調査の計画段階から、指導・助言などにかかわっていた。

文化庁は、全国の都道府県教育委員会に各地方言の収集を指示した。47都道府県は、実施時期ごとに、第1次(昭和52(1977)～54(1979)年度)から第7次(昭和58(1983)～60(1985)年度)に分けられ、それぞれ3年計画で、収録を行った。

各都道府県教育委員会は、言語学、国語学、方言学の専門家から調査員として、主任調査員2名と調査員若干名を選出し、さらに、専門家や学識経験者を交えて、調査地点、具体的な調査方法、全国共通の場面設定会話項目などについて検討し、その結果をもとに調査を進めた。

その実施の概要は次のようなものである。

### (1) 調査目的

全国的に急速に変化し、失われつつある各地の方言を各都道府県において、緊急に調査し、記録・保存する。自然な方言会話を良質な録音で採録し、後世に残す。

### (2) 調査方法

(3)の調査内容にしたがって、1地点につき1年度あたり10時間程度の方言会話を良質な録音で採録する。そのうち、自然な方言会話の部分を3時間程度選んで、文字化を行い、共通語訳をつけて、記録として残す。

### (3) 調査内容

- ①老年層の男女各1人による対話、または、男女を含む3人の会話(2時間)
- ②老年層の男性1人の対話、または、老年層の男性3人の会話(1時間)

③老年層の女性2人の対話，または，老年層の女性3人の会話（1時間）

④老年層と若年層との対話，または，両者を含む3人の会話（1時間）

⑤老年層の男性2人の，目上の者と目下の者の対話（2時間）

⑥場面設定の対話（1時間，各場面につき1～3分程度）

場面に応じて，老年層の男性2人の対話，または，老年層の男女各1人による対話

⑦当該地域に伝わる民話（1時間）

民話の語り手が存在する地点で収録を行う。収録不可能な場合は，

⑧老年層の女性2人の，目上の者と目下の者の会話（1時間）

または，

⑨目上の老年層の男性と目下の老年層の女性の，2人の対話（1時間）

を収録する。

①～⑤，⑧，⑨については，話題は自由。一般的には，「調査地の現況・変遷」「気候」「天災などの思い出」「こどもの頃の遊び」「仕事」「土地の生業」「出稼ぎ」「家事」「こどもの養育」「生活の変遷」「生活の中の楽しみ」「自慢話」「衣」「食」「住」「婚礼などの風俗」「信仰」「年中行事」「村の将来」「若者観」など。

⑥は，自然談話では得にくい各種の表現を得ることを目的として，特定場面を設定し，話者に「演技的対話」をさせる。「訪問」「辞去」「道でのあいさつ」「出産」「婚礼」「葬式」などの各種のあいさつ，「依頼」「指示」「助言」「買物」「勧誘」などの各種場面を設定する。具体的には，文化庁と各都道府県教育委員会が協議して，全国共通の数場面を設定する。

#### (4) 調査地点

調査地点は，各都道府県について5地点程度を選定する。文化庁および地元方言研究者の意見を聞いて，各都道府県教育委員会が決定する。

方言区画上，複数の区域に分かれる場合は，方言の状況が概観できるように，それぞれの区域から収録地点を選ぶ。特に，離島など，特色の認められる方言は可能な限り収録する。

#### (5) 話者

その土地で生まれ育ち，よその土地に住んだことのない，あるいは，よそ

の土地に住んだことがあっても、その期間が短い人とする。在外期間は3年以内が望ましい。

年齢は、原則として、老年層の場合は、収録時において60歳以上とし、若年層の場合は、20～30歳代とする。

話者相互の立場はほぼ対等であることを原則とする。

#### (6) 録音

自然な会話を良質な録音で残すため、使用する録音機の性能、マイクの種類・配置、テープの長さ、収録場所の音環境などに注意する。

録音テープ記録票には、採録地点、採録年月日、話題、時間、話者、採録機種などを記入する。

録音テープは、収録したオリジナルのテープ（正）を1本、正テープより文字化部分を編集したテープ（副）を2本作成する。

#### (7) 文字化

方言音声の文字化の際の表記は、原則として、カタカナ書きとし、方言の音声の特徴をある程度表し得るよう工夫する。文字化に対応する共通語訳をつける。文字化内容について、場面・文脈・特徴的音声・方言形の語義・用法などについての注記、表記法についての説明などを行う。各地点ごとに、収録地点の方言の特色について解説する。収録地点の位置・交通・地勢・行政区画の変動・戸数・人口・産業など、収録地点の概観について記述する。録音内容記録票には、話者の氏名・性・生年・経歴、録音内容などを記入する。

文字化原稿は、手書きのオリジナル原稿（正）を1部、正の複製（副）を2部作成する。

調査は、各都道府県教育委員会と連携のうえ、全国各地の方言研究者が全面的に協力して行われた。その結果、地域的密度、収録量、方言的内容のいずれの面からも、他に類を見ない高レベルのデータを得たのである。

調査終了後、これらの方言談話の録音テープとその文字化原稿は、各教育委員会から、「各地方言収集緊急調査」報告として、文化庁に提出され、永久保存されることとなった。

なお、調査実施からかなりの時間が経過しているため、当時の関係文書の入手は困難であったが、文化庁、各都道府県教育委員会の協力により、部分的には手に入れることができた。得られたものを、資料として、この章の末尾に掲げたので、ご参照いただきたい。

## 「各地方言収集緊急調査」地点一覧

### 北海道

- 01a 空知支庁樺戸郡新十津川町
- 01b 十勝支庁中川郡豊頃町
- 01c 渡島支庁亀田郡榎法華村
- 01d 渡島支庁松前郡松前町

### 青森県

- 02a 下北郡川内町
- 02b 北津軽郡市浦村
- 02c 上北郡野辺地町
- 02d 三戸郡五戸町

### 02e 弘前市

### 岩手県

- 03a 久慈市
- 03b 宮古市
- 03c 遠野市
- 03d 大船渡市
- 03e 一関市

### 宮城県

- 04a 本吉郡本吉町・歌津町
- 04b 栗原郡築館町
- 04c 仙台市
- 04d 亶理郡亶理町
- 04e 刈田郡七ヶ宿町

### 秋田県

- 05a 鹿角市
- 05b 能代市
- 05c 仙北郡西木村
- 05d 河辺郡雄和町
- 05e 湯沢市

### 山形県

- 06a 新庄市
- 06b 寒河江市
- 06c 東田川郡櫛引町
- 06d 東田川郡朝日村
- 06e 西置賜郡飯豊町・東置賜郡川西町

### 福島県

- 07a いわき市
- 07b 大沼郡会津高田町
- 07c 大沼郡昭和村

### 茨城県

- 08a 高萩市
- 08b 久慈郡里美村
- 08c 水戸市
- 08d 鹿島郡大野村（一鹿嶋市）
- 08e 古河市

### 栃木県

- 09a 大田原市
- 09b 日光市
- 09c 宇都宮市
- 09d 芳賀郡益子町
- 09e 安蘇郡田沼町

### 群馬県

- 10a 利根郡片品村
- 10b 吾妻郡六合村
- 10c 前橋市
- 10d 邑楽郡大泉町
- 10e 甘楽郡下仁田町

埼玉県

- 11a 加須市
- 11b 南埼玉郡宮代町
- 11c 春日部市
- 11d 児玉郡上里町
- 11e 秩父郡長瀨町
- 11f 入間郡大井町

千葉県

- 12a 海上郡飯岡町
- 12b 印旛郡印西町（一印西市）
- 12c 長生郡長生村
- 12d 木更津市
- 12e 館山市

東京都

- 13a 台東区
- 13b 西多摩郡檜原村
- 13c 大島町
- 13d 三宅村
- 13e 八丈町

神奈川県

- 14a 愛甲郡愛川町
- 14b 横須賀市
- 14c 秦野市
- 14d 小田原市

新潟県

- 15a 村上市
- 15b 西蒲原郡分水町
- 15c 十日町市
- 15d 糸魚川市
- 15e 佐渡郡佐和田町

富山県

- 16a 黒部市
- 16b 富山市
- 16c 氷見市
- 16d 砺波市
- 16e 東礪波郡上平村

石川県

- 17a 羽咋郡押水町

福井県

- 18a 坂井郡芦原町
- 18b 勝山市
- 18c 南条郡南条町
- 18d 敦賀市
- 18e 遠敷郡名田庄村

山梨県

- 19a 塩山市
- 19b 大月市
- 19c 韭崎市
- 19d 南巨摩郡早川町 [奈良田]
- 19e 南巨摩郡身延町

長野県

- 20a 下水内郡栄村
- 20b 長野市
- 20c 小諸市
- 20d 伊那市
- 20e 木曾郡開田村

岐阜県

- 21a 高山市
- 21b 大野郡白川村
- 21c 中津川市
- 21d 岐阜市
- 21e 揖斐郡徳山村

静岡県

- 22a 静岡市
- 22b 榛原郡本川根町
- 22c 磐田郡水窪町
- 22d 賀茂郡松崎町
- 22e 浜名郡新居町

愛知県

- 23a 北設楽郡設楽町
- 23b 西春日井郡師勝町
- 23c 岡崎市
- 23d 豊橋市
- 23e 常滑市

三重県

- 24a 安芸郡美里村
- 24b 阿山郡阿山町
- 24c 志摩郡阿児町
- 24d 北牟婁郡海山町
- 24e 南牟婁郡御浜町

滋賀県

- 25a 長浜市
- 25b 高島郡安曇川町
- 25c 神崎郡能登川町
- 25d 大津市
- 25e 甲賀郡甲賀町

京都府

- 26a 中郡峰山町
- 26b 舞鶴市
- 26c 船井郡丹波町
- 26d 京都市
- 26e 相楽郡山城町

大阪府

- 27a 高槻市
- 27b 大阪市
- 27c 八尾市
- 27d 河内長野市
- 27e 泉佐野市

兵庫県

- 28a 豊岡市
- 28b 朝来郡生野町
- 28c 神戸市
- 28d 相生市
- 28e 洲本市

奈良県

- 29a 大和郡山市
- 29b 宇陀郡榛原町
- 29c 五條市
- 29d 吉野郡下北山村
- 29e 吉野郡十津川村

和歌山県

- 30a 那賀郡岩出町・打田町・桃山町
- 30b 和歌山市
- 30c 御坊市
- 30d 田辺市
- 30e 新宮市

鳥取県

31a 鳥取市

31b 米子市

31c 日野郡日野町

島根県

32a 仁多郡仁多町

岡山県

33a 勝田郡勝央町

33b 新見市

33c 岡山市

33d 小田郡矢掛町

33e 笠岡市

広島県

34a 三次市

34b 府中市

34c 広島市

34d 因島市

34e 安芸郡倉橋町

山口県

35a 萩市

35b 大島郡大島町

35c 徳山市

35d 美祢市

35e 豊浦郡豊北町

徳島県

36a 鳴門市

36b 阿南市

36c 美馬郡脇町

36d 海部郡海南町

36e 三好郡東祖谷山村

香川県

37a 小豆郡土庄町

37b 木田郡三木町

37c 丸亀市

37d 仲多度郡多度津町

37e 観音寺市

愛媛県

38a 越智郡大三島町

38b 西条市

38c 松山市

38d 大洲市

38e 宇和島市

高知県

39a 室戸市

39b 高知市

39c 高岡郡檜原町

39d 幡多郡三原村

福岡県

40a 北九州市

40b 遠賀郡芦屋町

40c 築上郡新吉富村

40d 飯塚市

40e 嘉穂郡稲築町

40f 福岡市

40g 八女市

佐賀県

41a 東松浦郡鎮西町

41b 鳥栖市

41c 佐賀市

41d 武雄市

長崎県

42a 壱岐郡芦辺町

42b 平戸市

42c 長崎市

42d 南松浦郡奈良尾町

熊本県

43a 阿蘇郡阿蘇町

43b 熊本市

43c 球磨郡錦町

43d 天草郡天草町

大分県

44a 東国東郡国東町

44b 宇佐市

44c 大分郡挾間町

44d 佐伯市

44e 日田郡前津江村

宮崎県

45a 延岡市

45b 東臼杵郡椎葉村

45c 宮崎市

45d 北諸県郡山田町

45e 日南市

鹿児島県

46a 出水市

46b 揖宿郡穎娃町

46c 熊毛郡上屋久町

46d 大島郡龍郷町

沖縄県

47a 国頭郡今帰仁村

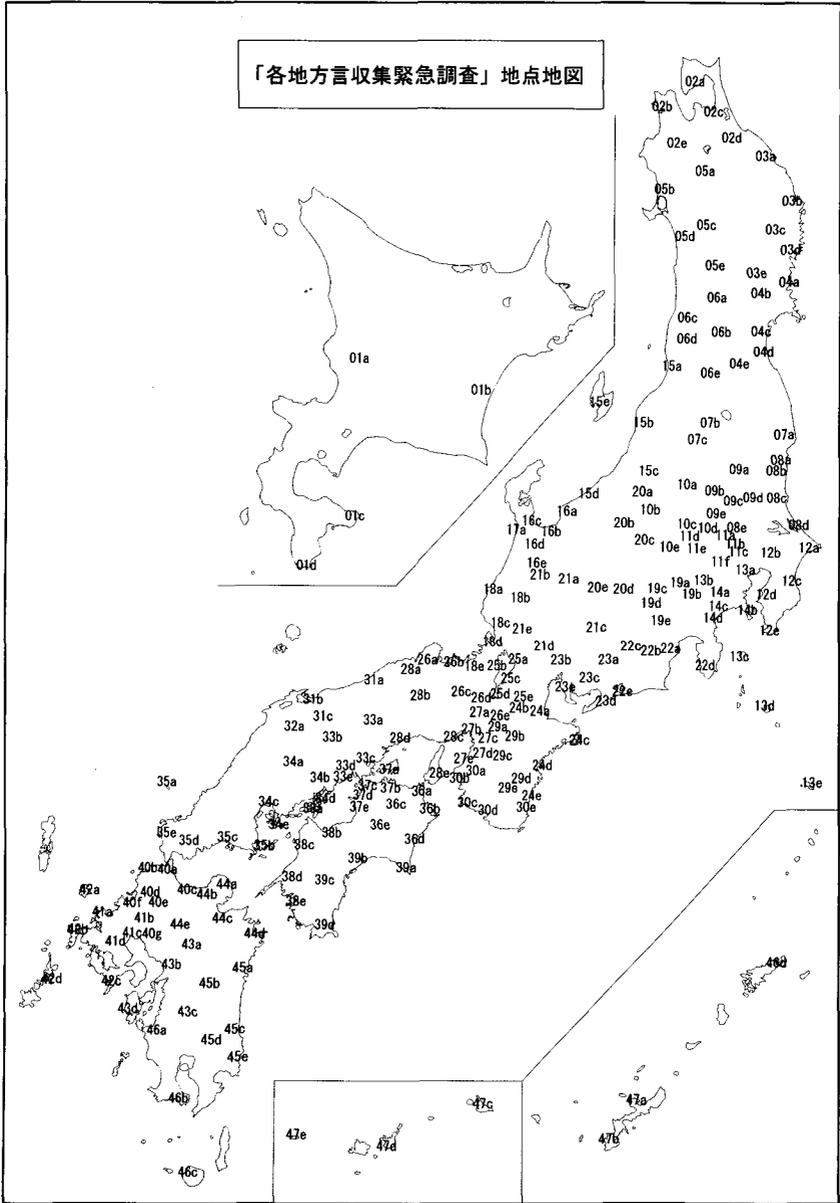
47b 那覇市

47c 平良市

47d 石垣市

47e 八重山郡与那国町

「各地方言収集緊急調査」地点地図



(2001. 10. 01作成)

## 各地方言収集緊急調査補助全体計画

56.7.29.

### 1. 年次計画

年度 計画	52	53	54	55	56	57	58	59	60	備考
第1次	8	8	8							
第2次		8	8	8						
第3次			6	6	6					
第4次				8	8	8				
第5次					10	10	10			
第6次						3	3	3		
第7次							4	4	4	
実施県数	8	16	22	22	24	21	17	7	4	
(千円) 予算額	6,000	12,210	18,150	18,150	18,000	15,750	12,750	5,250	3,000	

### 2. 調査県一覧

第1次 (S.52~54)	第2次 (S.53~55)	第3次 (S.54~56)	第4次 (S.55~57)	第5次 (S.56~58)	第6次 (S.57~59)	第7次 (S.58~60)
宮城	北海道	青森	岩手	福島	茨城	群馬
秋田	山梨	栃木	山形	埼玉	福井	神奈川
千葉	長野	東京	新潟	富山	鳥取	京都
石川	山口	岐阜	奈良	愛知		兵庫
大阪	香川	静岡	島根	三重		
広島	佐賀	岡山	福岡	滋賀		
高知	大分		長崎	和歌山		
鹿児島	沖縄		熊本	徳島		
				愛媛		
				宮崎		
8県	8県	6県	8県	10県	3県	4県

## 各地方言収集緊急調査費国庫補助要項

昭和54年 5 月 1 日  
文化庁長官裁定  
(昭和62年 6 月 1 日廃止)

### 1. 趣旨

全国的に急速に変化し、失われつつある各地の方言を各都道府県において、緊急に調査し、これを記録・保存するために要する経費について国が行う補助に関し、必要な事項を定めるものとする。

### 2. 補助事業者

補助事業者は、都道府県とする。

### 3. 補助対象事業

補助対象となる事業は、当該都道府県内における各地の方言を調査（録音採集・文字化）する事業とする。

### 4. 補助対象経費

補助対象となる経費は、次に掲げる経費とし、その明細は別紙のとおりとする。

主たる事業費

調査経費

### 5. 補助金の額

補助金の額は、補助対象経費の2分の1以内の定額とし、750千円を最高限度額とする。ただし、沖縄県については、別途協議して定めるものとする。

(別紙)

名称	対象経費の区分	項	目	目の細分	説明
各地方言収集緊急調査事業	主たる事業費	各地方言収集調査	報償費	〇〇謝金 〇〇文字化謝金 〇〇協力謝金	調査員、調査補助員等謝金 資料
			旅費	普通旅費 費用弁償 特別旅費	
			需用費	消耗品費 印刷製本費 会議費	野帳等文具、録音用テープ 調査報告用紙 企画委員会打合会
			役務費	通信運搬費	郵便、電信電話料等
			使用料及び賃借料 委託料	会場借上料 器具借上料 〇〇委託費	事業の一部を委託して実施する場合（特に認められた場合に限る）

# 各地方言収集緊急調査実施要領

昭和52年 7月28日

文化庁次長 決裁

「各地方言収集緊急調査補助金」の運用に当たっては、文化庁文化財補助金交付規則及び各地方言収集緊急調査補助要項に定めるもののほか、この実施要領によるものとする。

## 1. 地点の選定

文化庁及び地元方言研究者の意見を聴いて各都道府県（以下「県」という。）教育委員会が選定するものとする。

方言区画的にいくつかの区域に分かれる県においては、県下の方言の状況が概観できるように、それぞれの区域から収録地点を公平に選ばなければならない。また、離島など、特色の認められる方言は、可能な限り収録するよう努めなければならない。

## 2. 録音内容・話者

### ア 老年層話者による会話

収録内容——次の3種類の対話又は会話を収録する。

(1) 老年層の男女各1人による対話、又は、男女を含む3人の会話

(2) 老年層の男性2人の対話、又は、老年層の男性3人の会話

(3) 老年層の女性2人の対話、又は、老年層の女性3人の会話

話者の年齢など——原則として、収録時において60歳以上とし、やむを得ないときは55歳以上でもよい。発音その他の障害がなければ高齢者でも差し支えないが話者相互の年齢が離れすぎてはいけない。また、話者相互の立場等もほぼ対等であることを原則とする。

話者の居住歴——その土地で生まれ育ち、よその土地に住んだことのない、あるいは、その期間が短い（在外期間は3年以内が望ましい。）人とする。よその土地から嫁入り、婿入りした人は採らない。ただし、女性については、他に適当な人が求められないときは、近隣地域から嫁入りした人でも、収録地点との間に大きな方言のちがいが認められない場合は差し支えない。

司会者——主たる話者のほかに、話の引き出し役としての司会者が必要である。司会者は、あらかじめ地域・話者に見合った適切な話題を用意し、会話の円滑な進行に努める。司会者の性・年齢は問わない。

話題——自由。一般的には、「調査地の現況・変遷」「気候」「天災などの思い出」「こどものころの遊び」「仕事（土地の生業・出かせぎなど。）」「家事」「こどもの養育」「生活の変遷」「生活の中の楽しみ」「自慢話」「衣」「食」「住」「婚礼などの風俗」「信仰」「年中行事」「村の将来」「若者観」などが考えられる。

### イ 老年層と若年層との会話

収録内容——老年層の男性と若年層の男性との対話、又は、両者を含む3人の話者の会話を収録する。

話者の年齢など——老年層については前項アに準ずる。若年層については、原則として

20～30歳代とする。話者相互の立場などはほぼ対等であることが望ましい。

話者の居住歴——老若ともアに準ずる。

#### ウ 目上の者と目下の者の会話

収録内容——目上、目下の関係にある老年層の男性2人による対話を収録する。対話の具体的な人物像として、たとえば、僧侶対その檀家に当たる人物、その土地出身の教員又は元教員（校長又は元校長等）対教え子又はその土地の一般的職業（農業、漁業等）に従事している人物（父兄）等が考えられる。

話者の年齢——目上、目下とも60歳以上を原則とする。

話者の居住歴——原則として前項アに準ずる。ただし、目上に当たる者については、在外期間の比較的長い人物を登場させなくてはならない場合もあるので、アの条件（在外歴3年以内）から若干逸脱してもやむを得ない。

#### エ 場面設定の会話

目的と方法——自然会話では得にくい各種の表現を得ることを目的として、特定場面を設定し、話者に「演技的対話」をさせる。

場面の内容——各種のあいさつ（訪問・辞去・道でのあいさつ・出産・婚礼・葬式）や依頼・指示・助言・買物・勧誘等の各種場面を設定する。具体的には、文化庁と各県教育委員会が協議して全国共通の数場面を設定し、各場面の録音量は、1～3分程度とする。

話者——場面に応じて老年層の男性どうしの対話、老年層の男性対同女性の対話等を行う。

#### オ 民話

民話の語り手が存在する地点で収録を行う。

### 3. 録音機・録音技術

必ず、ステレオで録音することとし、テープは、オープン、カセットのいずれでもよい。この調査は、自然な方言会話を良い録音で収録し、それを後世に残すことが主要な目的であるからその点について十分配慮しなければならない。

録音機の操作は、録音技術に習熟した者が行い、会話の進行中は収録に専念しなければならない。なお、良質の録音を得るための基本的な留意点は次のとおりである。

① 雑音の少ない静かな部屋で録音する。足音、とびらの開閉音、机などへの衝撃音（湯飲みを置く音など）、紙をめくる音などは意外に大きな雑音として録音されるので注意すること。

② 内蔵マイクを使用すると良質の録音を得られないので、必ず外部マイクを接続すること。外部マイクは録音機本体から30cm以上離して配置すること。

③ マイクはなるべく話者の近くに配置し、どの話者の音声も十分な音量で録音できるよう配慮する。話者によって声の大きさにかかなりの差があることが多いので、この点に注意してマイクを配置すべきである。

録音の際には、音量メーターの針が十分に振れるよう注意すること。

④ テープを入れ替える際の無録音状態を避けるため録音機は2台使用すること。

⑤ カセットテープは短いもの（往復90分もの又は60分もの）を使用すること。

### 4. 文字化原稿の作成・表記

文字化用紙は文化庁が定めた様式のものを使用すること。

表記は原則としてカタカナ書きとし、方言の音声的特徴をある程度表しうるよう工夫する。ただし、文字化担当者が国際音声符号又は音素符号を用いた方が便利であると判断した場合はその表記でもよい。文字化の際には、共通語訳を付けるとともに場面、文脈、特徴的音声、方言形の語義・用法などについての注釈をも付ける。

#### 5. 収録地点の概観、話者の経歴・録音内容の記録

収録地点の位置・交通、地勢・行政区画（旧藩領を含む）の変動・戸数・人口・主な産業などを記録する。

また、話者の経歴、録音内容などについては、「録音内容記録票」に録音のつど記入する。

## 各地方言収集緊急調査の実施について

54.5.10.

1. 調査（方言収録）の年次計画（（ ）は実施要領・文字化の時間数）

○ 第1年次

- ① 老年層の男女各1人による対話，又は，男女を含む3人の会話（アの(1)・2時間）
- ② 老年層の男性2人の対話，又は，老年層の男性3人の会話（アの(2)・1時間）

○ 第2年次

- ① 目上の者と目下の者の会話（ウ・2時間）
- ② 老年層の女性2人の対話，又は，老年層の女性3人の会話（アの(3)・1時間）

○ 第3年次

- ① 老年層と若年層との会話（イ・1時間）
- ② 場面設定の会話（エ・1時間）
- ③ 民話（オ・1時間）

（注）3年次の「③ 民話」の収録不能のときは，2年次の「目上の者と目下の者の会話」の女性2人の会話を収録

2. 調査報告書の提出部数

(1) 録音テープ

- ・正……収録した生のテープ 1部
- ・副……文字化部分のテープ（正テープより文字化部分を複製したもの。） 2部

(2) 文字化原稿

- ・正……手書き原稿 1部
- ・副……正のコピー 2部

3. 調査報告書の様式等

(1) 録音テープの記録票

	NO. <u>正</u>
○ ○ 県	- ○
	(副)
各地方言収集緊急調査録音記録票	補助要項 の記号
1 採録地点	_____
2 採録年月日	_____
3 話題・時間	A面 _____ ( )分
	B面 _____ ( )分
4 話者	_____
	_____
5 採録機種	_____

テープの  
ケース箱に  
張り付ける  
ようにして  
ください。

(2) 文字化原稿の表紙

文字化原稿は、各調査地点ごとに、(1) 録音内容記録票、(2) 収録地点とその方言の特色等解説（初年次のみ）、(3) 録音文字化原稿の順で表紙（B4板目紙）を付けて綴ってください。

○	○
〇〇県（昭和     年度）	
各地方言収集緊急調査 文字化原稿	
（正） 又 は 副	
調査地点	〇〇〇〇

(3) 文字化原稿の用紙

- |            |   |          |
|------------|---|----------|
| ① 録音内容記録票  | } | （別紙のとおり） |
| ② 方言資料割付用紙 |   |          |
| ③ 方言調査解説用紙 |   |          |

## 調査実施上の留意事項について

### 1 調査（方言収録）の年次計画

年次	調査の内容（記号は実施要領による）	採録時間	解説・文字化時間
1年次	① 老年層の男女各1人による対話、又は、男女を含む3人の会話（ア－（1））	10	2
	② 老年層の男性2人の対話、又は、老年層の男性3人の会話（ア－（2））		1
2年次	① 目上の者と目下の者の会話（男性2人）（ウ）	10	2
	② 老年層の女性2人の対話、又は、老年層の女性3人の会話（ア－（3））		1
3年次	① 老年層と若年層との会話（イ）	10	1
	② 場面設定の会話（エ）		1
	③ 民話（オ） （民話が収録できないときは、（注）参照。）		1
計		30	9

（注）

民話の適当な語り手が存在しない場合などのため、収録が不可能な地点は、老年層の男性（目上）と老年層の女性（目下）の2人の対話を収録する。その際の話題は自由であるが、長上者に対する女性の丁寧な表現が収録できるよう配慮していただきたい。

### 2 調査報告書の提出部数

#### (1) 録音テープ

正……収録した生のテープ 1部

副……文字化部分のテープ（正テープより文字化部分を複製したもの。） 2部

#### (2) 文字化原稿

正……手書き原稿 1部

副……正のコピー 2部

### 3 調査報告書の様式等

#### (1) 録音テープの記録票

	NO. 正
○ ○ 県	- ○
	(副)
各地方言収集緊急調査録音記録票	補助要項 の記号
1 採録地点 _____	
2 採録年月日 _____	
3 話題・時間 A面 _____ ( ) 分	
B面 _____ ( ) 分	
4 話者 _____	
_____	
5 採録機種 _____	

テープの  
ケース箱に  
張り付ける  
ようにして  
ください。

#### (2) 文字化原稿の表紙

文字化原稿は、各調査地点ごとに、(1) 録音内容記録票、(2) 収録地点とその方言の特色等解説（初年次のみ）、(3) 録音文字化原稿の順で表紙（B4板目紙）を付けて綴ってください。

○ ○
○○県（昭和 年度）
各地方言収集緊急調査 文字化原稿
(正) 又 は 副
調査地点 ○○○○

### (3) 文字化原稿の用紙

- ① 録音内容記録票
  - ② 方言資料割付用紙
  - ③ 方言調査解説用紙
- } 別紙のとおり

(用紙の印刷発注については、国語課でまとめて行いますので必要部数を御連絡ください。)

## 4 文字化原稿の記入について (国語研・言語変化研究部でまとめたもの)

- (1) 原稿用紙には、「方言資料割付用紙」と「方言資料解説用紙」の2種類があり、「割付用紙」には録音内容の文字化と標準語訳を、「解説用紙」には収録地点の概観、収録方言の特色、表記法についての説明、文字化内容についての注記などを記入する。
- (2) 原稿用紙への記入は黒インキを用いる。(青インキは不可。)

### 割付用紙への記入

- ① 割付用紙の第1ページには、タイトル(録音内容を代表するようなもの)、話し手の略号・氏名・性・生年を記入し、一段あけて、録音内容の文字化・標準語訳を記入する。(記入例参照)
- ② 割付用紙の左端の「[]」には話し手の略号を記入する。
- ③ カウンター付きの録音機を使用した場合は、その番号を所要所に鉛筆で薄く記入しておいていただきたい。
- ④ 文字化の表記について

ア 文字化は文節単位の分かち書きとし、各センテンスの末尾に句点「。」、「,」を打つ。読点は文字化部分には原則として付けない。なお、談話文における文の認定は方法的に多くの問題があるが、あくまで便宜的なものとしておく。

イ 改行は話し手が交替した部分で行う。

ウ 文字化は原則として表音のカタカナ表記による。これは、利用者の便宜、文字化作業の能率などを考慮してのことである。ただし、対象とする方言の性格によって、カナ表記では特殊な字母を多数必要とし、かえって煩雑になると判断される場合は、国際音声字母による表記を用いてもよい。徹底した音韻(音素)表記は採らない。これは、音韻レベルの表記では捨象されることのある特徴的な方言音声や、自然会話にしばしば現われる無造作な発音、また、標準語的な発音の混入などを、解釈を加えずに、音声学的に記述しようとする意図による。なお、カナはあくまでも簡略音声表記として使用するわけであるから、それぞれのカナで表わす具体的音声の範囲については、解説(表記法の項)で説明しておいていただきたい。

エ 長音、鼻音、あるいは特徴的な方言音声をカタカナによって表わす場合、原則として次の方式によってほしい。

(ア) 長音には「ー」の印を用いる。

例 オハヨー

(イ) ガ行鼻音は、カ° キ° ク° …のように表わす。

例 カカ°ミ [kaŋami] (鏡)

(ウ) 鼻音化には「ン」(上つき小字のン)を用いる。

例 マンド [ma<sup>~</sup>do] (窓)

カンゴ [ka<sup>~</sup>go] (籠) ー高知方言などー

(エ) 合拗音の [kwa] [gwa] はクワ、グワのように表わす。

例 クワジ [kwazi] (火事) ー九州方言などー

(オ) [je] [dse] はシェ、ジェのように表わす。

例 シェナカ [senaka] (背中) ー九州方言などー

(カ) [ti] [di] はティ、デイ, [tu] [du] はトゥ、ドウのように表わす。

例 トウキ [tuki] (月) ー高知方言などー

(キ) [ɸa] [ɸi] [ɸe] …はファ、フィ、フェのように表わす。

例 フェンビ [ɸe<sup>~</sup>bi] (蛇) ー奥羽方言などー

(ク) [je] の音はイエで表わす。

例 イエダ [jeda] (枝) ー九州方言などー

(ケ) [æ] [kæ] [sæ] …はアエ、カエ、サエのように表す。

例 アカエー [akæ:] (赤い) ー岡山方言などー

(コ) [ɛ] [kɛ] [sɛ] …はエア、ケア、セアのように表わす。

例 アゲア [ageɛ] (赤い) ー奥羽方言などー

上に示した以外の特殊な音声の表記は報告者が適宜くふうするか、あるいは、一般的な字母を使用しておき、そのつど注記欄で説明する。

例 キモノ<sup>(注)</sup>→<sup>注</sup> [kçimono]

オ アクセント、文末イントネーションの記述の有無は、その表記法を含め、担当者にまかせる。

カ 発音や録音が不明瞭なため聴き取りが困難な箇所には \_\_\_\_\_ 線を付けておく。

例 カステクレアー

キ 幾様にも聞こえる場合には仮にそのうちのひとつを \_\_\_\_\_ 線付きで記述し、他の「聞こえ」を記述欄に記す。

例 カステクレアー<sup>(注)</sup>→<sup>注</sup> 「カステクロエ」または  
「カステクロヤ」とも聞こえる。

ク 聴き取りが困難な箇所はなるべく話者や現地協力者にあたって確かめる。ただし、最終的には文字化担当者がそのように聞こえると判定した結果を記述する。話者などが主張する(意識する)発言内容と録音された音声の「聞こえ」とが一致しない、すなわち、話者が主張するようにはどうしても聴き取れない場合もありうるが、このような場合には、文字化担当者に「聞こえる音声」を \_\_\_\_\_ 線付きで記述し、話者などが主張する内容は注記欄に記す。

例 ボカー<sup>(注)</sup>→<sup>注</sup> 話者は「ボクワ」と言っていると主張。

ケ 最終的に聴き取り不能の箇所には、 \_\_\_\_\_ 線のみを記しておく。

⑤ 言いよどみ、言いかさなり、言いなおし、笑い声など。

ア 言いよどみは、その末尾に…線を付ける。

例 オフロ サキカ。 タベルノ サキ…。

イ 発言の途中で他の者が口をはさんだ場合には、次のように ( ) を利用し、発言

が重複する部分に\_\_\_線を付ける。

例 A ヒルママデ マズ スコトモ オエッカラッテ

(B ンダケンド オレアー) アト スクイ モツテクッカラ

ウ 重複部分が長い場合や、一人の発言が終わらないうちに他の者が話しはじめたような場合には、改行して、重複部分に\_\_\_線を付ける。

例 A アー バサマ オチャ ダシエ マズ。 チョイット  
ナカ<sup>ス</sup> キター。

B イヤ イソカ<sup>ス</sup>インダテ キョーノー。

エ 言いかけて、それを言いなおした場合には、言いかけた部分に×××××を付ける。

例 アノー ワズカナ ゴ ゴジュー

×× ×××××

ゴジューエングラエージャツカナー。

オ 笑い声などは文字化本文中に ( ) に入れて記す。

例 ウレシーナー (笑)

- ⑥ 標準語訳は漢字平がなまじりの表記とし、それぞれの文節に対応する逐語訳を心がける。逐語訳であるために全体の文脈がつかみがたいと判断される場合には、注記欄でさらに説明する。文末詞や待遇表現などは訳のつけかたがむずかしいが、標準語訳はあくまでも内容理解の手がかりと考え、訳しかたが問題となるような箇所については、なるべく詳しい注記を付けるよう心がける。

- ⑦ 注記について

ア 「割付用紙」には注記番号のみを ( ) に入れて記し、注記内容は「解説用紙」に記入する。

イ 注記は、音声の特徴、基本的な語形（無造作な発音により語形が崩れている場合など）、方言形の意味・用法・語源、民俗的事象（話題にのぼった民具・行事など）、文脈のねじれ、標準語訳についての補足、話し手の動作（うなずき・手ぶりなど）などについて行う。とくに、方言形の意味・用法については、できるだけ多くの箇所に注を付けてほしい。

#### 解説用紙への記入

解説用紙には次の事項を記入する。

##### A 収録地点とその方言について

1 地点名

2 収録地点の概観（位置・交通・地勢・行政区画の変動・戸数・人口・主な産業など）

3 収録した方言の特色

① 方言区画上の位置・隣接諸方言との関係

② 音韻上の特色（モーラ表・音声の特徴）

③ 文法上の特色（要点のみ。簡条書き）

4 その他（地点選定の理由、協力者の氏名、協力内容など）

##### B 表記について

それぞれの符号（カナ・音声符号）で表わす具体音声の範囲、特殊な表記についての

説明，判断に迷った微妙な音声の処理原則など。

C 収録内容の概説，注記など

- 1 タイトル（「割付用紙」の冒頭に記したもの）
- 2 録音年月日
- 3 録音場所
- 4 話し手の氏名・性・生年・職歴・役職歴・居住歴・言語的特徴（方言保有度・話し好きかどうか・早口か等）など。（話し手の性・生年は割付用紙にも記入）
- 5 録音環境（同席者・話の進行状況・場の雰囲気など）

なお，A，B，Cはそれぞれページを改めて記入する。Cはタイトルが変わる際に改ページを行う。

## 「全国方言談話データベース」について

「各地方言収集緊急調査」報告資料は、方言の使用実態を解明する貴重なデータであるとともに、急速に失われつつある各地の伝統的方言を、文化財として記録・保存するという意味においても意義のあるものである。

いくつかの教育委員会が、この資料の一部を用いて、独自に報告書を刊行している。ただし、市販されているわけではないので、一般には入手しにくい。また、その形態は印刷物であり、電子化された文字化テキストを備えたものはない。録音テープを添付しているものも少数である。その他の資料については、未公開であった。

その後、「各地方言収集緊急調査」報告資料は、文化庁から国立国語研究所に移管された。国立国語研究所では、受け継いだ録音テープ・文字化原稿を有効に利用するために、膨大な報告資料を整備して、方言談話の大規模なデータベースを作成し、公開するという計画を開始した。

平成8(1996)～12(2000)年度には、一般研究課題「方言録音文字化資料に関する研究」において、報告資料の一部を用いたケーススタディ的研究を行った。担当研究室は、情報資料研究部第二研究室(当時)、担当者は、井上文子であった。所外研究委員として、真田信治氏(大阪大学大学院文学研究科、元国立国語研究所)に委嘱を行った。

平成13(2001)年度からは、「日本語情報資源の形成と共有のための基盤研究」というプロジェクトの一環として、全国方言談話データベースの作成と公開に取り組んでいる。担当部門・領域は、情報資料部門第二領域、担当者は、井上文子(情報資料部門第一領域)である。所外研究委員として、佐藤亮一氏(東京女子大学現代文化学部、元国立国語研究所)、江川清氏(広島国際大学人間環境学部、元国立国語研究所)、田原広史氏(大阪樟蔭女子大学学芸学部)、真田信治氏(大阪大学大学院文学研究科、元国立国語研究所)に委嘱を行っている。

その一方で、平成9(1997)～13(2001)年度には、作成データベース名「全国方言談話資料データベース」、作成委員会名「全国方言談話資料データベース」作成委員会として、また、平成14(2002)年度には、作成データベース名「全国方言談話データベース」、作成委員会名「全国方言談話データベース」作成委員

会として、科学研究費補助金研究成果公開促進費（データベース）の交付を受けて、音声資料、文字化資料を電子化する作業を進めてきた。作成委員長は、佐藤亮一氏（東京女子大学現代文化学部、元国立国語研究所）であり、「各地方言収集緊急調査」当時、国立国語研究所言語変化研究部第一研究室長として、調査の計画段階から指導・助言にあたり、調査および報告資料の全体像を把握している。作成委員としては、江川清氏（広島国際大学人間環境学部、元国立国語研究所）、田原広史氏（大阪樟蔭女子大学学芸学部）、井上文子（国立国語研究所情報資料部門第一領域）が担当している。平成13(2001)年度には、「全国方言談話データベース」の公開を開始した。

なお、このデータベースの作成事業で受けた、科学研究費研究成果公開促進費（データベース）は下記のとおりである。

年度	課題番号	補助金交付額
平成9年度	57	1,800,000円
平成10年度	64	1,800,000円
平成11年度	501027	1,800,000円
平成12年度	128032	2,800,000円
平成13年度	138031	4,600,000円
平成14年度	148034	5,200,000円

「各地方言収集緊急調査」報告資料については、日本全国の47都道府県でそれぞれ5地点程度、計200地点あまりにおける、約4000時間にも及ぶ方言談話の録音テープと、その一部を文字化した原稿が残されている。昭和52(1977)～60(1985)年度当時の老年層話者の自然談話が中心であるので、現在においては急速に失われつつある伝統的方言が比較的良好に残されているものであると考えられる。

これらの報告資料をすべてデータベース化するのが理想ではあるが、膨大な資料を一気にデータベース化するのは困難であるので、段階的に公開を行うことにする。

今回刊行する『全国方言談話データベース』では、まず、第一段階として、各都道府県につき1地点、計47地点の老年層男女の自然会話をを選び、その地の

伝統的方言がもっともよく現れていると思われる部分を30～50分程度データベース化した。

データベース化のためには、次のような作業が必要であった。

- ①録音テープには、正が1本、副が2本ある。正は収録したオリジナルのテープ、副は正より文字化部分のみを編集したもので、いずれも60分または90分のカセットテープである。正をデジタル化し、複製を作成する。
- ②文字化原稿には、正が1部、副が2部ある。正は、文化庁指定のB4判の用紙を使用した手書き、副は正のコピーである。正の文字化、共通語訳をパソコンにテキストデータとして入力する。この時点では、できる限り正の文字化原稿に忠実に行う。
- ③文字化原稿の収録地点、話者、収録内容、状況記録などの確認をし、その文字化原稿に対応する録音テープの録音状態などの確認を行う。
- ④今回刊行するものでは、老年層男女の自然談話のうち、各都道府県につき1地点30～50分をめやすとして、データベース化部分に選定する。
- ⑤データベース化する部分の文字化テキストと、それに対応するデジタル録音音声とを抽出する。
- ⑥音声データをもとに、文字データの明らかな誤りなどを修正する。原則としては、原資料の文字化原稿に従って行うが、見やすさを優先させたり、全体の統一を図ったりするため、必要に応じて変更を加える。この作業は、その地域の方言を専門とする研究者に依頼する。
- ⑦記号の種類と使い方、句読点、分かち書きなどについて、凡例を作成する。『全国方言談話データベース』における表記・形式は、見やすさや全体の統一のため、必要に応じて変更を加えているので、「各地方言収集緊急調査」当時のマニュアルに記載されているものとは部分的に違いが生じている。
- ⑧文字化データに沿う形で、注記を整える。原則としては原資料に従って行うが、場合に応じて最低限の変更を加える。
- ⑨収録地点の概観、方言の特色などの解説については、原則としては原資料に従って行うが、全体の統一を図るため、表記・章立てなどについて、最低限の変更を加える。
- ⑩調査の概要、収録した談話内容・地点・場所・日時などの情報、話者の性別・

年齢・職業などの情報をまとめる。

- ⑪校正を行った文字データをもとに、文字化と共通語訳を2段組に対照させたファイルを作成する。さらに、それを pdf ファイルにする。
- ⑫文字化と共通語訳を2段組に対照させたファイルを用いて、文字化の text ファイル、共通語訳の text ファイルを作成する。
- ⑬音声データは、デジタル化した後、サンプリングレート、音声ファイル形式などの調整を行い、音声 wave ファイルを作成する。そして、それを文字化と共通語訳を2段組に対照させたページに従って、ページ単位に切り、文字化・共通語訳の pdf ファイルにリンクさせる。
- ⑭CD-ROM は、データベースソフトを利用して、文字化・共通語訳の文字列による検索、話者による検索などができるようにする。
- ⑮CD には、トラックに区切った談話全体の音声を収録する。
- ⑯録音テープ・文字化原稿が所在不明の地点については、必要に応じて、現地へ赴き、収録担当者・教育委員会・図書館・関係者の協力を仰ぎながら、入手に努める。
- ⑰「各地方言収集緊急調査」の話者・収録担当者・文字化担当者・解説担当者などには、可能な限り、文書でデータ公開の通知と確認を行う。
- ⑱作成過程において、ある程度のデータが蓄積された段階で、CD-ROM、または、音声はカセットテープ・MD、文字はFDを媒体とした試作版を作成し、モニターに依頼して意見・要望を求め、データベースに反映させる。
- ⑲検索情報の整備、検索マニュアル、利用規程などの作成を行う。

『全国方言談話データベース』全20巻の各巻は、冊子、CD-ROM、CDから成り、方言談話の音声（wave ファイル）、文字化（カタカナ表記、text ファイル）、共通語訳（漢字かなまじり表記、text ファイル）、文字化・共通語訳を2段組に対照させたもの（冊子、pdf）などを収録している。従来にはあまりなかった、音声、文字化、共通語訳の電子化データを備えているので、研究や教育のために加工して、自由に検索することができるという特徴がある。

刊行にあたっては、国立国語研究所における『全国方言談話データベース』刊行物検討委員会で最終的なチェックを行った。委員長として、熊谷康雄（情

報資料部門), 委員として, 熊谷智子 (研究開発部門第二領域), 三井はるみ (研究開発部門第二領域), 井上優 (日本語教育部門第一領域), 井上文子 (情報資料部門第一領域) が担当した。

なお, 刊行計画は下記のとおりとなっている。

書名: 『国立国語研究所資料集 13-1~20 全国方言談話データベース 日本のふるさとことば集成』全20巻

各巻: 冊子 1冊 A5判 約200ページ, CD-ROM 1枚, CD 1枚

巻数	巻名	ISBN	刊行順
第1巻	北海道・青森	4-336-04361-2	15
第2巻	岩手・秋田	4-336-04362-0	16
第3巻	宮城・山形・福島	4-336-04363-9	17
第4巻	茨城・栃木	4-336-04364-7	4
第5巻	埼玉・千葉	4-336-04365-5	5
第6巻	東京・神奈川	4-336-04366-3	6
第7巻	群馬・新潟	4-336-04367-1	7
第8巻	長野・山梨・静岡	4-336-04368-X	12
第9巻	岐阜・愛知・三重	4-336-04369-8	13
第10巻	富山・石川・福井	4-336-04370-1	14
第11巻	京都・滋賀	4-336-04371-X	1
第12巻	奈良・和歌山	4-336-04372-8	2
第13巻	大阪・兵庫	4-336-04373-6	3
第14巻	鳥取・島根・岡山	4-336-04374-4	8
第15巻	広島・山口	4-336-04375-2	9
第16巻	香川・徳島	4-336-04376-0	10
第17巻	愛媛・高知	4-336-04377-9	11
第18巻	福岡・佐賀・大分	4-336-04378-7	18
第19巻	長崎・熊本・宮崎	4-336-04379-5	19
第20巻	鹿児島・沖縄	4-336-04380-9	20

国立国語研究所資料集13-4

全国方言談話データベース  
日本のふるさとことば集成

第4巻 茨城・栃木

2002年6月30日 発行

編集：国立国語研究所

〒115-8620 東京都北区西が丘3-9-14

TEL：03-3900-3111（代表）

FAX：03-3906-3530（代表）

URL：<http://www.kokken.go.jp>

---

本書の市販品発行所

発行：国書刊行会

〒174-0056 東京都板橋区志村1-13-15

TEL：03-5970-7421（代表）

FAX：03-5970-7427（営業）

URL：<http://www.kokusho.co.jp>